





無限多者ヲ用而シテ此等ノ取引ニ於テハ、十進ノ流通物ヲ用テ舊時  
ノ流通物同様に便利ナラシムルハ到底難キ事ナルニ似タリ、今其一  
理ヲ吾ハハ、十進流通物ハ之ヲ分割スルノ法唯メ一アルノミ、即チ二分  
スル事是レナリト、フリーフピット氏ハ進テ斯ク可除性ノ少キガ爲ニ非  
常ノ不便ヲ生スル事ヲ証示セリ、又論レテ曰、我(即チニウヨルク)市場ノ  
賣買及ヒ其他ノ買賣ニ於テスル取引ハ「志」及ビ「片」ヲ以テ營メリ、「志」ハ一  
「弗」ノ八分ノ一ナリ、故ニ正レク舊時ノ西班牙八分一貨ニ當値ス、革命以  
前ニ在リテニウヨルクノ地方流通一「弗」ヲ以テ八「志」ト算スルノ制ニ基  
キタリ、而シテ鑄貨ノ事ニ關シテハ聯邦政府ノ流通物定マルニ及デモ、  
一般ノ人民ハ尙ホ日常些細ノ仕拂ニ於テ、便宜ノ爲ニ缺ク可カラサル  
者トレテ舊「志」ヲ保守レ、六十年間ノ實驗ハ未タ分毫モ小額ノ仕拂ニ於  
テ、此ノ計算法ヲ固守スルノ念ヲ減セザルナリ、中加之國中全部ノ人民

ハ皆其日常ノ仕拂ニ於テ、ニウヨルクノ舊流通物ヲ用ヒントスルノ傾  
向益、強シ、足下ノ如キモ必ズニウヨルク「志」貨若クハニウヨルク六「片」貨  
ヲ以テ、貨物ノ相場ヲ足下ニ告クル者アルヲ知ラン、余ハ此ノ實驗ヲ以  
テ、瑣細ノ取引ニ於テハ十二算ノ大ニ公衆ニ便利ナル事ヲ十分ニ証明  
スルノ効力アル者トスルナリ、此ノ如ク人民カ現實ニ感スル所ノ便利  
ハ、是レ即チ六十年間公衆ヲシテ之ヲ追慕セシメタルノ理由ナル事疑  
ヲ容レズ、中余ノ見ル所ヲ以テスレバ、「志」貨ノ廢絶スルニ至ルノ日アル  
ベキヲ知ラザルナリ、只々歲月ノ久シキ益、之ヲシテ吾人ノ習慣ニ固著  
セシメタルノ勢アルノミ、故ニ余ハ數年ナラズレテ國會ノ人民普通ノ  
感情ニ支配セラレ、人民ノ便利ト幸福トヲ觀察シ、ニウヨルク「志」貨及ビ  
六「片」貨ヲ以テ一「弗」ノ八分一、及ビ十六分一ニ當値スル公定ノ鑄貨ト爲  
シ、造幣處ヨリ之ニ對スル鑄貨ヲ發行スルニ至ルベキヲ信ズルナリト、



立法州會ノ委員ハ一弗ハ八分一及ビ十六分一ヲ代表スル鑄貨ノ項細ナル取引ニ於テ必要ナル旨ヲ報告シヨリ、而シテ此等ノ鑄貨ハ全ク十進法ニ背馳スル者ナリ

五十五節 佛國ニ於テ鑄貨ノ十進制度ヲ實行スルハ、之ヲ自餘一切ノ國ニ於テ採用スルニ比スレバ太々容易ナル者アリ、元來佛國ノ鑄貨ハ西歐諸國ノ鑄貨制度ノ如ク、リール即チフランクス、ソール及ビデニエルニ分ケタル者ナレド、リール即チフランクハ漸次虧退シテ終ニ十片ノ下ニ出テ、ソールハ半片ト價格ヲ等シタレ、デニエルハ實際鑄貨トシテ流通スル事全ク無キニ至リタリ、故ニ實際有要ノ鑄貨ヲ爲シタルハ、フランク、ソールノ二者ニ過キズ、此ノ時ニ當テ「ソール」ヲ改メテ五センチムト爲セバ、則以テ十進ノ制ヲ實行スルニ足リタリ、此ノ改正

ハ甚ダ小事ナレド、之ヲ實行スル事極メテ徐徐ニシテ、現時ト雖モ尙ホ未タ完了ニ至ラスト謂フ可シ、リールノ名稱ハ既ニ廢止セラレタリ、サレド、フランクノ名稱ハ尙ホ存ス、之ヲ五グラムスト爲サンニハ、其量目ニ八十分ノ一ヲ増加セン事ヲ要ス、此ノ増加ハ甚ダ僅少ナル事ノ如クナレド、大ナル混亂ヲ生シタリ、博士グレイ氏曰、爾來五十年ヲ經過シタル今日ト雖モ、佛國一般ニ計算ニ於テ之ヲ採用セス、況ヤ日常瑣細ノ取引ニ於テヲヤ、舊リール貨ノ流通上ニ留存スル以上ハ、フランクヲ以テ仕拂フベキ處ニ之ヲ通用スル毎ニ絶エズ爭論ノ原因ト爲レリ、何トナレバ孰レノ一方ニ於テナリトモ損失ヲ蒙ラサルヲ得サル事論ヲ察ス、而シテ此ノ差額ニ當ルベキ一種ノ鑄貨ノ存セザレバナリ、故ニ其爭ハ往往弱者ヨリニ「センチム」即チ「リール」ニ就キ、八十分ノ一ヲ改メシテ五十分ノ一ヲ與フルニ至テ始メテ止ムナリ、又「センチム」貨



ハ甚ク僅少カリシヲ以テ、リールトソールトヲ合シテフラン  
クヲ代奉ルルモ、故ニ之ヲ受クル者ハ舊貨ニ比シテ新貨ノ真價ノ  
外ニ、百々付キ三箇四分ノ三ノ餘分ヲ得タリト博士グレイ氏又曰、現今  
ト雖モ地方ニ於テハ尙ホリール及ピデニエルヲ以テ計算ス  
ル者往往之有リ、而シテパリニ在テモ、尋常瑣細ノ貨物ノ價銀ハ大抵ソ  
ウヲ以テ稱呼セリ、ガリニアノメス、センシエルハ十ツウト記シ  
テ、五十センチム又ハ五デシームト記セザルナリ、千八百五十六年ニ  
至リ布令ヲ發シ市街ニ於テソウヲ以テ物品ノ價銀ヲ呼ビ廻ル事ヲ禁  
シタリト云フ、サレバ此ノ時小事ニ關シテモ、人民ノ舊習ハ久シク存シ  
テ有力ナル政府ノ施政ニ抵抗シタルナリ

五十六節 佛國政府ハ千七百九十三年ヲ以テ十進制度ヲサルヂニヤ

ノ貨幣ノ上ニ實施シタリ、而シテリールノ價格ヲ減シテフランクト同  
一ナラシメ、舊ノピードモント人ノリール貨一百箇ヲ以テ新リール即  
チフランクノ百十八箇ノ四分ニ鑄造シタリ、サレバサルヂニヤノ鑄貨ハ  
現時全ク佛國ノ鑄貨ニ異ナル所無ク、二國ノ鑄貨ハ其孰レニ於テモ自  
由ニ流通セリ、此ノ改正ハ佛蘭西帝國ノ政治ノ時ヲ云フ、拿破後  
ト雖モ、再興王室ハ之ヲ繼續シテ革メザリキ、千八百十六年八月十二日、  
及ビ九月七日ノ公布、及ビ千八百二十年十二月四日、及ビ九日ノ公布ヲ  
以テ新リールヲ通用貨幣ト制定シ、一切ノ約定ハ此ノ貨幣ヲ以テ取極  
ムルレト令シタリ、千八百二十七年ニ至リ、此ノ制度ヲゼノワ侯領ニ及  
ボシ、千八百四十三年ニハ之ヲサルヂニヤ島ニ及ボシタリ、而シテ伊太  
利ノ合併以來ハ佛國ノ鑄貨制度ヲ該國一般ニ實行スル事トナリヌ



五十七節 佛國政府ハ千八百零三年ヲ以テ十進法ヲ伯耳義ニ行ヒタ  
見、而シテ千八百十六年ニ至リ、一時ハ和蘭ノ十進法ヲ採用シテ佛國ノ  
制度ヲ廢止シ、リンドガ千八百三十二年ニ至リ之ヲ再興シタリ、千八百  
三年以前ハハ四種ノ鑄貨制度ノ合法ナル者アリヌ、即チ二十「スチル」  
「グ」ヲ以テ「フレ」ミ「グ」ノ「ソ」ー「ブル」トシ、十二「グ」ロスヲ以テ「スチル  
「リ」グトシ、八「ペンニ「エ」ン」ヲ以テ「グ」ロストシ、三「マイ」テシヲ以テ「一  
「ペンニ「エ」ン」トスル者是レナリ、此ノ貨幣ハ主トシテ、外國爲替ノ計算  
〔執〕中爲替ニ對スル爲替ニ之ヲ用ヒタルモノニシテ、近ク千八百四十三  
年ニ至ルマデ行ハレタリ、豪商ノ家ニ於テハ「フロ」リン又以テ計算ヲ爲  
シタリ、即チ「一」フロ「リン」ハ之ヲ二十「ソ」ルニ分チ、「一」ソ「ル」ハ之ヲ十六「デ」ニ  
「エ」ルニ分チタルモノナリ、ア「ム」ス「テ」ル「ダ」ム及ビ「ハ」ム「ブル」グニ對スル爲  
替ニ於テモ此ノ貨幣ヲ用ヒタリ、フ「ラ」バ「ント」ノ「フ」ロ「リン」ハ二十「ソ」ルヲ

以テ爲リ、「一」ソ「ル」ハ十二「デ」ニ「エ」ルヲ以テ爲レル者ニシテ、是レ即チ日常  
ノ取引ニ用ヒタル貨幣ナリ、而シテ政府ノ計算ハ「リ」ー「ブル」ソ「ール」ノ「ワ」  
ヲ以テ之ヲ爲シ、佛ノ二十「ソ」ルヲ以テ「一」リ「ー」ブルト爲シ、十二「デ」ニ「エ」ル  
ヲ以テ「ソ」ルト爲シタリ、此ノ如キ紛雜ナル制度ニ易フルニ佛國一様ノ  
制度ヲ以テスルハ、大ナル利益アル事ナリシヤ疑ヲ容レズ、然レモ此ノ  
如キ場合ニ於テモ、尙ホ人民ノ習慣ヲ改メンガ爲ニハ數多ノ歲月ヲ要  
シタルヲ見ル可キナリ、都會ノ高等ナル商家ニ在テハ「フ」ラ「ン」ク及ビ「セ」  
「ン」チ「ー」ムヲ以テ計算ヲ爲セリ、然レモ「フ」ラ「バ」ント「ギ」ルド「ル」貨及ビ「ド」ル  
「ー」ブル「貨」ニ依ル舊時ノ分割法ハ、今尙ホ小買及ビ店商ノ間ニ行ハレ、  
等ヲ代表スルノ鑄貨ハ、既ニ世ニ無キヤ久シト雖モ依然トシテ改メサ  
レナリ、サ「レ」バ「伯」耳「義」ノ人民ハ、常ニ舊新貨幣ノ割合表ヲ携帯スルヤ必  
要トセリ



五十八節、千八百四十八年以前ニ在リテ、瑞士ノ鑄幣ハ驚ク可キ紛雜ヲ極メタリ、各郡縣ハ自ラ貨幣ヲ鑄造シテ之ヲ用ヒ、此ノ貨幣ハ他ノ郡縣ニ至レバ流通セズ、佛蘭西及ビ日耳曼ヨリ數多ノ鑄貨流入シ、種種ノ名稱ヲ以テ流通シタリ、千八百四十八年ノ聯邦憲典ハ、郡縣ニ於テ貨幣ヲ鑄造スルノ權ヲ奪ヒ、之ヲ以テ聯邦政府ノ管理ニ歸シテ其改正ヲ企圖シタリ、千八百五十年ニ至リ、聯邦政府ノ鑄貨ニ關スル新法ノ公布アリ、千八百五十一年、及ヒ千八百五十二年ヲ以テ實行ノ運ニ至リヌ、時ニ計算并ニ通用ノ貨幣ハ、佛蘭西ノ制度ニ模倣シ、舊貨ハ悉ク之ヲ引キ揚ゲテ鑄解シタリ、此ノ改正ノ利益ノ極メテ大ナリシ事ハ、トリメル氏ヨリ「十進鑄幣委員」ニ呈シタル答書ニ依テ明白ナリ、其書ニ曰「千八百五十年以前ニ在リテ、瑞士國中ニ通用セシ貨幣ハ日耳曼ノ諸種ノ、弗貨、日耳曼

ノ、フロリン、貨塊、多利ノ、ツワシチ、ダグ、貨、佛蘭西ノ五、フランク、貨、並ニ以上各種ニ附屬スル小貨、及ビ凡ソ百六十種ノ瑞士貨幣ナリキ、而シテ各種貨幣ノ公定價格ハ郡縣ニ依テ差同アリ、且ツ通用價格ハ到處公定價格ト相違シタリ、故ニ此ノ改正アルヤ同一ノ鑄貨ヲシテ佛蘭西、伯耳、義、瑞士及ヒ伊太利ニ流通セシムルニ至リタルカ爲ニ、旅客ニ取リテハ甚ク便利ナルナリ

五十九節、兩西里王國ノ未ダ亡ビザルヤ、シユカットヲ以テ一位ト爲スノ幣制アリ、之ヲ十、カルリノニ分チ、一、カルリノヲ十、ダレインニ分チ、一、ダレインヲ十、カクニ分ケタリ、然レモ諸般ノ計算ハ唯ク「ヂユカット」及ビ「ダレイン」ノモヲ以テ之ヲ爲セタリ、而シテ「ヂユカット」貨ハ甚ダ稀少ナリ、ヲ以テ、一般ノ仕拂ハ之ヲネーブルスノ、弗貨ヲ以テ爲シタ



是レ十二「カル」ノ即チ百二十七「グレイ」ニ當値スル者ナリ、故ニ余輩  
 ハ此ニ於テ十二算鑄貨ト十進法ト計算トノ混合セル奇異ナル一例ヲ  
 見ルナリ、何トナレバ流通ノ鑄貨ハ十二「カル」ノ即チ百二十「グレイ」  
 ノ「弗」貨ト、六「カル」ノ即チ六十「グレイ」ノ半「弗」貨ト、四「カル」ノ  
 「三」ノ「二」「カル」ノ「二」「カル」ノ「及」半「カル」ノ貨トナレバナリ、銅貨ハ半  
 「カル」ノ「四」「グレイ」ノ「三」「グレイ」ノ「二」半「グレイ」ノ「二」半「グレイ」  
 「及」半「グレイ」ニシテ普流ニ之ヲ用ヒタリ  
 是レ余輩ガ前ニ述ヘタル論旨ノ顯著ニシテ有力ナル實例ナリ、即チ鑄  
 貨ノ一位ニシテ大ナルハ必然實際ノ便利ノ爲ニ十二算法ヲ望ムニ  
 至ル事是レナリ、其例ハ全ク米國ニ於テ實驗シタル所ニ同シ

六十節 子セルランドモ亦他ノ諸國ト同シク貨幣上太シキ紛亂ニ苦

ミタリ、蓋シ全體ノ基本ト爲シタル所ノ者ハ「フロリン」ニシテ、二十「レ」チ  
 「ブル」ヲ含ミタリ、即チ英國ノ二十「片」ナリ、而シテ千八百二十一年ニ至  
 リテ、此ノ鑄貨ヲ一位トシテ之ヲ「仙」及「ビ半」ニ分チタリ、此ノ場合ニ於  
 テノ改正ハ甚ダ容易ナリレヲ見ル、何トナレバ「スチーブル」ハ「フセリン」  
 ノ二十分ノ一ナルヲ以テ、之ヲ革ムルハ唯ダ「佛」國ニ於ケルガ如ク、之ヲ  
 五「仙」ト稱スルニ止マリタレバナリ、故ニ新ニ事ヲ起スニ在ラズシテ唯  
 ダ舊貨ノ一種ヲ廢スルノミヲ以テ足レリトセシナリ

六十一節 葡萄牙ハ支那ノ如ク最下ノ一位ヲ有スルノ國ナリ、而シテ  
 一切ノ貨幣ハ此ノ一位ノ乘數ナリ、葡萄牙ノ一位ハ「レイ」ニシテ英國ノ  
 一「片」ノ七十五分ノ四ニ當レリ、最小鑄貨ヲ五「レイ」トス、是レ一「片」ノ十五  
 分ノ四ナリ、而シテ計算ノ貨幣ハ悉ク皆「レイ」ノ乘數ナリト雖モ、貨幣ノ



鑄造の則然ラズ、鑄貨ハ四千八百レイニ相當スル「モイドール」四百レイニ相當スル「クルサド」四百八十七レイニ相當スル「新クルサド」即チ「ピシ」千二百レイニ相當スル「クワルチン」百三十レイニ相當スル「テスプー」と及ヒ二十レイニ相當スル「ウインテム」ヨリ成立レタリ、然レモ此ノ幣制ハ既ニ全ク廢セラレ、皆今ハ十進貨幣ヲ用フ、此ノ改正ハ千八百五十七年ニ行ハレタル者ナリ

六十二節 露士亞ニ於テハ銀「ルーブル」ヲ以テ本位ト爲ス、是レ英ノ三十七片乃至三十九片ニ當値スル者ナリ、之ヲ百「コペツク」ニ分チ、「コペツク」ヲ二分レ且ツ四分ス、銀「ルーブル」ハ千八百四十年ニ於テ貨幣ノ一位ト定ムル所ナリ、當時露國ニ於テ紙製流通物ノ虧退甚クシク、爲ニ同國ノ一位ヲシテ下落セシメタルニ當リ、「ルーブル」ノ銀券ニ換ヘテ之ヲ

立テタル者ナリ、銀「ルーブル」ハ紙「ルーブル」ノ三枚半ニ當値シタリ、然レモ後者ヲ分割スルノ法ハ銀「ルーブル」ニ於ケルト同ナリキ、是レ亦二分法ノ「仙」以下ニ必要ナル事ヲ知ルニ足レリ

六十三節 希臘ニ於テハ「ドラクマ」ヲ以テ一位トス、是レ大約英貨ノ八四分「片」ニ當値スル者ナリ、之ヲ百「レプタ」ニ分ツ、是レ「プアーチング」ノ三分ノ一ニ當値セリ、然レモ「ドラクマ」ハ想像ノ鑄貨ニシテ、外國ノ金銀貨幣ヲ一定ノ價格ニ準シテ通用スルナリ、希臘固有ノ唯一ノ鑄貨ハ銅製ナリ、故ニ計算ハ十進ノ法ニ依ルト雖モ、其實十進ノ貨幣ハ存セス、只「ドラクマ」貨半「ドラクマ」貨、及ヒ四半「ドラクマ」貨ヲ實在スル者ト想像スルノミ、サレバ是レ亦二分法ノ實際ニ行ハル、ノ一例ナリ



六十四節 以上ハ計算並ニ幣制ニ關シ、現時實行スル所ノ十進制度ノ例証ナリ、而レテ此等ノ例証ハ我國ノ幣制ヲ十進ニ改正スルノ利害得失ニ係ル緊要ナル問題ノ上ニ多ク光明ヲ放ツノ徳アリト信ズ、サテ十進制度ニ於テ取ル所ノ一位ニレテ最モ高キニ居ル者ヲ米國ノ「弗貨トス、即チ名目上ニ於テハ「ダイム」「仙」及ビ「ミル」ニ分割スル所ナリ、然リト雖モ實際上ニ於テ計算ニ用フル貨幣ハ唯「弗」ト「仙」トノ外ニ出テズ、次ニ高キ者ヲ「オーブル」スノ「ヂュカット」即チ英ノ四十一「片」半ニ當ル者トス、是レ亦名目上ニ於テハ十分ノ一、百分ノ一、及ビ千分ノ一ニ分割スル所ナリト雖モ、實際上ニ於テハ唯「ヂュカット」「グレーン」トノミヲ以テ計算ヲ爲スモノニレテ、幣制ハ全ク十二算法ニ依レリ、次ニ高キ一位ヲ「露國」ノ「ルーブル」トス、是レ大略三十八「片」ニ當リテ、名目上並ニ實際上ニ於テ百「コペツク」ニ分割スル所ナリ、然レモ「コペツク」ハ之ヲ二分ノ一、及

ビ四分ノ一ニ分割ス

其次ニ立ツ者ハ「チセルランド」ナリ、其一位ノ英ノ二十「片」ニ當ル者ヲ「仙」ニ分割シ、更ニ之ヲ半「仙」ニ分割ス、其次ニ「佛蘭西」「瑞士」「伯耳義」及ビ「伊太利」ノ一位アリ、殆ド英ノ十「片」ニ當レリ、名目上ニ於テハ「デシム」「センチム」及ビ「ミリエム」ニ分割スト雖モ、實際上ニ於テハ唯「フランク」及ビ「仙」アルノミナリ、是ニ於テ「センチム」ハ遙ニ常用ノ下ニ出ツル貨幣ニレテ、更ニ之ヲ分割スルノ機會ヲ見ズ、而レテ商業上ノ取引ニ於テモ果シテ然ルヤ否ヤハ余輩ノ未ダ詳ニセザル所ナリ、其次ニ立ツ者ハ希臘ノ一位ニレテ、是レ亦百個ニ分割スル所ノ者ナリ、而レテ最後ニ位スル者ハ「葡萄牙」ノ一位トス、是レ尋常ノ取引ニ用ユル額ノ下ニ位スルヲ以テ更ニ分割ヲ要セザル所ナリ、總ヘテ此等ノ幣制ニ依テ見レバ、人民ハ實際ノ計算ニ於テ「仙」以下ニ進ム事ヲ嫌フ者ナリ、是ヲ以テ「仙」ヲ以テ鑄幣ノ極



度下爲不可ク若シ其下ニ進ムトキハ、必ズ十進除算ヲ避ケテ、三分ノ一ヲ採ル者ナリ、此ノ事ヤ一位ノ高キニ居ル處ニ於テ愈々明白ナリ

六十五節 我カ國ノ鑄貨及ヒ計算法ヲ十進ニスルノ問題ハ既ニ數回ノ討論ヲ經タル所ナリ、千八百十六年ニ於テ、現在ノ者ニ比スレバ更ニ一様ナル量目、及ヒ尺度ノ制度ヲ立ツルコトヲ得可キヤ否ヤヲ調査スル事ヲ委員ニ命ジタルニ、委員ハ現存スル度量分割ノ法ハ、一切ノ實際ノ目的ノ爲ニ十ヲ以テ進退スル者ヨリモ遙ニ便宜ナリトスル旨ヲ報告シタリ、千八百二十四年ニ於テ、ソルジモン、ロツテヤレイ氏(後ニロルト爲ル)ハ我カ國ノ鑄貨ニ十進法ヲ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ調査ス可シトノ議ヲ下院ニ提出シタリ、而シテ氏ノ計畫ハ磅、二志、及ヒピア、アーシングノ價格ノ四歩ヲ減少スルニ在リタリ、即チ磅、及ヒミルノ方

案ト稱シテ世ニ知ラル、者是レナリ、然レ而此ノ方案ハ退ケラレタリ、其後英吉利及ヒ愛爾蘭流通物一致ノ事アリ、降テ千八百三十四年ニ至リ、上下兩院燒失ノ事アリテ度量ノ本位紛失シ、千八百三十八年ニ至リテ、大司天 エイラー、ロヤル、ツサイナーノ會長 フランシス、ベイレイ、ゼイ、ドリク、ウー、トル、ベゼーン、パロ、子、ツト、ソル、ゼ、ダブ、リウ、エフ、ヘル、シ、エ、ル、ツル、ゼイ、シ、レヨ、ウ、レフ、ヒ、ウル、パ、ロ、子、ツト、ツル、ゼ、ダブ、リウ、ウル、ポ、ツク、エ、リ、ノ、僧、官、ベ、リ、レ、ベ、レ、ント、シ、ヨ、ール、ヂ、ビー、コ、ツク、天、文、博、士、ラウ、ン、デ、ーン、及、ビ、レ、ベ、レ、ント、アル、シ、ープ、シ、ヤ、ン、クス、ノ、諸、氏、ハ、委、員、ニ、命、セ、ラ、レ、タ、リ、皆、理、學、ニ、於、テ、ハ、屈、指、ノ、大、家、ナ、リ、然、レ、而、商、業、ノ、實、際、ニ、就、テ、經、驗、ア、ル、人、ハ、一、名、モ、無、キ、ナ、リ、此、ノ、委、員、ハ、千、八、百、四、十、一、年、ヲ、以、テ、ソ、ル、シ、ヨ、ン、ロ、タ、テ、ス、レ、イ、氏、カ、既、ニ、主、張、シ、タル、所、ノ、方、案、ヲ、以、テ、貨、幣、ヲ、十、進、ニ、爲、ス、ル、策、ヲ、最、モ、讚、美、ス、ル、旨、ヲ、報、告、シ、タ、リ、尋、テ、千、八、百、四、十、三、年、ニ、至、リ、第、二



ノ委員ヲ任命セタリ、其中ニ於テ前ニモ委員タリシハ、大司天タルジョ、シ、ヘル、エ、ル、ツ、ル、セ、シ、エ、ス、フ、ヘ、ウ、ベ、ル、ツ、ル、セ、ダ、ブ、リ、ウ、ル、ボ、ウ、ク、エ、イ、リ、ト、ノ、僧、官、及、ビ、シ、ー、プ、サ、ン、ク、ス、氏、ナ、リ、ト、ス、而、シ、テ、今、始、メ、テ、加、フ、ル、所ノ人名ハ、ノ、ル、サ、ム、フ、ト、ン、侯、ロ、ヤ、ル、フ、サ、イ、チ、ー、ノ、會、頭、ロ、ー、セ、ス、伯、ロ、ル、ド、ロ、ウ、ア、ス、レ、イ、及、ビ、博、士、ヨ、ル、レ、ル、ノ、諸、氏、ナ、リ、此、ノ、委、員、ハ、從、前、ノ、如、ク全ク學士ヨリ成レル者ニシテ、全ク前ノ委員ノ報告ニ同意シ其可トスル所ヲ實行セン事ヲ促シタリ

六十六節 千八百四十七年四月廿四日ニ於テ、ツ、ル、シ、ヨ、ン、ホ、ー、リ、ン、グ氏ハ銅貨ノ十進分割法ヲ此ノ國ニ實行センガ爲ニ「磅」ステルリングノ十分ノ一、及ビ百分ノ一ノ價格ヲ有スル銀貨ヲ鑄造シ、且ツ發行スルノ事ニ關シ、王室ニ忠告スルノ議ヲ下院ニ發シタリ、而シテ此ノ動議ハ出

納局長ガ試ニ「磅」ノ十分ノ一ノ價格アル貨幣ヲ鑄造スベシトノ約ヲ爲スニ及テ取消サレタリ、此ノ約ハ實施シテ新鑄スル所ノ貨幣ヲ「フロ」リント稱ス、今一般ニ行ハル、者即チ是レナリ

六十七節 銅貨鑄造ノ事將ニ實行セラレントストノ風聞アルヤ、千八百四十三年ノ委員ハ、千八百五十三年三月二十六日ヲ以テ當時出納局長タリ、ン、グ、ラ、ツ、ト、ス、ト、ー、ン氏ニ書ヲ送リテ、此ノ銅貨ハ須ラク現時ノ「フ、ア、ー、シ、ン、グ」半片及ビ片ノ内百分ノ四ヲ減シテ「磅」ノ千分ノ一、千分ノ二、及ビ千分ノ四ト爲シ、以テ十進ノ制度ヲ採用スルノ策ト爲スベシト論ジタリ、ダ、ラ、ウ、ド、ス、ト、ー、ン氏ハ四月五日下院ニ於テ、十進ノ等級ニ從ヒ銅貨ヲ鑄造シ、以テ十進ノ制度ヲ立ツルハ政府ノ企ツル所ナリヤ否ヤトノ質問ヲ受ケ、之ニ答テ曰、政府ニ於テハ敢テ銅貨ニ改正ヲ行ハ



シトスルノ意無シ然レモ此ノ事タル重大ナルヲ以テ政府ニ於テ下院ノ議員ノ一名ヲシテ委員任命ノ動議ヲ爲サシメテ之ヲ賛成セント欲スルモノナリト是ニ於テ四月十二日ヲ以テランカシューヤノ代議士ダフリウゾローン氏ノ發議ニ因テ貨幣十進制度ヲ實行スルノ便否ヲ調査シ報告セシメンガ爲ニ委員ヲ任命シタリ

六十八節 此ノ委員ハ二十五ノ証據人ニ諮問シタリ是レ皆鑄貨ノ十進制度ヲ便利トスル者ナルカ故ニ前ノ委員ノ計畫ニ係リ稱シテ「磅」及「ピ」ニ「ミル」ノ制度ト曰フ所ノ者ヲ讚美シタリ唯タニウカストルノ代議士ヘツドラム氏ノ四分ノ一「片」ヲ以テ貨幣ノ一位ト爲シ自餘ノ正貨ヲシテ此ノ一位ノ乘數ヲラシムルノ方法ヲ切ニ主張スルアリタルノミ此ノ方法ニ據レバ「磅」ニ「ステル」リ「ング」ハ「一」磅「十」片ニ當値スルナリ委員ハ終

ニ八月一日ニ於テ報告ヲ呈シ「磅」及「ピ」ニ「ミル」ノ制度ノ採用ヲ熱心ニ主張シ「半」クローン「貨」三「片」貨及「ピ」四「片」貨ヲ廢シテ「一」「二」及「ピ」三「ミル」ノ銅貨並ニ「十」「ミル」及「ピ」二十「ミル」ノ銀貨ヲ發行セン事ヲ勸告シタリ

六十九節 「委員」ノ報告ハ例ノ如ク新聞紙及「ピ」公衆ノ間ニ非常ノ沸騰ヲ生シ尋テ數多ノ小冊子ノ發兌ヲ誘起シタリ然ルニ十進制度ヲ熱心ニ主張スル者ノ間ニ於テモ亦甚シク意見ヲ異ニスル者アル事直ニ現然タルニ至リ各相異ナル計畫ヲ提出スル者十一種ヲ下タラズ此等ノ計畫ハ何レモ現時ノ或ル一種ノ鑄貨ヲ基本トシテ十進ノ制度ヲ立テントスル者ニシテ互ニ其反對論ヲ強ク駁撃シ自說ノ行ハレザル以上ハ寧ロ現時ノ制度ヲ行フニ如カズト言ヒタリ斯ク相異ナル方策ノ數多發出セシガ爲ニ此ノ疑問ニ非常ノ混雜ヲ加ヘタリ而シテ千八百五



十五年ニ於テ、下院ハ百三十五人ニ對スル五十六人ノ反對ヲ以テ十進制度ノ主義ヲ更ニ擴張スルノ決議ヲ經タリ、然レモ最後ノ決議ニ至ル前ニ、政府ハ此ノ事ヲ舉テロルトモントイーグル、ロルトヲバルストー  
ン及ビゼ、ジ、ハツペルト氏ヨリ成リ立ツ委員ニ囑托シタリ、此ノ委員ハ千八百五十七年四月ニ於テ、全員記名ノ第一報告ヲ呈シタリ、時ニ此ノ委員ハ「磅」及ビ「ミル」ノ制度ニ反對スル証據人ヲ徵シテ其説ヲ聞キ、更ニ十進制度ノ現ニ行ハル、外國ニ住居スル有名ナル紳士ニ數多ノ問題書ヲ送テ意見ヲ質シタリ、又ロルトヲバルストー氏ハ現時ノ鑄幣制度ニ存スル便益ト、十進制度ヲ採用スル事ニ附著スルトセラレタル困難、及ヒ幣害トヲ一一明瞭ニ查察スルノ目的ヲ以テ數條ノ問題ヲ設ケタリ

七十節 此ノ委員ニ供シタル所ノ証據ト、外國ニ於テ實踐シタル經驗ト、ロルトヲバルストー氏ノ質問ニ對スル答書トハ、共ニ合シテ大ニ此ノ問題ノ面目ヲ改メ、終ニ英國ノ貨幣ヲ十進ニ爲スノ議ヲ廢止スルニ決セシメタルノ効力アリト謂フ可シ、而シテロルトモントイーグルハ委員ヲ辭シタルヲ以テ、千八百五十九年四月五日ニ最後ノ報告ヲ呈スルニ及テ、之ニ記名スル者ハ唯タロルトヲバルストーントハツバルド氏ノミナリキ、此ノ二氏カ共ニ違シタル決議ノ主意ハ左ノ如シ、曰凡ニ十進制度ヲ採用シタル外國ノ實例ハ、余輩ニ教訓警戒ヲ與フル者極メテ多シ、然レモ我カ國ノ事情ハ甚ダ異ナルカ爲ニ、此等ノ實例ニ準據スル事未タ安全ナリトセズ、曰商人ノ如キモ其他ノ諸人ト同シク、之カ利害ニ關シテ互ニ大ニ其説ヲ異ニセリ、曰理論上ヨリ十進制度ノ功用何如ヲ觀察スルモ、到底有用ナル結果ヲ得ル事難シ、而シテ之ヲ實際ニ



施サシカ爲ニ主張スル所ノ諸種ノ計畫ニハ、何レモ特別固有ノ幣害ノ附著セザルハ無シ、曰「片」ノ制度ハ「磅」及ビ「ミル」ノ制度ニ比スレバ數多ノ利益ヲ有セリ、然リト雖モ公衆ノ心情ヲ察スルニ、「磅」ノ制度ハ決シテ動カス可カラザル者アリ、曰「磅」及ビ「ミル」ノ制度ニ至リテハ計算上便利アルガ如シ、但シ其便利ノ大小ニ關シテハ諸説大ニ異ナリ、曰「鑄貨」ノ上ヨリ論シテモ、小買若クハ市場ノ取引、及ビ一般ノ心算ニ關シテハ、現時ノ制度コソ遙ニ其他ノ制度ニ勝レリ、曰「磅」及ビ「ミル」ノ制度ハ確然タル改良ノ制度ト看做スニ足ラズ、唯ダ利害ノ疑ハシキ試験ト看做スベキノミ、而シテ今之ヲ採用セントスルニ臨テハ、一ハ從來ノ慣行、及ビ風習ヲ變改スル事ニ關スル無形ノ難事アリ、一ハ舊貨幣ト新貨幣トヲ相互交換シ難キ事ヨリ起ル有形ノ難事アリ、爲ニ其目的ヲ達スルニ至ルマテデニ數多ノ妨害アリ、曰「十進鑄幣制度」ニ屬スル利益ハ單ニ當今「公債局」、

及ビ主要ナル「保險會社」ニ於テ實行スル所ノ慣例ヲ擴充スルノミニシテ貨幣ヲ改鑄スル事無シニ收メ得可キ所ナリ、曰「現時ノ事情ヨリ論スレバ、獨リ鑄貨ノミノ上ニ新主義ヲ實施シテ、從來ノ慣習ヲ混亂スルハ決シテ望マシキ事ニ非ズト」

七十一節 以上ハ兩名ノ委員ガ共ニ主持セシ所ノ決論ノ大要ナリ、而シテ「ロルド」ヲ「バー」ストーン氏ハ委員ガ得タル所ノ證據ヲ精密ニ論究シ、公平無私ノ考察ヲ以テ各様ノ制度ニ存スル所ノ利害得失ヲ計較シタリ、蓋シ其論タルヤ此ノ問題ニ關スル一切ノ諸點ヲ明瞭ニ論究シテ到ラサル所無キヲ以テ、又此ノ問題ニ關シテ爭論ヲ入ル可キノ餘地ヲ殘サスト謂ヒテ可ナラン

此ノ研究ノ結果ハ更ニ「萬國普通貨幣」ヲ立ツルノ成否ヲ決スルノ效力



有リタリ、余輩ハ既ニ實際大英ノ貨幣ヲ變改スルコトノ行フ可カラザルヲ見タリ、之ヲ以テ推スルハ、業已ニ佛國制度ニ慣レテ之ヲ便利ト認メタル歐洲諸國ヲシテ、其貨幣制度ヲ改メテ我カ制度ニ倣フニ至ラシムルハ固ヨリ望ム可キ所ニ非ラザルナリ、抑々輓近ニ至リ一新元素ノ此ノ問題ニ關シテ發スルモノ有リ、昔埃及ヒ日佛ノ近年ノ戰爭以前ニ在テ、日爾曼ノ各洲ノ貨幣ハ大ニ混亂シタリ、而シテ若シ此ノ有様ニ放任シテラシムニハ、彼等ハ漸次佛國ノ制度ヲ用フルニ至ルベカリシニ、日爾曼ハ今ヤ一大帝國ヲ結成シ、特別ノ貨幣ヲ得ン事ヲ企ツルニ至リタリ、而シテ其採ル所ノ制度ノ巨細ハ未決ニ屬スト信ズト雖モ、其必ス佛國ノ制度ニ倣ハザルヤ知ル可キナリ、思フニ必ズ二十「マー」クノ金貨ヲ發行セン歟、然ラバ則我カ英國ノ「ソ」フエレイント正シク同價ナル者ニシテ、「マー」クハ我カ「志」ニ均シカルベキナリ

第七章

信約の理論

○緒言

- 第一項 信約の性質の討究
- 第二項 信約即ち負債の譲移
- 第三項 信約の界限及び消滅
- 第四項 商業上の信約
- 第五項 銀行の理論
- 第六項 土地抵當銀行



○緒言

余輩ハ今近世商業ノ大奇觀タル「信約」ノ大項ヲ講究スルノ地位ニ達レ  
 タリ、蓋シ「信約」ノ商業ニ於ケルハ猶ホ蒸汽機關ノ器械ニ於ケルカ如ク、  
 微分積分ノ數學ニ於ケルガ如キナリ  
 前篇ニ於テ既ニ價格ノ當初ノ標準ヲ爲ス者タル「鑄幣」ノ理論ヲ討究セ  
 リ、然レ此ノ國及ヒ二三ノ外國ニ於テハ「信約」ナル者出テ、大ニ「貨幣」  
 ノ「交易」ノ媒介「メ」ルノ用ヲ代辨スルニ至リタリ、而シテ其使用ノ極メテ  
 盛ナル迄ニ世上一般人ノ想像ノ及ハザル所ニ在リ、故ニ今「物價」ノ「理論」  
 ヲ理會セントスルニ當テハ、先ツ「信約」ノ編制ニ通曉スルノ必要ナル事、  
 猶ホ生産ノ現象ヲ理會セントスルニ當テハ、先ツ器械ノ効力ヲ講究ス  
 ルノ必要ナル事如シ  
 商業及ビ商法ノ最モ緊要ノ一科タル「信約」ノ事ヲ正當ニ理會センガ爲

ニハ「負債」ノ起源、賣買即チ讓移、及ビ消滅ニ關スル「羅馬法」ノ歴史ヲ簡明  
 ニ述フルヲ必要トス、蓋シ「羅馬法」ハ元來「負債」ノ讓移ニ關シテ、英國現時  
 ノ「普通法」ト全ク同一ノ原理ヲ以テ起リシ者ナレバナリ、而シテ數百年  
 ヲ經過スルノ際、連綿輩出セシ數多ノ有名ナル法律學士ノ修正ヲ得テ、  
 終ニ簡單明備ノ有様ニ達シ、第六世紀ノ初ニ當テ、シヤステニヤンノ制  
 定ヲ經テ一個ノ法律ト爲リタリ、且ツ此等ノ原理ハ第十世紀ニ至リ、バ  
 シリヤン家ノ治世ニ公布セラレタル「バシリカ」ト稱スル「改正法典」ニ於  
 テモ亦採用シ認定スル所ト爲リヌ、此ノ法典ハ是レ後世ノ遵奉スル所  
 ノ者ナリ、故ニ「信約」ノ事ニ關スル「シヤステニヤン」ノ法典ハ英國ヲ除キ、  
 其他之ニ特殊ノ改正ヲ加ヘタル諸國ヲ除キテ、歐洲ノ全部ノ「普通商法」  
 ト爲リタル者ナリ  
 「負債」ノ讓移ニ關スル英國ノ「普通法」ハ在昔羅馬人ガ丕烈類ヲ退去セシ



時ニ歴々羅馬ノ法律ノ有様ヲ其儘傳ヘテ今日ニ至レル者ナリ、即チケ  
 イヤスノ「教授書」ニ見エタル者ト同一ナリ、之ニ反シテ「衡平法」ノ如キハ、  
 夫ノ民法ニ通曉シタルヲ以テ有名ナル僧官ノ數百年間奉行セシ所ナ  
 ルヲ以テ多クハ一層進歩シタル「通典」ノ教理ニ據レリ、

現時ニ在テ「信約」ハ我カ國ノ「所有」ノ最モ廣大ナル一種ヲ爲セリ、而シテ  
 「負債」ノ賣買ハ決シテ他ノ營業ノ比ニ非スシテ最モ巨大ナル商業ノ一  
 科ヲ爲シ「信約」ノ一事ハ「所有法」中ノ最モ遠大ニシテ且ツ最モ錯綜セル  
 一科ヲ爲セリ、「負債」ノ取引ヲ以テ營業トスル商人、即チ「銀行商」ハ、今ヤ通  
 商ノ「序理者」ナリ、「管理者」タルノ權カヲ握テ、常ニ一國ノ盛運ヲ主宰セリ、  
 彼ノ麵包、家具、衣服、及ヒ其他各種ノ所有ヲ賣買スルノ店舗アルト同シ  
 ク、特ニ「信約」ヲ取引スルノ目的ヲ以テ開業スル所ノ店舗アリテ、其或ル

0

者ニ至テハ實ニ現時ノ諸店舗中ノ最モ浩大ナル者ナリ、即チ此等ノ店  
 舗ヲ「銀行」ト稱ス

且ツ現ニ穀物ノ市場、魚類ノ市場、及ヒ其他數種ノ市場アルト同シク、外  
 國ノ負債ヲ賣買スルノ市場アリ、之ヲ「ロヤル、エキス、チエンヂ」王室ト稱  
 ス、故ニ銀行ハ全ク「負債」ノ店舗ニシテ、「ロヤル、エキス、チエンヂ」ハ歐洲ノ  
 「負債」ノ大市場ナリ

蓋シ近世「政治經濟」ノ理學ノ澄觴ハ實ニ「負債」ノ性質ニ關スル討論ニ在  
 リ、而シテ「經濟」上ノ著述家ニシテ、此ノ性質ヲ十分ニ理會スル者ハ極メ  
 テ少ナキナリ、「信約」ノ現時ノ商業ニ大關係アル事ヲ思ヒ、其國民ノ禍福  
 ニ大關係アル事ヲ思ヘバ、吾人ハ私ニ經濟學士ガ業己ニ此ノ論題ニ就  
 テ十分ニ討究ヲ盡シ、其性質及ビ結果ニ就テハ悉ク意見ヲ同クスルニ  
 至リ、トシテ事ヲ豫期スニキナリ、然ルニ實際ハ大ニ此ノ期望ニ背馳シ、



諸學士之論說ノ相和合セス、又一學士ノ論說ノ前後連貫スル事、經濟中  
 此ノ論題ニ關スルカ如ク甚レキハ有ラザルナリ、蓋シ「信約」ノ一事ヲ正  
 當ニ理解セシメカ爲ニハ、豫メ「經濟」ノ殆ト一切ノ本然概念ヲ十分ニ決定  
 セシム事ヲ要ス、是レ從來學士ノ全ク務メザリシ所ナリ、而シテ余輩カ先  
 ツ「經濟」ノ本然ノ概念ヲ概括スル事ニ多クノ勞ヲ費シメルノ利益ト功  
 能トハ、次ノ此ノ一章ニ論スル所ニ依テ之ヲ見ルコトヲ得可キナリ、又  
 此ノ「信約」ノ理ヲ解センニハ、「法律」ノ最モ難明ナル部分ヲ熟知スル事ヲ  
 要ス、則「信約」ニ關スル或ル爭議ヲ解釋スルハ最モ有名ナル裁判官ト雖  
 モ至難セシメ所ナリ、ロルドエルドンハ嘗テ言テ曰、余ハ嘗テウ「ケル」ノ  
 缺席訴訟ヲ裁判シタリ、而シテ文券ニ關スル機械營業ハ實ニ裁判所ノ  
 才能ヲ以テスルモ尙ホ瞭解ス可カラザル者ナリト謂ハザルヲ得ズ、此  
 ノ類ノ融通媒介ハ、嘗テ此ノ座ヲ占メタル人ノ最モ銳邁ナル者ニモ讓

ラサル法官ロルドソルローヲシテ困却セシメタリ、略然レバ則之ヲ何  
 如スベキヤ、裁判所ハ實ニ困却苦難ヲ極メタリ、然レモ終ニウ「ケル」ノ  
 缺席訴訟ヲ判決スルニ至リヌ、余ハ決シテ此等判決ノ理ヲ解シ得サリ  
 シ事ヲ明言スルヲ毫モ忌マザルナリ、蓋シ裁判所ハ此ノ判決ヲ爲スニ  
 就テ其理ヲ瞭解セシヤ疑ヲ容レズ、然リト雖モ法官ハ一人トシテ之ヲ  
 瞭解セシ者無シト言フモ、原言ニ非ザルヲ信ズ、ルナリト

ダニエル、ウエブストル氏曰、「信約」ハ近世商業ノ生氣ナリ、其能ク國民ヲ  
 富マセシメコト一切諸國ノ一切鑛山ニモ千倍スル者アリ、信約ハ勤勞ヲ  
 鼓舞シ、製造ヲ獎勵シ、通商ヲシテ進路ヲ各海ニ開カシメ、凡ソ人種ニ屬  
 セル各國民、各王國、各部落ヲシテ自餘一切ノ人民ト通交スルニ至ラシ  
 ムナリ、信約ハ軍隊ヲ振起シ、船艦ヲ嚴裝シ、人員ノ多キニ基ク國力ヲ鎮



歴シテ、國位格ヲ智力、殷富、及ヒ整備セル工業ノ土ニ立テタリト、佛國  
 ノ有爲著述家ガスマウ、ドウ、ブイノード氏モ亦曰、「コロンプスノ後久シ  
 シ世界ノ寶庫ト看做サレタルメキシコ及ビペルーノ金鑛ハ何如ニ豐  
 富ナルニモセヨ、人類ノ爲ニ之ヨリモ更ニ貴重ニシテ既ニ亞米利加ノ  
 富實ヨリモ多ク生産シタル發見アリシハ何ツヤ、信約ノ發見是レナリ、  
 此ノ者ヤ全ク無形ニ屬スト雖モ天空ノ如ク廣ク、人心ノ如ク盡キザル  
 富資ノ大源ナリト、此等ノ言ハ皆善ク其當ヲ得タル者ナルヤ疑ヲ容レ  
 ズ、然レモ亦物ノ常トシテ表面アレハ必ス裏面アルヲ免レサルヲ如何  
 セン、近世ノ信約ハ之ヲ利用スルニ當リテハ、總ヘテ右ニ言フガ如ク驚  
 ヲ可キ効績ヲ奏シタリト云フ事ノ果シテ眞實ナレバ、之ヲ妄用スルニ  
 當テハ亦之ニ匹儔ス可キノ大害ヲ醸シタリト云フ事モ同様ニ眞實ナ  
 リ、信約ノ謬説ト信約ノ濫用トハ國民ノ本據ヲ擧ケテ危キニ置キ、其恐

ル可キコト火山ノ噴出、地震ノ災害ニ均シキ貨幣上ノ洪水ヲ來タシタ  
 リ、故ニ此ノ論題ニ關シテ眞正ノ理論ヲ講究シ確定スルハ、國民ノ爲ニ  
 最も重大ナル利益ノ聚ル所タルナリ

此ノ論題ノ講究ハ、更ニ有益ナル他ノ一科ノ講究ヲ啓發セシムルノ媒  
 介ト爲レリ、百有餘年ノ間世ノ「數學者」ハ「負債」ヲ「負債」ト稱シ來レリ、然レ  
 モ何ノ故ニ之ヲ呼テ「負債」ト曰フヤノ理由ヲ解釋シタル者ハ甚メ少ナ  
 レ、而シテ會之ヲ解釋セント企テタル者ト雖モ、法律ノ原理ト商業ノ實  
 情トニ暗キガ爲ニ、全ク「經濟ノ理學」ニ適當シタル解釋ヲ下タスコトヲ  
 得ザリキ

蓋シ「數學者」ガ代數ノ符號ヲ常用スルヤ、既ニ數百年ノ久シキニ亙ルト  
 雖モ、此ノ符號「理論」ノ全ク整備ヲ告ケレハ現世紀ノ内ニ在ル事世人



ヲ遺サモリレ所ノ問題ニ下タスニ、完全ナル解釋ヲ以テスルコトヲ得  
 ベレ、而シテ余輩ノ勉ムル所ハ唯々現時ノ商業ノ組織ヲ簡單ニ記述ス  
 ルニ過キスト雖モ、以テ「經濟」ノ「理論」ヲシテ始メテ「商業」ノ「實際」ト平立セ  
 シムルコトヲ得ヘク、其他讀者ヲシテ驚歎セシムルニ足ルノ成果ヲ呈  
 スルコトヲ得ベシト信ズ

此通知ス所ナリ、余輩ハ此ヲ先々「代數」ノ符號「內理論」及「之」又  
 「數學」并「自然哲學」ニ適用スルノ原理ヲ解説シ、次ニ「商業」ノ「實情」ヲ示シ  
 テ、此等ノ符號ノ何如ナル解釋法ヲ以テ「經濟」ノ事情ニ適當スル者トス  
 ルヤヲ檢定セサル可カラサルナリ

一旦「商業」ノ「實情」ト「信約」ノ「理法」トヲ解釋シ、且ツ「代數」ノ符號ヲ此等ノ實  
 情ニ適用スルノ方法ヲ証示セバ、余輩ハ此ニ此ノ符號ノ用法ノ最モ佳  
 其ナル一例ニシテ、「自然哲學」ニ於テ之ヲ用フルノ法ト密ニ契合スル者  
 ノ存スルヲ見ル可キナリ、余輩ハ法律ノ教理ト「商買」ノ「習慣」ト「符號」ノ「理  
 論」トノ全ク符節ヲ合スルカ如クナルヲ見ル可キナリ、是ニ於テ余輩ハ  
 「信約」ノ「理論」ヲ推シテ、羅馬ノ法律學士ノ傳フル所ヨリモ一層精密ナル  
 點ニ達セシムルコトヲ得ベク、且ツ彼等カ未タ十分ニ満足ス可キ解釋



○第一項 信約の性質の討究

○「信約」の釋義 ○「保管」と「負債」との區別 ○「貸與」なる語の泛意 ○信約の性質に關する謬妄なる觀念 ○代數の符號の理論を「經濟」に適用する事

○「信約」の釋義、

一節 法律上及ヒ「商業」上ノ常語ニ於テ云フ「信約」トハ貨幣ノ若干ニ關シ他人ニ對シテ有スル「訴訟」ノ「權利」是レナリ  
是レ俗言ニ於テハ又往往「負債」トモ唱フル所ノ「無体所有」ノ名稱ナリ、後文ニ開陳スルガ如ク若シ「負債」ト「信約」トノ二語ノ用法ヲ區別スルコトヲ得バ、其利益極メテ大ナルスレ、然レモ俗間慣用ノ久キ其語義ヲ今日

リ改正スルハ難キニ似タリ、乃チ此ノ「負債」ナル語ヲ貨幣ヲ請求スルノ「權利」ト之ヲ辨償スルノ「義務」トニ普通ニ用フルハ多クノ紛雜ノ本源ナルコト復々疑ヲ容レザルナリ

蓋シ「信約」ナル者ハ年金ノ最モ下等ナル一種類ナリ、即チ一期ニシテ終ル者ナリ、一般ニ年金ト指ス所ノ者ハ數期ニ分ケテ仕拂ノ連列ヲ請求スルノ權利ナリ、而シテ「信約」ハ一回ノ仕拂ヲ請求スルノ權利ナリ、商業ニ於テ「信約」ノ取引トハ交易スル所ノ可量物ノ一方、若クハ兩方トモ負債ナルトキノ賣買、即チ交易ヲ曰フナリ

「信約」ノ「統系」ハ「負債」ノ「起源」「賣買」即チ「讓移」及ヒ「消滅」ヨリ成リ立ツ者ナリ、「信約」ノ「統系」ヲ分ケテ二科トス、

(第一)「商業信約」即チ重モニ「負債」ヲ以テスル貨物ノ賣買、即チ二者ノ交易ヨリ成レル者



(第三)「銀行信約」即チ一ノ「負債」ヲ以テスル「貨幣」若クハ他ノ「負債」ノ賣買、即チ二者ノ交易ヨリ成レル者、然レモ進テ此ノ統系ヲ開示スルノ前ニ、先ツ此ノ論主ニ關スル多クノ誤解ノ原因ト爲リシ二三ノ昏迷泛意ヲ排除セザル可カラス

○「保管」と「負債」の區別

二節 余輩ハ此ニ「經濟理學」ノ啓蒙トモ稱ス可キ最モ貴重ナル主意ニ關シテ特ニ講究スル所アラントス、蓋シ此ノ點ハ少ク隱微ヲ免レザル者ナレバ、法律ト商業トニ通曉スル者ニ非ザレバ覺知スルコト能ハザル所ナルヘシ、然レモ此ノ如ク隱微緻密ナル點ハ孰レノ理學ニ於テモ必ス存スル事ニシテ、而モ最モ緊要ナル結果ノ聚ル所ナリ、且ツ最モ悉ル可キ災害ヲ世ニ起セシ「流通物」及ビ「信約」ニ關スル謬妄ナル理論ノ

基ク所モ多クハ此ノ點ニ在リ

商業ニ於テ一般ニ使用スル証券ニ二種アリ、此ノ二種ハ外形上稍相似タル所アリ、之ヲ詳説セバ、二者ハ孰レモ某物ニ對スル權利ヲ表示シ、均シク譲移ス可キ者ナリ、故ニ多人ノ同一性質ニ出ツル者ト思量スル所ト爲レリ、然レモ其實ハ性質ニ於テ本然ノ區別アル者ニシテ、此ノ根本ノ區別ハ是レ「信約」ノ理論ノ基本ヲ爲ス者ナリシナリ、此ノ二種証券ハ左ノ如シ

證券

(第一)「船荷ノ送狀」「船渠預證書」及ビ其他特別ノ貨物ヲ表示スル一切ノ

證券ノ由テ起ル次第ヲ解説スベシ、(第二)「銀行格券」爲替手形、及ビ其他ノ「信約」ノ證券、此ノ二種ノ證券ノ本然ノ區別ヲ明瞭ニ指示センガ爲ニ、余輩ハ各種ノ證券ノ由テ起ル次第ヲ解説スベシ



茲人アリ、貨物ヲ船中ニ積ミ入ル、ルハ船長ヨリ証券ヲ請ケ取ルベシ、此ノ証券ハ即チ貨物ノ領取ヲ証シ、且、何人ヲ問ハズ、此ノ証券ヲ所持スル者ニ其貨物ヲ引渡サン事ヲ約束スル者ナリ、此ノ証券ヲ稱シテ「船荷送狀」ト曰フ

サテ貨物ノ貨主ハ「船荷送狀」ヲ授貨人ニ送ルベシ、而シテ托貨人ハ之ニ接手スルヤ否ヤ之ヲ流用スルコトヲ得ベシ、即チ之ニ裏書シテ何人ニナリトモ譲移スルコトヲ得ベシ、其法ハ全ク「爲替手形」ニ異ナラズ、斯クテ幾多ノ人ノ手ヲ經ルトモ不可ナルコト無ク、誰レニテモ之ヲ所持スル者ハ、何時ヲ期セズ、船長ニ就テ貨物ノ領取ヲ請求スルコトヲ得ベキナリ

之ト同一ニ、若シ貨物ヲ船渠ノ庫中ニ預托スルトキハ、船渠社長ハ証券即チ預証ヲ交付スベシ、是レ全ク「船荷送狀」ト性質ヲ同シクスル者ナリ、

之ヲ「船渠証券」ト曰フ、此ノ証券モ亦「船荷送狀」若クハ「爲替手形」ト全ク同様ニ之ヲ譲移スルコトヲ得ベキ者ナリ、而シテ誰レニテモ此ノ証券ノ所持主タル者ハ、即チ之ニ記載スル貨物ノ所有主ニシテ、船渠社長ニ就テ之ヲ要求シ領取スルノ權利アルナリ

今ヤ此ノ二箇ノ場合ニ於テ特ニ注目スベキ所ノ者ハ他無し、假令一時ハ貨物ヲ船長若クハ船渠社長ノ保管ニ附スルト雖モ、彼レ管テ之ニ對スルノ所有ヲ得ザル事是レナリ、荷物ニ對スルノ所有ハ荷主即チ預人ノ手ニ在リテ、船荷送狀若クハ「船渠証券」ト共ニ他人ニ譲移スルコトヲ得、船長ト船渠社長トハ唯々貨物ノ「保管者」又ハ「預藏者」ト稱ス可キ者ナルノミ、決シテ其「所持主」ニ非ザルナリ、彼レ此ノ貨物ヲ自用ニ供スルノ權利無し、若シ果シテ然スルニ於テハ是「盜竊犯」ニ外ナラズ、從テ盜賊トシテ罰セラルベキナリ、サレバ「船荷送狀」及「船渠証券」ハ常ニ貨物ト



合シテ一體ノ所有ヲ爲シ、管テ之ト分離ス可カラサル者ニシテ、貨物ハ証券ト共ニ往來セリ、故ニ此ノ如キ証券ハ貨物ヲ代表スル者ナリト謂フ可シ、此ノ場合ニ於テハ一ノ交易アルコト無ク、從テ此等ノ証券ハ全ク價格アル事無シ、之ヲ詳説セバ、此ノ証券ハ之ヲ貨物ト分離シテ交易ニ供ス可キ者ニ非サルナリ、即チ此等ハ以テ一般ノ貨物ト交易ス可キ者ニ非ズ、唯々特殊一定ノ貨物ノミニ對スルノ權義ナルノミ、何人モ「船荷送狀」若クハ「船渠証券」ノ價格ヲ言フコト無シ、此ノ如キ証券ハ「信約」ニ非ス、何トナレバ其所有主ハ音ニ之ニ代テ一般ノ貨物ヲ得可キ事ヲ信、用スルノミナラズ、又之ニ因テ特殊一定ノ貨物ノ所有主タルヲ得可キ事ヲ確知スレバナリ、此ノ如キ取引ハ交易ニ非ズシテ、法律ニ於テ「保管」ト稱スル所ノ者ナリ

之ト同シク、人アリ一處ノ貨幣ヲ「銀行商」ニ預托シ、銀行商ニ命シテ之ヲ



管守セシメ、請求ニ隨テ此ノ特別ノ貨幣ヲ預金者若クハ其指名スル所ノ人ニ返却セシメントスル事アリ、此ノ如キ場合ニ於テハ、貨幣ニ對スル「所有」ハ「銀行商」ニ移ルコト無シ、彼レ之ヲ自己ノ目的ニ使用スルノ權利無シ、若シ果シテ私用スルトキハ即チ盜竊ノ罪ヲ犯スモノナリ、故ニ銀行商ニ於テ請取証券ヲ交付シ、何人ニテモ此ノ証券ノ讓移ヲ受ケタル者ニ此ノ貨幣ヲ引渡スベキ旨ヲ約スルルハ、此ノ請取証券及ビ貨幣ハ合シテ一體ノ所有ヲナス者ニシテ、前記ノ「船荷送狀」及ビ「船渠証券」ト同一ナリトス、貨幣ト請取証券トハ互ニ相分離ス可カラズ、而シテ此ノ特別ノ貨幣ニ對スル所有ハ、常ニ此ノ請取証券ト共ニ往來スル者タルナリ、此ノ場合ニ於テ「銀行商」ハ唯々貨幣ノ「保管者」即チ「預藏者」タルノミ、決シテ其「所有主」ニ非ズ、以上陳述スル所ノ「船長」ト「船渠商社」ト「銀行商」トノ場合ニ於テハ、彼等ト証券ノ所有主トノ間ニ「債主」及ビ「負債者」ノ關係



ヲ生セザルモノナリ  
 然レモ是ノ如キハ銀行商ト其願主トノ間ニ行ハル、尋常ノ取引ニ非  
 ズ、若シ願主ヨリ其取引スル所ノ銀行ヘ貨幣ヲ拂込ムトキハ貨幣ノ所  
 有ハ全ク銀行商ニ歸セリ、彼レ貨幣ノ「保管者」即チ「預藏者」ニ非ズレテ之  
 カ所持主ト爲レリ、故ニ自己ノ目的ノ爲ニ何如様ニモ之ヲ使用スルコ  
 トヲ得ルナリ、此ノ貨幣ト交易レテ彼レ其願主ノ爲ニ請求ニ隨テ同額  
 ノ貨幣ヲ交附スベシト約スル所ノ「信約」ヲ創造スルナリ、此ノ取引ハ其  
 實ハ交易即チ賣買ナリ、銀行商ハ其願主ヨリ貨幣ヲ買ヒ、之ニ代ヘテ賣  
 ヲ、ニ何時ヲ期セス、隨意ニ同額ノ貨幣ヲ請求スルノ權利ヲ以テセリ、故  
 ニ此ノ場合ニ於テハ新メニ所有ヲ創造スルモノナリ、願主ハ之ヲ以テ  
 其欲スル所ニ隨ヒ、何人ニナリモ讓移スルコトヲ得ベシ、而シテ此ノ所  
 有ノ價アリ、何トナレバ其所持主ハ之ト交換レテ、貨幣若クハ其他ノ貨

物ヲ得ベケレバナリ、此所有即チ之ヲ「信約」ト稱スル所以ノ者ハ、其所持  
 主ハ之ト交易レテ貨幣ヲ得ベシト價メレバナリ、然レモ其之ニ依テ受  
 ク可キ所ヲ特殊一定ノ貨幣ニ限ル事ハ無キナリ、銀行商ハ貨幣ノ預藏  
 者ニ非ズ、唯モ彼レ其願主ニ對レテ「負債者」ト爲ルノミ、故ニ若シ不幸ニ  
 レテ彼レ破産スル事有ラバ、願主即チ債主ハ其所有ノ分配ヲ受クルノ  
 權利アルニ止マルモノニシテ、其負債ノ十分ナル仕拂ヲ受クルト否ト  
 ハ全ク之ヲ偶然ニ歸セサル可カラサルナリ  
 此ノ理ハ是レ「信約」ノ一切ノ場合ニ於テ同一ナル者ナリ、譬ヘバ商買ア  
 リ、信約ヲ以テ貨物ヲ賣ルニ於テモ彼レ必ズ此ノ貨物ニ對スル所有ヲ  
 買者ニ交付シ、之ニ換テ仕拂ヲ受ク可キ無形ノ權利ヲ收メサル可カラ  
 サルハ斯ル取引ノ性質ニ於テ到底免レサル所ナリ、苟モ「所有」ノ罷止ア  
 ル無クシバ決レテ「信約」ハ生スル事無キナリ



是海於テ余輩ハ「船荷送狀」及「船渠證書」ト諸種ノ「信約證書」トノ間ニ本然ノ區別アルヲ見ルナリ

「船荷送狀」及「船渠證書」ノ發ル所ハ、斷然特殊一定ノ貨物ニノミ限リ全ク之ト分離ス可カラズ、即チ之ト合シテ一體ノ所有ヲ爲ス者ナリ、蓋シ其由テ起ル所ハ必ス「保管」ニ在リテ「交易」ニ非ズ、從テ正シク貨物ヲ代表スル者ト謂フ可シ、此等ハ其自體ノミニ於テハ更ニ立ツ所無ク、從テ交易ス可キ所有ノ全體ヲ増加スルニ至ラサル者ナリ

之ニ反シテ「信約證書」ニ在テハ、其本然ノ法律上ノ要訣ハ特殊ノ貨幣ト一切ノ關係ヲ絶ツ事是レナルノミナラス、却テ特殊ノ資財ヲ以テ仕拂フ可キ者ト制限スル事ヲ禁スルノ場合スラ有リ、是レ全ク「人」ニ對シテ要求スベキ無形ノ權利ニ外ナラズ、即チ「信約」ノ名此ニ起ル、蓋シ此ノ證書ノ以テ貨幣ト交易ス可キヲ信用スルニ因テ之ヲ領收スルモノナレ

バナリ、若シ特殊ノ貨幣ノ之ニ對スト定ムル所ノ者アラバ、是レ「信約」ニ非ザルナリ、「信約」ノ證書ハ必ス「交易」ヨリ發スル者ナリ、決シテ「保管」ヨリ發スル者ニ非ズ、「船荷送狀」ノ類ハ必ス船荷ト共ニ往來シ、「銀行格券」ノ類ハ必ス常ニ貨幣ト交易スル所ナリ、「船荷送狀」ハ貨物ヲ代表スト雖モ貨物ニ等シキ價格ヲ有スル者ニ非ズ、何トナレバ交易無クシテ價格有ルコト能ハサレバナリ、「銀行格券」ノ類ハ貨幣ヲ代表セズト雖モ貨幣ニ等シキノ價格アリ、何トナレバ此ノ場合ニ於テハ必ズ交易アレバナリ、故ニ「信約」トハ孰レノ形狀ニ出ツルヲ論セズ、必ス皆交易ス可キ所有ノ全體ヲ増加スル者ナリ、是レ實ニ一切ノ「法律學士」一切ノ「商賈」及ビ一切ノ「經濟學士」ノ許容スル所ナリ、

是ニ於テ生スル一條ノ系論アリ、即チ「船荷送狀」及「船渠證書」ハ決シテ其代表スル所ノ貨物ノ上ニ超過スルコト無シトスル者はレナリ、若シ



貨物無クシテ此ノ如キ証券ヲ讓移スル人アルトキハ是レ即チ罰ス可キノ犯罪ナリ然ルニ各種ノ「信約証券」ハ國中ノ貨幣ノ高ニ比スレバ遙カニ超過シ、最低ニ算スルモ尙ホ之ニ十倍ス可シ、斯ク「信約」ハ自ラ一種ノ貨物ニシテ奇偉ナル商業ノ物件ヲ爲セリ、蓋レ一切ノ商業凶難ハ「信約」ト稱スル類ノ所有ノ創造ノ過度ナルニ因テ生スル者ナリト謂フモ應ロズ、サレバ「信約」ノ正當ノ限度ハ何レノ點ニ在リヤト云フハ余輩ガ下文ニ於テ明ニ分解セント欲スル所ノ最も緊要ナル一問題ナリ

「信約証券」ト「船荷送狀」「船渠証券」ノ類トノ區別ヲ明瞭ニ理會スルハ經濟學上ニ於テ最も緊要ナル結果ノ繫ル所ナリ、然ルニ英邁ナル經濟學士ニシテ此ノ二者ヲ以テ同一ノ性質ニ出ツル者ナリトシ、共ニ之ヲ「信約」ノ部ニ屬セシムル者多キハ豈歎ス可キノ誤謬ナラスヤ、乃チ財政上最も恐ル可キ災害ノ或ル者ハ此ノ誤謬ニ基キテ紙幣ヲ發行シタルニ淵

源セリ、例ヘバジョン・ロウノ「紙幣ノ理論」ノ如キハ全ク此ノ誤謬ニ根基スル者ナル事明ナリ、余輩ハ後ノ章ニ於テ之ヲ記述スル所アルベシ

○貸與なる語の泛意

三節 茲ニ更ニ一條ノ恐ル可キ誤謬ノ排除セザル可カラザル者アリテ、近時ニ至リ信約ノ理論上ニ非常ノ紛亂ヲ生シタリ、蓋シ舊時ノ著述家ハ概シテ商業取引ノ實際ニ通シタル人タリシガ「信約」ノ全ク貨幣ニ等シク貨物ノ流動ヲ促スノ功有ルヲ見テ、未タ「信約」并ニ「資本」ノ精細ナル釋義ヲ究定スルニ至ラサルノ前ヨリ既ニ「信約」ハ「資本」ナリトノ學說ヲ主持シタリ

然ルニ佛國ノ經濟學士セ・ビ・セイノ著作以來此ノ學說ハ大ニ學士ノ冷笑スル所ト爲リ、信約ハ資本ナリト言フハ、一物ニシテ同時ニ二處ニ在



ルコトヲ得可レト言フニ異ナラストレテ、數多ノ學士ハ之ヲ反覆論破セシトレタリ、彼等ハ信約ヲ以テ一物ヲ他人ニ貸與シタルニ同シキ者ト爲セリ、故ニ問テ曰、「一物ニレテ同時ニ二處ニ在ルコトヲ得ルカ、同時ニ貸主及ビ借者ノ兩人ノ使用スル所ト爲ルコトヲ得ルカ」ト

後ノ章下ニ於テ余輩ハ此ノ論題ニ關スルセイノ疑ク可キ矛盾ヲ指示セントス、今此ニ一言ス可キハ他無シ、此ノ誤解ハ全ク「貸與」ナル語ノ意義ニ於テ泛濫ナル所アルニ基ク事是レナリ、而シテ之ヲ研究スルルハ以テ理學上最モ緊要ナル論說ノ最モ煩瑣ナル考察ニ依テ立ツ所以ヲ見ルニ足ル可キナリ

茲ニ人アリ其友人ニ例ヘバ書物ノ如キ一貨物ヲ貸與スト假定センカ、借ル者ト貸ス者トハ同時ニ此ノ書物ヲ所持スルコトヲ得ザルヤ明白ナリ、此ノ人再ビ此ノ書物ヲ要スルコト有リテ友人ヲ訪フニ、友人ノ家

ニ在ラサルニ會ストセンカ、彼レ此ノ書物ノ机上ニ在ルヲ見バ必ズ之ヲ取り去ルニ於テ固ヨリ躊躇スルコト無カルベシ、彼レ只々禮義ノ上ヨリレテ、此ノ如ク爲セシ由ヲ友人ニ通知スルアランノミ、

然ルニ此ノ人其友人ニ五磅ノ貨幣ヲ貸與シ、後其返済ヲ要スルニ及テ友人ヲ訪ヒタルニ、其家ニ在ラサルニ會シタリト假定センカ、彼レ若シ友人ノ財囊ノ机上ニ在ルヲ見バ敢テ自ラ之ヲ開テ五ソフエレインヲ取り去ルヲ正當ナリトセンカ、何人ニテモ必ズ此ノ所爲ノ不正ナル事ヲ感スベシ、誰ニアレ他人ニ貸與シタル自家ノ書物ヲ取り戻スニ於テハ猶豫セズト雖モ、他人ノ財囊ヲ開テ之ニ貸與シタル五磅ヲ取戻スカ如キハ其嘗テ夢想セザル所ナルベシ

故ニ此ノ問題ニ就キ未タ特別ノ理義ヲ考察セサルノ前ト雖モ、世人ハ書物ヲ貸與スルト貨幣ヲ貸與スルトノ際ニ於テ自ラ根本ノ區別アル



事ヲ處知スベキナリ、彼レ若レ愚鈍ニレテ之ヲ解スルニ苦マバ、法律ハ  
 彼ニ之ヲ告ケントス、曰、若レ自己ノ所有スル書物ヲ要スルコト有ルト  
 キハ之ヲ取り去リモ可ナリ、然レモ自ラ友人ノ財囊ヲ開テ五、ソフエレ  
 イレヲ取ルニ當テハ必ズ盜賊ノ刑ヲ免レザルベシ、彼レ其返辨ヲ友人  
 ニ請求セザル可カラズ、決シテ自ラ之ヲ取ルノ權利無シト  
 之ト同シク、人アリ其取引スル所ノ銀行商へ貨幣ヲ拂込ミ、即チ銀行商  
 へ貨幣ヲ貸與シ、而シテ其幾分ヲ要スルトキハ彼レ敢テ親ヲ其賬櫃ヨ  
 リ之ヲ取り去ルヘキヤ、彼レ決シテ之ヲ爲サズ、必ス先ツ其銀行商ニ就  
 テ仕拂ヲ請求シ、銀行商ガ自家ノ意ヲ以テ彼レニ貨幣ヲ拂フマデ俟タ  
 ザル可カラズ、若シ彼レ親ヲ之ヲ取ラントスルニ於テハ必ズ警察官ノ  
 拘引スル所ト爲ルベシ  
 其然ル所以ノ者ハ他無シ、此ノ二者ハ共ニ之ヲ貸與ト稱スト雖モ、全ク

性質ヲ異ニスル所アレバナリ、書物若クハ其他ノ物件ヲ友人ニ貸與ス  
 ルトキハ、彼レ決シテ其之ニ對スル所有ヲ他人ニ交付スルコト無シ、尙  
 ホ依然トシテ其書物、若クハ物件ノ返却ヲ受クルノ權利ヲ有セリ、其間  
 一ノ交易無ク、且ツ一ノ新所有ノ創造無シ、而シテ書物、若クハ物件ヲ使  
 用スルコトヲ得ル者ハ唯タ一人ノミニ止マルナリ  
 然レモ貨幣貸與ノ一切ノ場合ニ於テハ、貸者ハ全ク之ニ對スル所有ヲ  
 借者ニ譲リ、之ヲシテ純然タル借者ノ所有ヲシムルナリ、貸者ノ得ル  
 所ハ即チ同額貨幣ノ返却ヲ請求スルノ權利、即チ所有ニシテ、嚮ニ貸シ  
 タル特殊ノ貨幣ヲ得ルノ權利ニ非ス、故ニ貨幣ノ貸與ハ必ス常ニ交易  
 ナリ、而シテ其何如ナル場合ニ於テモ、必ズ新ニ所有ヲ創造スルコト無  
 キヲ得ズ、且ツ此ノ所有ハ貨幣ト同様ニ之ヲ賣買シ、讓移スルコトヲ得  
 ベキナリ



書物、馬匹、若クハ其他ノ物件ノ貸與ニ於テハ、貸者ノ之ニ對スル權利即チ所有ハ決レテ其物ヲ離ル、コト無シ、貨幣ノ貸與ニ於テハ、貸者ノ之ニ對スル權利即チ所有ハ必ス常ニ此ノ物ヲ離レテ借者ノ手ニ移レリ、而レテ貸者ニ於テ新タニ創造スル所ノ權利即チ所有ヲ「負債」若クハ「信約」ト稱シ、此ノ負債ノ仕拂ハル、トキ(即チ通俗ノ語ヲ以テセバ)貸金ノ返済セラル、トキハ、此ノ新造所有ハ滅盡スルナリ、故ニ余輩ハ貸與ニ二種アルヲ見ル、一ハ即チ貸者ガ其貸與シタル所ト同一ノ物品ノ返却ヲ受タルノ權利ヲ有スル者、一ハ即チ貸者ガ其貸與シタル所ニ均一スル金額ノ返却ヲ受クルノ權利ヲ有スル者是レナリ、サテ商業上一切ノ貸與ハ即チ第二ノ種類ニレテ、必ス賣買即チ交易ニ出テ、決レテ第一ノ體裁ニ出ツルコト無シ、此ノ問題ニ關シテ起リタル錯亂ハ皆此ノ區別ヲ立テザルニ原因スル者ナリ

借用ナル語ニ關シテモ亦同様ノ泛意アルヲ見ル  
サレバ英語ニ於テハ全ク性質ヲ異ニスル二種ノ取引ヲ示スニ、貸與<sup>〇</sup>ナル一個ノ語ヲ以テスル事是レ錯亂ノ本源タルナリ、佛語モ亦均シク此ノ失アリ、然レモ「羅馬法」ニ於テハ此ノ區別判然タリ、而シテ「羅典語」ニ於テハ各種ノ取引ヲ示スニ特別ノ言詞ヲ以テセリ、サレバ「羅馬法」<sup>ジヤス</sup>ニ於テハ「義務、信約ト同義」ハ「貸與」即チ「ムチユム」ノ送遺ニ於ケルガ如ク貨物上ニ發生スルコト有リ、然レモ「貸與」即チ「ムチユム」ノ送遺ハ葡萄酒、油、穀物、現金、銅貨、銀貨、若クハ金貨ノ如ク量目、個數、若クハ尺度ヲ有スル貨物ノ送遺ヨリ成リ立ツモノナリ、而シテ此ノ貨物ヲシテ量目尺度、若クハ個數ノ執レヲ以テ量ル所タルヲ問ハズ借受人ノ所有ニ歸セシムルノ方法ニ出ツル者ナリ、而シテ其貸與シタル所ト同一ノ貨物ヲ返済セス、只ク之ト性質ヲ同クスル他ノ貨物ヲ返済スルカ故ニム



予ニ云フ下稱スルナリ、何トナレバ我所有タルヨリ移シテ汝ノ所有ト爲ス(羅典語エキヌ、メヲ、チユム、フイヤツト)ノ主意ヲ以テ我ヨリ汝ニ與フルガ故ナリ

又會典第一卷ニ曰、我所有ヲ以テ汝ノ所有ト爲スノ義ナルヲ以テ、之ヲ「ムチユム」ヲ與フルト稱ス、故ニ若シ汝ノ所有ト爲ラザルトキハ一ノ義務ヲモ生ズルコト無キナリト

然レ而書籍若クハ馬匹ノ如キ物ヲ貸與シタル場合ニハ、之ヲ「ムチユム」ト稱セスレテ「コムモダチユム」ト稱ス、「シヤスチニヤン」ノ教授書第三卷第十五節第二ニ曰、貨物ノ使用ヲ以テ借便(即チ「コムモデー」ト)セラレタル人ハ、其貨物ノ送遣ニ就テ約束ヲ被リ、爲ニ「アクチヲ、コムモダチ」ナル地位ニ入レリ、然レ而此ノ地位ハ「ムチユム」ヲ受ケタル場合ト大ニ異なる者アリ、即チ其貨物ハ彼レノ所有ニ歸スルノ主意ヲ以テ彼レニ與

ヘタル所ニ共サルヲ以テ、彼レ只ク同一ノ物品ヲ返却スルノ義務アルノミナレバナリ  
又「會典」ノ第八卷第六節第八第九ニ曰、「我レニ於テ貸シタル所ノ貨物レイ、コムモダチ」ノ所有及ヒ領有權ヲ保持ス、誰レモ貨物ヲ貸ス事「コムモダンド」ニ因テ其之ニ對スル所有ヲ借受人ニ交付スルコト無シト

サレバ數多ノ經濟學士ヲシテ昏迷セシメタル貸與ト云ヘル語義ノ曖昧ナル事ハ、一旦「羅馬法」ヲ研究シタル者ニ取リテハ毫モ困難ヲ與ヘザリレナル可シ、商業上一切ノ貸與ハ「コムモダ」ニ非ズシテ必ス「ムチユム」ナリ、貨幣ノ貸與ハ必ス何時モ其實ハ賣買即チ交易ニシテ、全ク「新出

ノ所有」ヲ創造スル者ナリ、之ヲ「信約」ト稱ス、而シテ貨幣ヲ返濟(即チ貸金ヲ償却)スルニ及テハ更ニ他ノ交易アル者ニシテ、此ノ新造所有ハ此ニ



至リ消滅スルナリ

○「信約」の性質に關する謬妄なる觀念

四節 「信約」ノ現論ハ皆ニ「裁判所」ヲ苦マシメタルノミナラズ、數多ノ經濟學士ヲモ苦シメタル中ニハ英邁有爲ノ實際家モ亦少ナカラサルナリ、故ニ余輩ノ論究ノ此ノ程度ニ於テ現時ニ於テモ多少行ハル、種類ノ謬妄ナル論說ヲ排除セハ、則利益アルヘシト信ズルナリ  
余輩ハ先ツ英邁ナル銀行商ニシテ而モ「元貨調査委員」ノ一人タリシヘンリー・ソムントン氏ノ提唱ニ係リ、最モ人ヲ感シ易キ謬說ヨリ著手スベシ、余輩ハ後文銀行ヲ論スルノ章ニ於テ氏ノ全衷ヲ引用スルヲ便宜ト認メタレバ、此ニハ只々其一節ヲ引用ス可シ、即チ曰「証券ハ或ル一人ノ帳簿ニ於テ貸方ノ一項ヲ爲スヤ事實ナリ、然リト雖モ亦之ニ均シク

他ノ一人ノ帳簿ニ於テモ借方ノ一項ヲ爲ス者ナリ、故ニ互ニ之ヲ差引セハ、全體ニ於テハ負債ニモ非ズ信用ニモ非サルナリト  
他ノ有名ナル銀行商ヘンリー・セルヌスキ―ハ曰「人々ノ差引一覽表ハ三項ヨリ成レリ、一ハ現有貨物、一ハ貸金、一ハ負債是レナリ、然レモ若シ世界一切ノ諸人ノ差引一覽表ヲ合計スルトキハ、貸金ト負債トハ全ク相殺シ、唯々現有貨物ノ一項ヲ存スルノミナルベシ」  
故ニ貨物ノ金額ハ是レ一般ノ倉庫帳ヲ爲ス者ナリ、是レ交易上第一ノ要件ニシテ、負債ト貸金トハ第二ノ要件ニ過キザルノミ、蓋シ負債ト貸金トハ貨物ノ如ク互ニ交換スルコトヲ得ベシ、然リト雖モ其額ノ何如ニ大ナルニモ拘ラズ、且ツ何如ニ多人ノ手ヲ經過スルニモ拘ラス、一方ノ貸金ハ必ス一方ノ負債ナルベキヲ以テ、到底一般ノ倉庫帳ニハ一物ヲモ加フルコト無ク、又一物ヲモ減ズルコト無キナリ



此ノ一般ノ倉庫帳ノ増減ハ現實ニ存在スル貨物ノ分量ニ増減アルニ

非サルヨリハ決シテ覆セザル者ナリト

ソレントン及ビセルヌスキー氏ノ議論ハ全ク左ノ如シ  
「甲」ハ貨幣ニテ百磅ト「乙」ニ對スル三ヶ月期限ノ手形ニテ五十磅ト有  
スト假定スベシ又「乙」ハ百磅ヲ有シ且ツ三ヶ月期限ノ手形ニテ五十磅  
ヲ領承レタリト假定スベシ

然ルトキハ「甲」ノ所有ハ之ヲ左ノ如ク定説スベシ  
100磅 + 50磅

「乙」ノ所有ハ之ヲ左ノ如ク定説スベシ  
100磅 - 50磅

サテ二氏ノ議論ノ歸著スル所ハ100磅ト100磅トハ相殺シテ零  
ト爲レリ故ニ此等ノ可量物ハ全ク存在セズト云フモ同一ナリトスル

ニ在リ

此ノ見解ハ初見ニハ甚ダ誠實ナルガ如ク見ユ然レモ少シク思慮スル  
トキハ則其誤謬タルヲ知ル可キナリ

此ニ地主アリ、毎年地稅ヲ拂フノ約束ヲ以テ借地人ニ田園ヲ貸與スト  
センカ、此ノ借地人ハ毎年地稅ヲ拂フノ義務ヲ負ヘリ、是レ恰モ每十二  
ヶ月ニ仕拂ハルベキ數通ノ手形ヲ領承シタルト同一ナリ、地稅ヲ受納  
スルノ權利ハ地主ノ爲ニ現實ニ存在スルノ權利ニシテ、彼レノ以テ他  
人ニ賣買讓移スルコトヲ得ル所ナリ、是レ即チ彼レニ取リテハ正量ニ  
シテ、彼レノ所有ヲ増加スル者ナリ、而シテ借地人ハ地稅ヲ仕拂フノ約  
束ヲ被ル者ナリ、故ニ恰モ手形ヲ領承シタル商人ト同一ノ地位ニアリ  
テ、此ノ地稅ハ猶ホ手形ノ商人ニ於ケルカ如ク、彼レニ對シテ負量ナリ、  
サレバ若シ五十磅ノ手形ヲ領承シタル商人ノ所有ニシテ100磅ト



以て、借に記すべき者ナル上ハ、地稅ヲ仕拂スノ約束ヲ被レル農夫ノ所  
有ハ、之ヲ左ノ如ク記セザル可カラサルヤ明白ナリ

原註一 借

然レ由農夫が一年ノ後ニ至リテ地稅ヲ仕拂ハン事ヲ領承シタレバト  
テ、誰レカ彼レガ銀行ニ對スル差引殘高ハ、爲ニ減少スル所アリト論ス  
ル者アラシヤ、之ヲ再言セバ、彼レノ所有ノ現額ヨリ引去ルベキ所ナリ  
ト論スル者アラザルナリ、將來ニ於テ仕拂フベキ地稅ハ之ヲ將來ニ至  
テ生ズル所ノ利益ノ中ヨリ仕拂フベキ者タル事明ナリ  
三ヶ月期限ノ手形ヲ領承シタル商人ノ地位ニ至リテモ全ク之ニ同シ、  
彼レ現時ニ於テ債ヲ負ハザルハ恰モ農夫ト同シ、世人ノ通知スル法律  
ノ格言ニ曰、未ダ滿期ニ至ラザル信約証書ハ、答辨ヲ爲サシテ訴訟ヲ  
拒ムコトヲ得ト、其意他無シ、人若シ未ダ滿期ニ至ラザル義務ノ爲ニ他

人ニ訴ハタルトキハ、則單ニ全ク負債ヲ擔ハストノ旨ヲ以テ此ノ訴  
訟ヲ拒ムヲ得ベシトナリ、故ニ此ノ場合ニ於テ(一)符ハ決シテ減少ト同  
義ナラザル事明ナリ

此ノ論ハ世俗普通ノ見解ニ反スト雖モ、尙ホ正當ヲ得タル者トス、將來  
ニ地稅ヲ領納スルノ權利ハ、即チ地主ノ所有ヲ増加スル者ナリ、此ノ場  
合ニ於テ(十)符ハ増加ヲ指スナリ

然リ而シテ借地人ハ地稅ヲ仕拂フノ拘束ヲ被ルガ故ニ、此ノ地稅ハ彼  
レニ對シテ(一)符ナリト雖モ、猶ホ且ツ現時ノ所有ヨリ引去ルベキ者ニ  
非ズ、之ガ爲ニ毫モ彼レノ所有ヲ減少スルコト無シ、即チ此ノ場合ニ於  
テ(一)ハ減算ヲ指ササルナリ

然ラバ則其指ス所ハ何ゾヤ

數學者ハマクローレンノ時ヨリシテ、負債ヲ「負債」ノ一例トシテ舉ゲタ



然レ此數學者及ヒ其他何人モ、此ノ類ノ「負債」ノ意義ヲ明瞭ニ解釋スルコトヲ得タル者無シ

通常開ク所ノ解釋ハ左ノ如シ、人ノ所有ハ之ヲ正量ト看做スベク、其負債ハ之ヲ負量ト看做スベシ、其所有ヨリ其負債ヲ引去リ、殘ス所ハ即チ彼レノ「資本」ナリト、而シテ此ノ數理ニ據レバ、一國ノ「資本」ハ其内ノ人人ノ「資本」ノ合計ナルヲ以テ、全國ニ在ル所有ノ量分ヲ覆見センガ爲ニハ其内ノ一切ノ流轉負債ヲ其内ノ一切ノ所有ヨリ引去ルベシ、得ル所ノ殘高ハ即チ是レ其國ノ「資本」ノ合計ナリト

ビ—コツクモ亦曰、現有シ、若クハ期ニ到テ有ス可キ所有ヲ指示スルニ正量ノ符號ヲ以テスルトキハ、負債ハ即チ負符ヲ添ヘタル數字、又ハ代數ヲ以テ之ヲ指示セザル可カラズ、或ハ此ノ反對ニ出ヅルモ可ナリ、所有ノ此ノ如キ變相ハ正レク(+)及ビ(-)ノ符號ヲ以テ之ヲ標示ス可キ所

トス、何トナレバ所有及ヒ負債ハ此等ノ符號ヲ適用スルニ要スル所ノ反對ノ關係ヲ有スレバナリ、譬ヘバ「甲」ニ與フルニ若干ノ貨幣ヲ以テシ、更ニ之ニ附スルニ同額ノ負債ヲ以テスルトキハ、彼レノ富資、即チ所有ハ從前ト同額ナレバナリト

サテ此ノ如キ定説ノ法ハ、或ル點ヨリ觀レバ全ク正當ナラサルニ非ス、人アリ將ニ商業ヲ退カントスルニ當テ其一切ノ負債ヲ償却シ、而シテ更ニ殘額アレバ、是レ即チ彼レノ所有ナルベシ

然レ此ノ如キ定説ノ法ハ全ク經濟理學ニ適當セザル者ナリ、夫レ負債ハ最モ巨大ナル所有ノ一種ニシテ、其未タ消滅ニ至ラザルニ當テハ、自餘一切ノ貨物ノ如ク商業上ノ一大物件ヲ爲ス者ナリ、而シテ「經濟理學」ハ唯々其成立スルノ際ニ在テ之ヲ論スベキノミ、一旦償却セラル、ヤ負債ハ其成立ヲ失フナリ



余輩ハ此ト云フコトトシ、セルヌスキーノ兩氏ガ此ノ問題ヲ定説スル法  
ノ太々要妄ナル所以ヲ示シシカ爲ニ、最モ單純ナル一例ヲ掲ク可シ、此  
ハ一銀行商アリ、未ダ満期ニ至ラザル商買ノ領收シタル手形ヲ有スト  
例定シ、又之ト同時ニ此ノ商買ニ於テ該銀行商ノ楮券ノ同額ヲ有スト  
假定センニ、二氏ノ定説ノ法ニ據レバ、此ノ雙方ノ負債ヲ互ニ差引セバ、  
成果ハ皆無ニ歸スル者ト言ハザル可カラズ、然レモ是レ明白ニ誤レリ、  
何トナレバ銀行商ハ隨意ニ商買ノ手形ヲ流通セシムルコトヲ得可ク、  
又商買モ隨意ニ銀行楮券ヲ流通セシムルコトヲ得可ケレバナリ、故ニ  
各自貨幣ト同一ノ効力ヲ有スル二箇ノ經濟上可量物ノ融通スル者アリ、  
而シテ「經濟」ニ於テハ、其現ニ成存スルノ間ハ此等ヲ消滅シタル者ト  
看做スベキニ非ザルナリ、此ノ理ヤ自餘各様ノ可量物ニ就キテモ亦異  
ナル無キ所トス、自餘各様ノ物件ト雖モ其既ニ消滅シタルノ後ハ、則「經

濟上可量物」ヲ爲ササルナリ、今ヤ「信約」即チ「負債」ニ在テモ亦他ノ場合ニ  
異ナルコト無クシテ、其現ニ成立シ、從テ交易ニ供スルコトヲ得可キノ  
時ニ於テハ、「經濟上可量物」タリ、其既ニ消滅シタルノ時ニ於テ始メテ全  
ク「經濟上可量物」タル事罷ムニ至ル

五節 若シ「經濟」ニ於テ斯ノ如キ定説ノ法ヲ用フ可シトスルハ、是レ  
全ク五科ノ相異ナル人類ノ知識ニ反スル者トセサルヲ得ズ

(第一)「理學ノ哲理」ニ背戻ス、何トナレバ若シ一科ノ理學ノ本然ノ概念ニ  
シテ一タビ設定セラル、トキハ、此ノ理學ノ中ニ屬スル一切ノ問題ハ  
此ノ概念ト一致スルノ法ヲ以テ之ヲ定説セザル可カラスト云フ事是  
レ「理學ノ哲理」ノ本然ノ原理ナレバナリ、ツルコトトシ、セルヌスキー及ビ  
代數學士ノ爲ス所ノ如キハ、此ノ問題ヲ以テ加算ト減算トノ一タラシ



ムントスル者ナリ、サレド「經濟」ハ何如ナル見解ヲ以テスルモ加算ト減算トノ理ニ非ズ、故ニ「經濟」中ノ何故ナル問題モ之ヲ加算ト減算トノ體裁ヲ以テ定説ス可キニ非ザルナリ、「經濟」ハ交易ノ理學ナリ、故ニ「經濟」上一切ノ問題ハ之ヲ「交易」ノ體裁ヲ以テ定説セザル可カラズ

(第二)「數學」及ビ「形而下理學」ノ全體ノ類例ニ背反ス、何トナレバ「數學」及ビ「形而下理學」ニ於テハ必ズ「正量」及ビ「負量」アリ、然レモ「負量」ナル者ハ「正量」ヨリ減却スベキ者ニ非ズ、共ニ是レ一箇特別ノ分量ニシテ、多少反對ニ出ツルノ相ヲ有スル者ナリ、而シテ理學ノ全體ハ正量并ニ負量ノ和ヲ渾包スレバナリ、サレバ一切ノ「數學」及ビ「形而下理學」ノ類例ニ徴シテ「經濟」モ「經濟」上正量并ニ「經濟」上負量ノ和ヲ含有セザルヲ得ズ、故ニ今若シ「貨幣」ハ正量ニシテ「信約」ハ負量ナリトセバ、最モ先ニ問題トスベキハ「信約」ナル者ハ何如ナル性質ニ於テ「貨幣」ニ對シ反轉又ハ反對スル者ナル

ヤヲ發見スルニ在リ、是ニ於テ始メテ「貨幣」ヲ以テ「經濟」ニ於ケル正量ナリトスルトキハ、「信約」ハ「數學」及ビ「形而下理學」ノ類例ニ從テ負量ト稱スルコトヲ得ベキナリ

(第三)「法律」ニ背反ス、何トナレバ「信約」即チ「負債」ハ其自體ニ於テ既ニ價格ヲ有スルノ所有ニシテ、他ノ所有ヨリ減却スベキ者ニ非ズト云フハ、是レ「法律」ノ「原則」ノ一ナレバナリ

(第四)「商業」ニ背反ス、何トナレバ一切ノ商賈ハ「負債」ノ「商業」上ノ一大貨物タルヲ知り、「負債」ノ取引ハ最モ巨大ナル「商業」ノ一科ナル事ヲ知レバナリ

(第五)一切ノ「經濟學士」ノ教理ニ背反ス、何トナレバ世ノ「經濟學士」ハ悉ク皆夫ノ「銀行」楮券「爲替」手形等ノ如キ紙製流通物ノ體裁ニ出ヅル「負債」ヲ以テ鑄貨ヲ増加シ、且テ鑄貨ノ功用ヲ務ムル一種特別ノ有價所有ナリ



ト爲セ、ハナリ、且ツ、「理物學派」ノ如キモ、國民ハ貨幣ニ代ヘテ「信約」ヲ用フルニ依テ、「其斯ク」蘇用スル所ノ貨幣ノ分量ニ等シキ富資ヲ増ス者ナリト言ヘリ

(第六)夫ノヨリ、「氏」ハ「信約」ノ一事ニ關シ矛盾ノ説ヲ述ベタル人ナル事ハ後ニ論辨スル所ナルカ亦言ヘリ曰「信約」ハ唯々資本ヲ手ヨリ手ニ讓移スル者ナリト、「カウント」、「セイスコースキ」氏モ亦曰「信約」ハ固定資本ノ流通資本ニ變化シタル者ナリト、而シテ此ノ釋義ハ嘗テ「佛國」ニ有名ナル經濟學士「ジョセフ」、「ガルニエル」氏ノ足認スル所ナリシガ、氏ハ今尙ホ之ヲ保持スルヤ否ヤヲ知ラズ、「セイスコースキ」ハ「銀行」「「債券」爲替手形」「船渠」「「証書」等ヲ混シテ悉ク「信約」ニ算入セリ、此ノ誤解ヤ實ニ國家ノ大害ヲ招キタル本然ノ誤謬ナリ

是ノ如キハ即チ「經濟」ノ全局ニ行ハル、「混亂」ノ一証ナリ、蓋シ以上列記

スル所ヲ見ルニ、「信約」ノ性質ニ關シテ四種以上ノ異説アルヲ知ル、而シテ諸著述家ハ、或ハ漫然此等ノ諸説ヲ混合シテ毫モ其擅着ヲ悟ラサル者アリ、故ニ余輩ハ相異ナル此等ノ諸説中何レヲ以テ真正ノ見解トナスヤヲ決定セザル可カラザルナリ

今先ツ「經濟上負量」ナル者ノ意義ヲ究定セントス

○代數の符號の理論を「經濟」に適用する事

六節 世界ノ「經濟學者」ヲシテ解釋ニ苦マシメタル「信約」ノ理論ノ困難ハ、猶ホ最近ノ代數ノ一大教理トスル「位置及ヒ運算」ノ符號ノ區別ヲ以テ之ヲ掃蕩スルノ外無キニ似タリ

此ノ大教理ヲ「經濟」ニ適用スルハ全ク先例無キ事タルヲ以テ、余輩ハ之ヲ十分ニ解説セサル可カラズ



抑、實際ハ情ニ理論ニ先キ立チテ出ヅト云フハ是レ普通ノ事實ニシテ、  
 理學ノ實際ノ如キモ既ニ理論ノ理論ニ先キ立チテ出デタルヤ入シ、サ  
 レバ(一)ニ(一)ヲ乘スルトキハ(十)ヲ生スト云フ事ハ、ダイヲフ、ンタス 希臘人  
 リナノ時代ニ在リテ既ニ實驗上ノ規則トシテ瞭知セラレタリ、然レトモ  
 氏ハ此ノ規則ヲ立テタリト雖モ何ノ故ニ然ルヤノ説明ヲ爲スコト能  
 ハサリキ、近世ニ於テ代數學ノ巨擘タルハ、リヲツト、フエルマツト、フバ  
イエタ、デカルト、カルタンノ諸氏ガ其數理ヲ代數上ノ符號ニ翻譯セン  
 トスルヤ、彼等ハ此ニ此ノ一新機械ヲ發明シナカラ、自ラ其運行編制ノ  
 理ヲ解スルコト能ハザルヲ見タリ、又彼等ハ數多ノ問題ヲ解説スルノ  
 際ニ負量ノ成果ヲ得ルコト多キヲ見タリ、サレド之ヲ瞭解スル能ハザ  
 ルヨリシテ、彼等ハ負量ヲ以テ實存セザル者ト爲シ、正根數ハ之ヲ眞根  
 數ト稱シ、負根數ハ之ヲ假根數ト稱シタリ、自然理學ノ進歩ノ中途ニ於

テモ負符ヲ用フベキ分量ノ數多アル事ヲ知ルニ至リタリシガ、未タ符  
 號ノ普關理法ヲ究定スルニ至ラズ、爲ニ數學ノ進歩ハ大ニ遲滯シタリ、  
 蓋レ彼ノ(一)ニ(一)ヲ乘スルトキハ(十)ヲ生スト云フ規則ハ、實際ニ於テハ  
 一般ニ之ヲ用ヒタリ、何トナレバ他ノ規則ヲ以テスルハ正當ナル結  
 果ヲ得ルコト能ハザレバナリ、然レモ代數學士ハ其理由ヲ説明スルコ  
 ト能ハズ、ニウトン其人ノ如キモ之ヲ知ルニ至ラズ、ユールレノ大智ヲ  
 以テスラ之ヲ説明セント試ミタルモ尙ホ小兒ノ如キ空言アルノミナ  
 リキ

千七百九十四年ノ頃ニ至リテモケムブリツヂ大學ノ有名ナル數學者  
 ハ、「負量」ト云フガ如キ實物ノ世ニ存スベキ所以無シトシ、之ヲ存スト思  
 考スル說ヲ嘲笑シタリ

然レモ現世紀ノ初ヨリ以後ハ、數字ノ舊地ニ植ウルニ哲學ノ新出精神



ヲ以テスルニ至レリ、是ニ於テ乎始メテアルガントビュー、ワルレン、ピ  
ーコングア、モルガンノ如キ數多ノ有名ナル學士ノ手ニ於テ符號ノ理論  
ヲ完成スルコトヲ得タリ、而シテ其勞力ノ結果トシテ出テヌル者ヲ「位  
置」及ヒ「運算」ノ記號ノ區別ノ理論トス

七節 未タ「自然理學」ヲ講究セザル著述家ハ、(+)及ヒ(-)ノ符號ニ於テ加  
算、及ヒ減算ノ外ニ更ニ意味アル事ヲ知ラザルベシ、然レモ少シク此ノ  
學ニ通スル者ハ、皆(+)及ヒ(-)ナル符號ノ「自然理學」ニ在テ事情ノ何如  
ニ從ヒ、種種雜多ナル意味ヲ有スル事ヲ知ルベシ、而シテ吾人ハ此等ノ  
符號ノ由テ發スル所ノ事情ヲ一一十分ニ瞭知スルニ非ザレバ、其意ヲ  
確定スルコト能ハザルナリ

余輩ハ前章ニ於テ、各科ノ理學ハ必ズ最モ普遍ナル性質ニ出ヅル單一

ノ觀念、概念、若クハ本性ニ基ク者ナル事ヲ論シタリ、而シテ苟モ此ノ本  
性ヲ備ヘタルヲ見ル可キ一切ノ物件ハ、他ニ何如ナル資質ノ見ル可キ  
アルニモ關セズ、悉ク皆此ノ理學ノ一元素タル事ヲ論シタリ  
サテ「經濟」ハ交易、即チ價格ノ理學ナルガ故ニ、凡ソ交易スルコトヲ得可  
ク、價格ヲ有スルコトヲ得可キ一切ノ「可量物」ハ、其性質ノ堅韌ナルト消  
耗スルトニ關セス、有體ナルト無體ナルトヲ論セス、必ス皆「經濟上可量  
物」タラザルヲ得ザルナリ

然ルニ種種ノ理學ニ在テ此等ノ元素ハ反對ノ性質ヲ有スル事アリ、其  
果レテ然ル場合ニ於テハ、(+)及ヒ(-)ノ符號ヲ以テ之ヲ區別スルヲ「自然  
哲學」ノ常例トス、

此ノ如キ場合ニ於テハ、之ヲ稱シテ位置若クハ變相ノ符號ト曰フ



蓋シ自然科學ノ諸科ニ於テ之カ例証ヲ求ムルトキハ實ニ無數ナルベシ故ニ余輩ハ唯テ「經濟」ノ紛亂ヲ解釋シテ我カ意義ヲ説明スル所以ノ類例ト爲スニ足ル一二ヲ引証スベシ

代數幾何學ニ於テハ諸線ノ位置ヲ定ムルコト必要ナルガ爲ニ第一ニ大極ト稱スル一不動點ヲ定メ此ノ點ヨリ反對ノ方向ニ線ヲ引キテ其右ニ走ル者ヲ(+)符ヲ以テ表スルトキハ其左ニ走ル者ハ(-)符ヲ以テ表シ上ニ引ク者ヲ(+)符ヲ以テ表スルトキハ下ニ引ク者ヲ(-)符ヲ以テ表スルヲ常トス

之ト同シク一方ニ回旋スル線ハ(+)ナルトキハ他方ニ回旋スル線ハ(-)ナリ

之ト同シク二箇ノ重學上ノ勢力アリテ反對ノ方向ニ進ムトキハ則反對ノ符號ヲ以テ之ヲ區別スルナリ

之ト同シク遞加ノ勢力ヲ表スルニ(+)ヲ以テスルトキハ遞減ノ勢力ヲ表スルニ(-)ヲ以テスベシ且ツ遞減力ハ之ヲ遞加負力ト稱スルコトヲ得ベク遞加力ハ之ヲ遞減負力ト稱スルコトヲ得ベキナリ

前進スル汽船ノ機關ヲ表スルニ(+)ヲ以テスルトキハ後退スル汽船ノ機關ヲ表スルニ(-)ヲ以テスベシ

若シ $a$ ノ乘數ヲ以テ一ヲ乘スルトキハ之ヲ $a$ ノ正乗ト乘ス若シ $a$ ノ乘數ヲ以テ一ヲ除スルトキハ之ヲ $a$ ノ負乗ト稱ス然リ而シテ $a$ ノ正乗モ負乗モ共ニ代數上ノ分量タルナリ

汽船航海ノ事ヨリシテ此ニ奇異ナル一例ヲ舉グルコトヲ得ベシ即チ水ノ抵抗力アルガ爲ニ汽船ノ水掻板及ヒ螺旋ハ其抵抗力ノ無キ時ニ比スレバ速ニ水ヲ通過シテ船體ヲ進ムルコト能ハザルナリ斯ク速力ノ減スルヲスリツツト稱ス然ルニ若シ螺旋汽船ノ場合ニ於テ船尾ノ



構造ヲレテ一種ノ形狀ニ從ハシムルトキハ、此ニ奇異ナル結果ヲ生レ  
 螺旋ヲレテ固形體中ニ運轉セシムル場合ニ比スレバ、却テ速ニ水中ヲ  
 駛行スルコトヲ得シム可キナリ、即チ此ノ場合ニ於テハ、道理上及び實  
 際上ノ間ノ速力ノ差ハ損失ニ非ズレテ利益ナリ、故ニ之ヲ自ノスリツ  
 プト曰ヘリ

之ト同シク議院ニ於テ政府ノ維持スル者ヲ(+)ト稱シテ、其反對者ヲ(-)  
 ト稱スルコトヲ得ベシ

八節 右ニ述フル所ノ數多ノ場合ニ於テ、反對ノ性質ヲ有スル元素ハ  
 相互平均シテ其果結〇ト爲ルコト無シトセズ、然リト雖モ此ノ元素ノ  
 時トシテ斯ク相殺スルガ爲ニ、孰レモ全ク成立セザルト同一ナリト云  
 フハ大ナル誤謬ナルベシ

譬ヘバ議院ニ於テ可否ノ起立ヲ取ルニ當リ、政府黨ハ三百四十人ニシ  
 テ反對黨ハ三百人ナリト假定スルキハ、此ノ場合ニ於テ政府ノ力ハ實  
 際四十人ナリト同一ナルベシ、何トナレバ(一)三百人ハ(+)三百人ト相  
 殺スルコトヲ得ベケレバナリ、然レモ此ノ六百人ハ全ク始メヨリ成立  
 セザルト同一ナリトハ言ヒ難カルベシ、要スルニ六百四十人ノ議員ア  
 ルヤ明ナリ、議院ノ全員ヲ發見センガ爲ニ、吾人ハ政府黨ト反對黨トヲ  
 加算セサル可カラズ、決シテ之ヲ減省セザルベキナリ

九節 蓋シ(+)ト(-)トヲ以テ斯ク反對ノ性質ヲ示ス者トスル此ノ解釋  
 ハ、之ヲ直線、若クハ直動ニモ適用ス可シ、即チ若シ或ル一點ヲ〇ト定ム  
 ルキハ、其一方ヲ(+)トシ、他ノ一方ヲ(-)トスベキナリ

サレハ寒暖計ニ於テハ一定點ヲ〇度トシ、其以上ヲ(+)度トシ、其以下ヲ



(+) 度ト本銀ニシテ零度ノ一方ヨリ他方ニ通過スルコト有リトセバ此ノ通過ノ全度ヲ發見セシガ爲ニハ、兩側ノ度數ヲ加算セザルベカラザルヤ明白ナリ

十節 同一ノ解釋ハ之ヲ「自然理學」ニ於テ云フ「時順」ニモ適用ス可シ、蓋シ時順ナル者ハ之ヲ連續タル一直線ノ運動ナリト思考スルコトヲ得ベシ、是ヲ以テ若シ現時ノ瞬間、又ハ一定ノ時代ヲ以テ不動ノ點ト定メ、○符ヲ以テ此ノ點ヲ表スルトキハ、○點ノ兩側ニ位スル諸時ハ反對ノ符號ヲ以テ之ヲ表記スベキナリ、即チ此ノ一時ノ前ニ出デタル諸時ヲ以テ年、週若クハ日タルヲ論セズ、悉ク(+)ト稱スルトキハ、此ノ時ノ後ニ出ツル諸時ハ(-)ナルベキナリ、今之ヲ左ノ如ク列記スベシ

.....+7+6+5+4+3+2+1, 0, -1-2-3-4-5-6-7.....此

ノ場合ニ於テ、(+)符ハ唯々之ヲ附シタル諸年ノ一定ノ時代ノ前ニ在ル事ヲ示シ、(-)符ハ之ヲ附シタル諸年ノ一定ノ時代ノ後ニ在ル事ヲ示スノミ

今若シ此ノ時代ノ前ニ發シタル事件ト、此ノ時代ノ後ニ發シタル事件トノ間ニ經過シタル年數ヲ知ラント欲セバ、零點ノ兩側ニ位スル年數ヲ加算セザルベカラザルヤ明白ナリ  
例ヘバ耶蘇降誕ノ時ヲ一定ノ紀元トシ、此ノ紀元ノ前ヲ正量トセバ、其後ハ之ヲ負量トスベシ、而シテ羅馬開國ノ日ヨリ現時ニ至ルマデ何年ヲ經過シタルヤヲ知ラント欲セバ、(+七五三年ト(-)一八七二年ト加算セザルベカラズ、則共ニ二六二五年トヲ爲スヘキナリ



十一節 今ヤ此等ノ例証ニ加フルニ「自然理學」ノ諸科ヨリ撰摘スル自餘無數ノ例証ヲ以テスルハ易ケレド、既ニ舉ゲタル所ノミヲ以テスルモ、必ス「自然理學」ニ於テ負符ヲ用フルハ是レ決シテ虛無即チ成立セザル者ノ意ニ非ズシテ、唯「反對」ノ意ヲ示ス者ナル事ヲ知ルニ足ルベシ、且ツ負量ハ正量ト同シク獨立實存セル分量ニシテ、分量ノ總額ヲ發見セント欲セバ、必ス負量ヲモ獨立セル一個ノ數トシテ計算セザル可カラザル事ヲ見ルニ足ルベキナリ

十二節 然ルニ又斯ク既ニ反對ノ符號ヲ以テ表示スル所ノ分量ニ及ホスニ相背馳セル運算ヲ以テスル事アリ、此ノ背馳ノ運算モ是レ亦同シク(+)及(-)ノ符號ヲ以テ表示スベキ所ナリ、且ツ此ノ反對ノ性質ノ符號ト、反對ノ運算ノ符號トノ連合、即チ位置及ヒ運算ノ符號ノ連合ハ、

世人ノ熟知セル代數規則ヲ生ス、則チ左ノ如シ

- (+) (+) 乘スレバ (+) 得……………+ × + = +
- (+) (-) 乘スレバ (-) 得……………+ × - = -
- (-) (-) 乘スレバ (+) 得……………- × - = +
- (-) (+) 乘スレバ (-) 得……………- × + = -

是レ即チ恰ク「自然理學」ニ於テ適用ス可キ者ニシテ、亦均シク「經濟」ニモ適用ス可キ者ナリ、而レテ就中從來經濟學中ノ汚點マリシ「信約理論」ノ解釋ニ於テ最モ適用ス可キ者ナリ

蓋シ「經濟上可量物」ニ於テモ亦相背馳シ相反對スル資質ヲ有スル者アルヤ明白ナリ、故ニ今密ニ形而下理學ノ類例ヲ遵奉シテ、此等ヲ表示スルニ反對ノ符號ヲ以テスベシ、且ツ世人ノ熟知スル代數ノ規則ニ準ジテ此等ノ相反對スル可量物ニ及ホスニ反對ノ運算ヲ以テスルコトヲ



得べし然る實ニ我輩者ヲ賦カスニ足ル法果ニ違スベキナリ

十三節 此ノ緊要ナル類例ヲ証示スルノ一例トシテ余輩ハ左ノ一事ヲ舉クベシサテ増加スルト減少スルトハ全ク反對ノ運算ニシテ反對ノ運算ハ必ス皆(十)ト(一)トノ符號ヲ以テ表示ス可キ所ナリ故ニ今若シ下院ニ於テ政府ハ三百五十八人ノ維持者ヲ有シ三百人ノ反對者ヲ有ストセバ政府ノ力ハ $1000 - 1000$ ヲ以テ表示スルコトヲ得ベシ而シテ實際ノ點ニ於テ政府ノ力ハ五十八人ニ止マルベシ故ニ此ノ點ヨリ見レバ $+1000$ ト $-1000$ トハ互ニ相殺スルモノナリ然レモ一切ノ目的ニ關シテ $1000$ ノ數ハ始メヨリ全ク存在セザルト同一ナリト言フニ至テハ重大ナル誤謬ナリ若シ議員ノ全數ヲ知ラント欲セバ政府黨ニ反對黨ヲ加ヘテ算セザルヲ得ズ決シテ之ヲ減ズ可カラザルナ

又若シ政府黨ヲ以テ(十)トシ之ニ若干ヲ加フ(十)レバ政府ノ力ヲ増ス(十)モノナリ之ヨリ若干ヲ減ズ(一)レバ其力ヲ減ス(一)ルモノナリ之ニ反シテ若シ反對黨(一)ニ若干ヲ加フ(十)レバ是レ政府黨ノ力ヲ減シ(一)タルニ同シ然レモ反對黨(一)ヨリ若干ヲ減ス(一)レバ是レ政府黨ノ力ヲ増シ(十)タルニ均シ

故ニ反對黨ノ減スル事(一)×(一)ハ力ヲ加フル(十)モノナリ

サレバ普通ノ代數及ピ余輩ノ特ニ關スル所ノ商業上ノ代數ニ於テハ「分量」ト「運算」トニ關係スル者ナリ而シテ若シ此事ノ分量ノ何如ナル者ニテモ互ニ相反對スル實質ヲ有シ其他何如ニモシテ性質相反對スル關係ニ感應スル者ハ即チ(十)及ヒ(一)ノ符號ヲ以テ之ヲ區別ス可キナリ且ツ若シ此等ノ分量物ニシテ或ル反對ノ運動ヲ施ス可キ者ナルトヤハ其運算ノ何如ナル性質ニ出クルニモ關セズ必ス之ヲ(十)及ヒ(一)ノ符



既以テ表示スルコトヲ得ベキナリ  
サレバ過去及ビ未來、過去ニ生シタル產物及ビ未來ニ生スベキ產物ハ  
(+)符(一)符ヲ以テ之ヲ區別ス可ク、從テ此ノ產物ニ關シテ「發動」及ビ「受動」  
ノ權利、並ニ「權利」及ビ「義務」モ同シク (+)符及ビ(一)符ヲ以テ之カ區別スル  
コトヲ得ベキナリ

之ト同シク「増加」及ビ「減少」、「創造」及ビ「滅却」、「領收」及ビ「仕拂」ノ如キ反對ノ「作  
用」モ、亦(+)符及ビ(一)符ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得ベキナリ  
故ニ「百磅」ヲ要求スベキ權利ハ之ヲ「+」トシテ表記シ、「百磅」ヲ仕拂  
フベキ義務ハ之ヲ「-」トシテ表記スベキナリ

十四節 サテ余輩ハ此等ノ原理ヲ「經濟」ニ適用スルノ次第ヲ示サント  
欲ス

余輩ハ「所有」ニ定義ヲ下シテ人ニ存スルノ權利ナリトシタリ、而シテ人  
ハ過去ノ生産ニ係リテ現在ニ存立スル物ニ對スル權利ヲ有スルヲ得  
可ク、又今ハ現實ニ存立セズトモ將來ニ至リテ發生スベキ物ヲ領收ス  
ルノ權利ヲ有スルコトヲ得ベキヤ明白ナリ、此等ハ孰レモ「所有」ニシテ  
即チ「富資」ナリ、而シテ一人ノ富資ノ金額ハ二者ノ和タルベキナリ、今若  
シ「自然理學」ノ慣例ニ從ヒ既ニ存在スル過去ノ生産物ノ積聚ヲ表示ス  
ルニ(+)符ヲ以テスルトキハ、未來ニ方テ發生スベキ產物ハ之ヲ(一)符ヲ  
以テ表示セザルベカザルナリ

今若シ「土地」ノ如ク連列利潤ヲ生スル一可量物アリトスルハ、或ル一  
定ノ時期ノ前ニ生シタル連列利潤ハ悉ク之ヲ「正量」トシ、其後ニ生スベ  
キ連列利潤ハ悉ク之ヲ「負量」トシテ表示スベキナリ  
今若シ「現時」ヲ以テ一定時期トモシ、過去ニ於テ「土地」ヨリ生シタル一切



「利潤」ハ「正量」ナリ、而シテ「未來」ニ於テ「土地」ヨリ生スベキ一切ノ「利潤」ハ「負債」ナリ

此等ノ「利潤」ハ將來ニ於テ發生スベキ者ナリト雖モ、然レモ發スル時ニ當テ之ヲ領收スルノ「權利」ハ「現時」ニ存立スル者ナリ、故ニ「土地」ニ對スル「所有」ノ「總計」ハ過去ノ產物ニ對スル「權利」ト未來ノ產物ニ對スル「權利」トヲ合シテ含有スル者ナリ、而シテ過去ノ產物ニ對スル「所有」ハ未來ノ產物ニ對スル「所有」ト全ク相背馳シ相反對スル者ナルガ故ニ、若シ前者ヲ以テ「正量」トセバ、「自然哲學」ノ原理ヲ嚴密ニ遵奉シテ後者ヲ「負債」トセザルヲ得サルナリ

サテ現實ニ存在スル過去ノ產物ニ對スル「所有」ハ是レ「有體所有」ナルニ反シテ、將來ニ至リ成立ス可ク領有ス可キ產物ニ對スル「所有」ハ「無體所有」ナリ、故ニ若シ「有體所有」ヲ「正量」トスルトキハ、「無體所有」ハ之ヲ「負債」ト

セザルヲ得サルナリ

十五節 前ニ第十四章余輩ハ此ノ外ニモ「版權」「專賣免許」「商業ノ聲價」「專門藝術」ノ主顧「商社」ノ「株券」十分一稅「通關稅權」「渡河稅權」「建家」「地租」「公債証書」及ヒ「百種」ノ「年金」ノ如ク種種源流ヲ異ニスルニ因テ異ナル「利潤」ヲ領收スルノ「權利」ヨリ成リ立ツ「無體所有」ノ多ク存スル事ヲ述ヘタリ、故ニ余輩ハ茲ニ之ヲ再說スルヲ欲セザルナリ

十六節 利潤アル事業ヲ營メル各種ノ商賈若クハ貿易商ハ前ニモ開說セシカ如ク太ク「土地」ト事情ヲ同クスル者アリ、彼レ既ニ往日ノ勞力ノ產物タル貨幣ヲ蓄積スルコト有ルヘシ、而シテ其餘ニ更ニ熟練アリ經驗アリ、概シテ言ヘバ、力量アリテ將來ニ利得アラシムコトヲ豫期スル



コトヲ得ルナリ  
 之ト同レク大著述家ハ既ニ往日ノ努力ニ因テ巨額ヲ蓄積スルコト有  
 ルヘシ、而シテ其餘ニ使レ材能アリ勉勵アルニ因テ、將來ニモ利得アラ  
 シコトヲ期待スルコトヲ得ルナリ  
 之ト同レク法律家、醫師、建築師、技術師等ノ如ク凡ソ利潤ヲ得ルノ術ア  
 ル者ハ、必ズ皆既ニ蓄積シタル所ノ餘ニ更ニ將來ニ於テ利潤ヲ得ルノ  
 伎倆アリ期望アルナリ  
 余輩ハ前ニミスミスガ住民一切ノ勉強シテ得タル有用ノ伎倆ヲ「富資」及  
 ビ「資本」ノ内ニ算入シタル事ヲ述ヘタリ、セイ及ビセニアルハ至ク此ノ  
 取理ヲ遵守スル者ナリ、ミル氏モ亦曰、余ハ人間其物ヲ富資ニ屬セシメ  
 ス、彼レ即チ富資ノ存立スル所以ノ目的ナリ、然レモ彼レノ習得、伎藝ニ  
 至リテハ金ク方便トシテ存立シ、勞力ニ因テ發生セシメタル所ノ者ナ  
 リト

レバ、余ノ見ル所ヲ以テスルニ正レク富資ノ名稱ニ屬セシムベキ者ナ  
 リト  
 ナテ此ノ名譽熟練、若クハ將來ニ利潤ヲ得ベキ所以ノ伎倆ナル者ハ蓄  
 積スル往日ノ勤勉ノ産物ト相背馳シ相反對スル者ナリ、而シテ亦一種  
 ノ「所有」タル事明ナリ、故ニ若シ往日ノ勤勉ノ産物ニ對スル所有ヲ呼テ  
 正量ト謂フトキハ、將來ノ勤勉ノ産物ハ之ヲ負量ト稱スベキナリ  
 世俗ノ語ニ於テ人ノ商業上ノ名譽、即チ將來ニ利潤ヲ得ルノ力アリト  
 他人ニ信用セラル事ヲ稱シテ「信約」ト曰フ、是レ即チ購買ノ能力ナリ、而  
 シテ此ノ購買ノ能力ハ貨幣ヲ以テ購買スルノ能力ノ餘ニ更ニ存スル  
 者ナル事明ナリ  
 故ニ「貨幣」ト「信約」トハ同一ノ本性ニ出ヅル「可量物」ナリト雖モ相背馳シ  
 相反對スル者ナリ、若シ「貨幣」ヲ「正量」ト稱スルトキハ「信約」ハ「負量」ト稱ス



此等は、而して入る購買力ノ全體ハ、其貨幣ト信約トヨ合應ナル者ナ  
 「土地」ノ所有ヲ全體ハ往日ノ産物ニ對スル「所有」及ビ將來ノ産物ニ對ス  
 ル「所有」ノ二者ヲ含有スルガ如ク、一人ノ「所有」ノ全體ハ往日ノ勤勞ノ所  
 生ト將來ノ産物ヲ得ルノ伎倆即チ豫期トノ二者ヨリ成立ス  
 故ニ「信約」ハ自餘一切ノ所有ノ餘ニ更ニ加入スベキノ「所有」タル事既ニ  
 等價可カラザルナリ

デモステニスモ亦曰「所有」ニ二種アリ「貨幣」及ビ「一般」ノ「信約」是レナリ、  
 吾人ノ最大ナル所有ハ「信約」ナリト  
 又曰「若シ」入信約ハ富資ヲ得シカ爲ニス可キ資本ノ最大ナル者ナル事  
 ヲ解セザルトキハ、則全ク無知ナリト謂フ可シト  
 之ト同レクモロシモ亦曰「人員」ヲ計量スルニ於テハ、其勞力ニ依テ得可

キ所ノ者ヲ算入セザル可カラズ  
 「貨幣」ノ價格ヲ計量スルニ於テハ、既ニ流通スル商賈ノ「信約」并ニ彼レノ  
 應有ノ「信約」ヲモ算入セザルヲ得ズト

「デニト」モ亦曰「人人」ノ間ニ定規ノ取引ヲ爲スニ至リシ以來、貨幣ヲ缺  
 ク者ハ手形、即チ貨幣ヲ以テ仕拂フ可キノ約束ヲ發行スルコト有リ、此  
 ノ手形即チ「信約」ハ貨幣ノ代用ヲ爲ス者ナリ、故ニ「信約」ノ第一ノ効用ハ  
 片紙ヲ以テ貨幣ヲ代表スルニ在リ、此ノ習慣ヤ極メテ舊シ、思フニ始メ  
 テ貨幣ノ欠乏アリレド直ニ之ヲ喚起シタルナルベシ、「信約」ハ貨幣ヲ増  
加スルコト實ニ大ナル者ナリ、貨幣欠乏ヲ告クル毎ニ「信約」ハ直ニ之ヲ  
補充セテ、此ノ缺乏ヲ決シテ「信約」ニ依ラザレバ補充ス可カラザル所ナ  
リ、何トナレハ天然人造ノ産物ヲ悉ク融通セシメンガ爲ニ十分ナル金  
銀ハ世ニ濬セザレバナリ、故ニ商業上ニ於テ商賈ノ所持スル鑄貨ニ數



儲蓄と手帳と流通セルアリ  
 「巧」信約ヲ用フル商賈ハ其資本ノ十倍シタルニ等シキ取引ヲ爲スベ  
 故ニ彼レ其信約ニ因テ恰モ十倍ノ貨幣ヲ有スルト同一ノ利得アリ、  
 此ノ格言タル世ノ商賈ノ洽ク知ル所ナリ」  
 「サレバ信約ハ苟モ商業ヲ營ム者ニ對シテ最大ノ富資ナリト」  
 「スモスモ亦曰、商業ハ資本ノ増加スルニ從テ之ヲ擴張スルコトヲ得可  
 キ所ナリ、而シテ節儉ヲ知り且ツ富榮ナル人ノ信約ハ其資本ノ増加ス  
 ルヨリモ遙ニ疾ク増加スル者ナリ、サレバ其取引ハ兩者ノ總計ニ準シ  
 テ擴張ス可ク、其利益ノ金高ハ取引ノ擴張ニ準シテ増加シ、其年年ノ貯  
 蓄ハ利益ノ金高ニ應シテ進マントスト」  
 「ミル氏モ亦曰、信約ハ生産力ニ非ズ、而モ購買力ナリト、又曰、余輩ガ此ニ  
 貨幣ト別立スル一箇ノ購買力トシテ考察セント欲スル所ノ信約ナル

者ハ云云ト

又曰、人人ノ運用スルコトヲ得ル所ノ購買力ノ總計ハ彼レノ所有シ若  
 クハ領收スベキ一切ノ貨幣并ニ彼レノ一切ノ信約ヨリ成立スト、且ツ  
 同様ノ主意ニ出ヅル句節ヲ更ニ多ク引証セン事敢テ難トセザル所  
 ナレド、餘ハ後ニミル氏ノ「信約ノ理論」ヲ查察スルノ處ニ讓ラントス  
 以上説ク所ノ點ハ、苟モ之ヲ講究スルノ勞ヲ惜マザル人ニハ甚々明瞭  
 ナラザル可カラザル所ナレド、余輩ガ之ニ關シ喋喋多辨ヲ費ス所以ノ  
 者ハ他ナレ、信約ハ現時「經濟」ニ於テ爭論ノ重ナル論題タル事ヲ思ヒ、且  
 ツ或ル著述家ノ異常ノ自家擅着ヲ開發セサル可カラサルヲ思ヘバナ  
 リ

十七節 サレバ余輩ハ讓移ス可キ所有ノ全體ヲ示スニ左ノ表ヲ以テ







持スル者無シテ示スルニ正量ヲ以テ示シ(ト)符ヲ或ハ付ル或ハ離ス之  
 ヲ反シテ其負債ヲ表示スルニハ正量即チ(一)符ヲ以テ示スベシ故モ令若  
 以人ナリテ百クローンヲ有シ五十クローンヲ負フト言ハバ其真ノ所  
 有ハ百クローンノナル事即チ五〇クローンナル事ヲ示ス者ナリト  
 又曰正量ハ現在所有スル所ヲ指示スルガ故ニ負量ハ負債ナリトシテ  
 思惟スルニ於テハ負量ハ皆無ヨリモ更ニ少ナキ者ナリト言フコトヲ  
 得ベシ故ニ人アリ一箇ノ所有モ有ルコト無ク却テ五十クローンノ  
 債ヲ負フ所ハ使レ皆無ヨリモ更ニ少キコト五十クローンヲ有スル者  
 ナリ何トナレバ若シ他人ノ彼レニ五十クローンヲ惠與シテ負債ヲ辨  
 償セシムル者アルニ至テモ彼レ只タ皆無ノ點ニ達スルノミ而シテ其  
 實ハ前ヨリモ富有ナル者ナレバナリト  
 右第一節ハ「經濟」ニ於ケル論題ヲ定説スルニ適當ナル方法ニ非ザル

事ヲ見ルハ甚ダ易シ何トナレバ譬ハ一人アリ百クローンヲ有シ且  
 ツ一年ノ後ニ仕拂フベキ五十クローンノ債ヲ負ヘタト假定スル所ハ  
 其所有ハ唯百クローン即チ五十クローンナリト言フハ全ク精確ナ  
 ラザレバナリ其故ハ彼レ其時ニ於テ利ヲ得ルノ用ニ供ス可キ百クロ  
 ーンヲ有シ唯チ一年ノ終ニ於テ其負債所ノ五十クローンヲ仕拂フノ  
 義務ヲ有スルノミナレバナリ且ツ債主ハ此ノ負債ヲ洗用シテ其仕拂  
 ハルニ至ルマデハ全ク貨幣ト同一ノ効用ヲ有セシムルコトヲ得ベ  
 シ故ニ此時ニ於テ百クローンノ貨幣ト五十クローンノ負債トハ共ニ  
 商業上ニ融通セリ則此ノ一人ノ所有ヲ表示スルニ百クローンノ  
 ンヲ以テスルハ正當ナリ此ノ場合ニ於テ五〇クローンハ之ヲ現時ノ  
 所有ヨリ減却ス可キ者ニ非ザルヤ明白ナリ而シテ連續ノ律ニ因リ仕  
 拂ノ期日ヲ一年ヨリ次第ニ減シテ遂ニ請求ノ即日ニ仕拂ニ至ルマデ



債權者ハ其モ同一ノ大體ニ基カザル可カラズ、只其事實ハ彼レ一定ノ期日ニ於テ其所有ノ一部ヲ負債ト交換スベキ義務アリト云フヲ出デサルナリ

又ユーレルハ第二ノ披抄ニ於テ、彼レ一ノ仕拂ニ供ス可キ所有無クシテ五十クローンノ負債アラバ、其有所ハ皆無ヨリモ更ニ少ナキ者ナリト云ヘリ、此ノ主意ハ彼レ既ニ往日ノ産物ヲ消費シタルノミナラズ、未來ノ産物ヲモ消費シタリト云フニアリテ、負債ノ符號ハ將來ノ義ヲ顯ハス者ナルヤ明白ナリ、サテ斯ク爲シタル上ニテユーレルモ言ヘルガ如ク、人アリ彼レニ五十クローンヲ惠與シテ負債ヲ辨償セシムト假定セシニ、彼レ前日ニ比スレバ富有ナルコト五十クローンナルベシ、則彼レノ所有ハ(II)〇ナリ、是レ即チ(十×十)ノ例ナリ、故ニユーレルノ説ハ此ノ點ニ至ルマテハ其當ヲ得タリ、然レモ其説ハ唯々全體ノ疑問ノ

一半ヲ示スニ過キズ、何トナレバ代數ノ符號ニ於テ(十)ヲ生スルノ場合尙ホ一アレバナリ、即チ(一×一)ニ十是レナリ、而シテ商業上ニ於テ果シテ實際上同一ノ結果ニ達スベキ他ノ一法アルナリ、即チ若シ彼レノ債主ニ於テハ其負債ヲ義捐シタリト假定セバ、彼レノ所有ハ(II)〇ニ歸スベシ、且ツ彼レ前日ニ比スレバ富有ナルコト五十クローンナリ、是レ即チ負債(一)ノ義捐ハ富資ノ増加(十)ト同一ナル事ヲ示ス者ナリ

十九節 故ニ余輩ハ「經濟」ニ於テ實事ヲ定説スルノ方法ニ最モ深ク注意スルノ緊要ナルコトヲ見ルナリ

人ノ所有ト負債トハ斯ク反對ノ性質ヲ有スル分量物ニ類似スルヲ以テ、左ノ如キ理法ニ據ル者タルヤ明白ナリ

若シ人ノ負債(一)ハ同額ニ留存スルニ際シテ、其所有(十)ニ添加(十)スルト



是レ即チ所有ノ増加 (+) ナリ  
 若シ人ノ所有 (+) ヨリ減却 (-) スルトキハ是レ即チ所有ノ減少 (-) ナリ  
 若シ人ノ負債 (+) ニ添加 (+) スルハ是レ即チ所有ノ減少 (-) ナリ  
 然レモ若シ人ノ負債 (-) ヨリ減却 (-) スルハ是レ即チ所有ノ増加 (+) ナリ  
 故ニ吾人ハ商業ニ於テ左ノ格言ヲ得タリ、曰、<sup>◎</sup>負債ノ除<sup>◎</sup>免<sup>◎</sup>ハ資本ノ増<sup>◎</sup>加<sup>◎</sup>ナリト  
 余輩ハ彼ニ至リテ此ノ格言ノ商業上最モ重大ナル結果ヲ來タレ、以テ  
 讀者ヲ驚カスニ足ル者アル事ヲ記スベシ  
 此ノ點ニ於テ最モ難明ナリトスル所ハ、一ノ分量物ガ他ノ分量物ト一  
 様ニシテ而モ反對ナルカ故ニ、隨テ其効能ヲ相殺スルノヨナルト全ク、  
 之ヲ消却スルトヲ區別スルニ在リ、議院ノ反對黨ハ政府黨ノ同數ヲ全

ク消却スルコト無シ、唯モ其効能ヲ相殺スルノミ、反對黨ヨリ減却スル  
 解アルモ爲ニ政府黨ヲ増加スルニ至ラズ、唯モ其効能ヲ相殺セントセ  
 シ若干分量ヲ減却スルノミ

二十節 又エリーノ教頭ビーコック氏ハ有名ナル學士ナリ、所有ト負  
 債トハ (+) 及ビ (-) ヲ以テ表示スルコトヲ得ベキモノナリト論ジ、次テ言  
 テ曰、若シ (+) ヲ以テ現有ノ所有ヲ表示スル者トシ、(-) ヲ以テ負債ヲ表  
 示スル者トセバ、<sup>代</sup>「一」ハ現在スル所ニモ非ズ、負債ニモ非ザル所有、即  
 チ預金ノ如キ者ヲ表示スベシト  
 斯クテビーコック此<sup>代</sup>ハ代數書<sup>板</sup>第一 第三百六十六項第四百四十七節ニ  
 於テ細密ニ此ノ意見ヲ説明セリ、曰、然レモ又數多ノ可量物アリテ、此等  
 ハ單ニ<sup>比</sup>喻的ノ意味ヲ以テスルノ外 (+) 及ビ (-) ノ符號ニ於テ表示ス







釋者符合スル事ヲ示シテ更ニ之ヲ確證スルコト能ハザルナリ、何トナ  
レバ目下講究スル所ノ如キ事情ニ於テハ、此等ノ分量ハ解釋ヲ容レザ  
ル者ナレバナリト

二十一節 余輩ハ斯ク有名ナル大學士ノ説ヲ尊敬セサルニ非スト雖  
モ猶ホ且ツ此ノ意見ノ正當ナラザルヲ見ルナリ、其實ハ負債タル所有  
ト云フカ如キ者ハ存スルコト無シ、信約ハ貸主ノ身位ニ存スル權利ニ  
シテ、負債ハ借主ノ身位ニ存スル義務ナリ、信約ハ必ス既往ノ交易ヨリ  
發シタル者ニシテ自ラ一個ノ所有ナリ、故ニ人ハ負債アリト言フニ於  
テ實ニ指示スル所ハ、彼レ此ノ「負債」即チ「信約」ヲ買ハンガ爲ニ其所有ノ  
一部ヲ交付セザル可カラズトノ謂ヒナルノミ、サテ「」ナル符號ハ之  
ヲ反覆ホバ則(十)ヲ變シテ(一)ト爲ス所以ノ運算ヲ指示スル者タルナリ

故ニ此ノ符號ニシテ果シテ「經濟」ニ適用ス可クンバ、必ス之ヲ反覆スル  
ニ因テ所有ヲ轉シテ負債ト爲スノ作用ヲ表示セザル可カラズ、然レモ  
一物ヲ二回他人ニ預托スルハ、以テ所有ヲ轉シテ負債ト爲スニ至ラズ、  
又所有ヲ讓移スル者ニモ非ズ、此等ハ意志ノ單一ナル行爲ニ過キズ、故  
ニ余輩ハ「經濟」ヲ以テ「」ノ符號ノ適用ス可カラザル理學ノ一ナリト  
思惟スルナリ

ビーコンクノ意見ニ就テ敢テ氏ノ如キ批評ヲ下タシタルノ後、余輩ハ  
デ、モルガンガ英國百科辭典「代數」ノ篇ニ於テ同一ノ説ヲ叙紀セルヲ見  
テ其基ナラザルヲ悦ビタリ、氏ノ言ニ曰、「完全ナル代數ハ時順、損得若ク  
ハ其他唯々二個ノ方向アリト想像シ得ベキノミナル者ニ基テ建設セ  
ン事難キナリ、獨リ虚空ノミ能ク無限ノ方向ヲ容ル、ガ爲ニ既ニ知リ  
得ル唯一ノ解釋ノ媒ナルニ適シタル者ヲ爲セリ、一定ノ期日ヨリ言



フ前ノ時ト後ノ時トハ、正量ト負量トヲ以テ表示ス可キ所ナリ、サレド  
 「 $\llcorner$ 」ナル符號ヲ以テ表示スル者ハ果シテ何如ナル時ゾヤ、又若シ商業  
 上ノ取引ニシテ之ヲ利得ノ上ニ施スニ利得トモ損耗トモ爲シ難キ結  
 果ヲ生シナカラ、利得ノ上ニ二回若クハ數回施スルハ利得ヲ變シテ損  
 耗ト爲スカ如キ者果シテ有ラバ、其時ニ於テコソ始メテ「 $\llcorner$ 」ナル符號  
 ヲ適用シ得可キ所ノ商業代數ノ立ツヲ見ル可キナリト

二十二節 此ノ論點ハ其實「經濟」ニ於テ最モ艱澁深奥ナル者ニシテ恐  
 クハ讀者ノ未ダ想像セザル所ナルベキモ、下文ニ十分解説スベキ至緊  
 至要ノ結果ヲ有スル者ナルヲ以テ、茲ニビ「 $\llcorner$ 」コソツクガ其代數書ノ第二  
 版第十五頁ニ記載セシ所ヲ採萃スベシ、曰、  
 「余輩ハ此ニ於テ甚ダ普遍ナル通用ヲ見ル所ノ一條ノ疑問ヲ討論シ、以

テ此ノ論點ノ檢究ヲ結了セントス

商人アリ「 $\llcorner$ 」ヲ有レ、 $b$ 「 $\llcorner$ 」ヲ負ヘリ、故ニ彼レノ身代ハ「 $\llcorner$ 」ナリ、是レ $a$   
 ハ「 $\llcorner$ 」モ大ナル數ナリト看ルノ場合ナリ

然レ「 $\llcorner$ 」ト「 $\llcorner$ 」トハ互ニ諸ノ價格ノ關係ヲ有スルコトヲ得可キ者ナル  
 ニ因テ、余輩ハ $a$ ノ「 $\llcorner$ 」モ少ナキカ將タ多キカニ依テ、 $b$ ハ「 $\llcorner$ 」ト同  
 價ナルカ或ハ $a$ ト「 $\llcorner$ 」ト同價ナリトスルコトヲ得ベシ、然ルトキハ前ノ場  
 合ニ於テハ左ノ如キ式ヲ得ベシ

$$a - b \parallel a - (a - c) \parallel c$$

後ノ場合ニ於テハ左ノ如キ式ヲ得ベシ

$$a - b \parallel a - (a + c) \parallel -c$$

故ニ「 $\llcorner$ 」ヲ以テ辨償力有ル時ノ身代、即チ所有ヲ表示スル者ナリトセ  
 「 $\llcorner$ 」ハ即チ辨償力無キ時ノ負債ノ總計ヲ表示スル者ナルベシ、而シ



テ性質即チ變應ノ符號トシテノ(+)及ヒ(-)ノ用法ヨリ轉シテ作用ノ符號トシテノ用法ニ移ルトキハ左ノ式アリ

$$a + (-c) = a - c \quad \text{又} \quad a - (-c) = a + c$$

即チ(+)ナル負債ノ増加ハ同額ノ+ナル所有ノ減少ト同一ナルベク、(-)ナル負債ノ減少ハ同額ノ+ナル所有ノ増加ト同一ナルベシ、故ニ負債ノ減少ハ代數ノ符號上ノ語ニ於テ言ヘバ、其消滅又ハ除去ニ非ズシテ、負債タル貨幣、若クハ所有ヨリ所有タル貨幣、若クハ所有ニ轉スル性質即チ容相ノ變化タルナリト

二十三節 余輩ハ此ノ最後ノ一節ニ於テ論スル所ノ主意ノ正當ナラザルヲ証示スルノ功ヲ奏レ得ベキヲ希望ス

第一ニ余輩ハ負債タル所有ト云フガ如キ物ノ全ク存セザル事ヲ斷言

セザル可カラズ、商業上ノ負債ハ即チ或ル他ノ所有ト交易スルニ發シタル所有ノ一種ナリ、故ニ人負債アリト云フハ即チ彼レ此ノ負債ニ換ヘテ其所有ノ一部ヲ交付シ、以テ之ヲ買取セザル可カラザル義務アリトノ謂ヒナルノヨ、然レモ彼レノ所有中他ニ借ル所ナリト稱ス可キ特別ノ部分ハ有ルコト無シ、彼レノ所有ハ純然タル彼レノ所有ナリ、從テ或ハ悉ク之ヲ自ラ消費シ盡シテ、負債ヲ償却ス可キ者無キニ至ルモ不可無キ所ナリ

サテ負債ハ常ニ交易ヨリ生ズル者ニシテ且ツ必ズ然ラザルヲ得ザル所ナレバ、負債ノ増加モ亦必ズ交易ノ増加ヨリ發スル者ナラザルヲ得ズ、故ニ新出ノ負債ハ増加セル所有ト交易シテ發シタル新出ノ所有ナリ、徒ニ負債ヲ増加シ、減少スルハ、其實所有ヲ創造シ、消滅スル事ナリ、故ニ銀行アリ其願主ヨリ貨幣一〇〇磅ヲ領取セリ、而レテ之ト交易シ



100 磅 = 100 磅 = 0

於テ銀行ノ所有ノ定説ハ左ノ如シ

債

約

サテ此ノ如キ地位ハ、之ヲ通常ノ論法ヨリ直ヘバ即チ一ノ所有ヲモ有セサル者トスベキ所ナリ、サレドモ斯ク言フハ全ク誤謬ニ屬ス  
抑、銀行商ノ一身ニ關シテハ、彼レ從前ヨリ富有ナルコト無シト云フモ取テ不可ナルコト無シ、然レモ經濟上ニ於テハ、其結果全ク之ニ異レリトスル事是レ實ニ此ノ學ノ最大秘訣ナリ、今夫レ銀行商ハ貨幣一〇〇「磅」ヲ有セリ、是レ自家ノ所有ニシテ、以テ商業ヲ營ムコトヲ得ベク、以テ利益ヲ收ムルコトヲ得ベシ、而シテ其主顧モ亦以テ自家ノ要求スル所ヲ購求スルニ足ル事ニ於テ、貨幣ト同一ノ効用ヲ有スル一〇〇「磅」ノ銀行債券ヲ有セリ、是ニ於テ乎、二箇ノ融通ス可ク交易ス可キ所有アリテ、

經 濟 哲 學

前ノ如ク一箇ノモノニ止マラザルナリ、然リ而シテ銀行商ハ常ニ其貨幣ノ幾分ヲ以テ其負債ト交易ス可シトノ請求ニ應スルノ義務アルニ相違無シト雖モ、尙ホ且ツ銀行商ノ營業ハ全ク一時ニ多額ノ貨幣ヲ請求セラル、コト無シトノ豫想ニ基ク者ナリ  
サレバ銀行商ハ一〇〇「磅」ノ所有ヲ有シ、併セテ請求ニ應シテ一〇〇「磅」ヲ仕拂フハ義務ヲ有ス、又主顧ハ貨幣ノ如ク通用スル銀行債券ニ於テ一〇〇「磅」ヲ請求スルハ權利ヲ有ス、サテ今彼ノ主顧ハ故アリテ銀行商ノ負債ヲ免除セント欲スト假定セヨ、即チ主顧ニ於テハ銀行債券ヲ出シテ之ヲ銀行商ニ贈與シタリト假定セヨ、然ルトキハ銀行商ハ貨幣一〇〇「磅」ヲ有シ、其餘ニ一〇〇「磅」ヲ仕拂フノ義務(一〇〇)及ビ一〇〇「磅」ヲ請求スベキ權利(十〇〇)ヲ有セリ、此ノ義務ト此ノ權利トハ相殺スルヲ以テ、銀行商ハ全ク仕拂フ義務ヲ免カレ、貨幣一〇〇「磅」ヲ有スルニ至ル



ベシ、故ニ銀行債ハ從前ヨリ富有ナルコト一〇〇磅ナリ、然レモ「經濟」上ヨリ言フトハ是レ所有ノ消滅アリタル者トセサルヲ得ズ、此ノ取引ニ依テ銀行ノ資産ハ從前ト同一ナリト雖モ、其負債ハ幾分ヲ消滅シタルモノナリ

故ニ余輩ハビーコツクノ所論ニ於テ誤謬ノ存スル所ヲ知ルナリ、是レ至重ノ點ナレバ十分ニ開説セサル可カラズ、ビーコツクハ負債ヲ以テ他ヨリ負フ所ノ貨幣、即チ「負符」ヲ以テ感應セレタル貨幣ト爲セリ、而シテ「負債」ノ減少ハ負債タル貨幣ノ性質ヲ所有タル貨幣ニ變スルニ留マレト思惟セリ、然レモ是レ大ナル誤謬ナリ、蓋シ「信約」ハ「債主」ノ身位ニ存スル無形ノ請求ノ權利ナルト同シク「負債」ハ「負債者」ノ身位ニ存スル無形ノ仕拂ノ義務ナリ、故ニ「信約」ト「負債」トハ同時ニ發生スベク、同時ニ存在ス可ク、同時ニ消滅スベキ者ニシテ、互ニ反對ノ性質ヲ有シ相合シ

チ「個」ノ「契約」ヲ組成スル者ナリ、故ニ契約ノ社會ニ於ケルハ實ニ兩極勢力ノ自然ニ於ケルニ均シ

此ノ見解ノ甚ク重要ナル所以ノ者ハ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、且ツ余輩ハ此ノ見解ノ以テビーコツクノ所論ノ全ク適用シ難キ場合ニモ適用シ得可キ事ヲ示スベシ、茲ニ人アリ、全ク辨償力ヲ失ヒ一ノ所有ダモ無ク却テ一〇〇磅ノ負債アリトセンカ、斯ル場合ニ於テモ「債主」ハ一〇〇磅ヲ請求スルノ權利ヲ有セリ、而シテ「負債者」モ之ヲ仕拂フノ義務アルハ彼レ貨幣ヲ有スルト有セザルトノ事實ニ全ク關係セザルナリ、若シ「負債者」ニシテ其「負債」ヲ仕拂フコト能ハザルトキハ「債主」ノ「權利」ハ其價格ヲ失フコトアラン、然レモ爲ニ其存在ヲモ亡フ者ニ非ザルナリ、之ト同シク「負債者」ノ仕拂ノ不能ハ決シテ其「仕拂」ノ「義務」ヲ滅却スルニ至ル者ニ非ズ、故ニ「契約」即チ「權利」「義務」ハ全ク貨幣ニ關係セズレテ存



立スルナリ、サテ「債主」ノ寛大ナル彼レ其「負債者」ノ爲ニ請求ノ權利ヲ擯テタリト假定セシカ、然ルトキハ「負債者」ハ自ラ「請求」ノ「權利」ト「仕據」ノ義務トヲ兼有セリ、此ノ兩者相殺レテ「負債者」ハ此ニ「負債」ヲ脱免スルヲ得タリ、此ノ事ヤ「負債」タル貨幣ヲ所有タル貨幣ニ變シタルニ出ヅル者ニ非ザル事明ナリ、何トナレバ此ノ場合ニ於テ一ノ貨幣モ存セサレバナリ、唯タ「義務」ヲ滅却シタル事有ルノミ、而シテ「負債者」ハ從前ヨリ富有ナルコト一〇〇「磅」ナリ

近世ノ大法學士ノ一人ナルア、サツイニ「ハ正シク前文ノ主意ニ符合スル」ノ言アリ、曰「負債」ノ棄捐ハ必ス「負債者」ヲレテ富有ナラシムル者ナリ、惠與ノ金額ハ「負債者」ノ辨償力無キト否トニ關セズ必ス「負債」ノ金額ト均一セリ、而レテ到底返済ニ至ル事無キノ「負債」ヲ棄捐スルハ全ク結果無キモノ、如クナレド、而モ所有ノ増加ハ必ズ起ルナリ、其實所有ハ

常ニ「不限定ナル分量」ヲ表示スルノミナラズ、又其全價ハ或ハ「正量」タリ或ハ「負量」タル者ナリ、故ニ若シ所有ニシテ「負債」ニ歸スルキハ「負符」ノ減少ハ「法律」ニ於テ「正價」ニ對スル「正符」ノ増加ト同一ノ變化トスルナリト又曰「負債」ノ棄捐ハ「負債者」ノ辨償力ノ有無ニ論無ク、常ニ「負債」ノ全額ニ均一スル貨幣ノ惠與タリト

余輩ハ「信約消滅」ヲ論スル處ニ於テ、更ニ此ノ論題ニ就テ述ル所アルベシ

二十四節 商用ノ常語ニ於テ「信約」ト云ヘバ貨幣ノ餘ニ有スル購買力ノ義ナリ、例ヘバ某商ハ大ニ「信約」アリト言ヘバ、世人現金ノ仕拂ニ代ヘテ該商ノ仕拂ノ約束ヲ得テ彼レニ貨物ヲ賣却スルヲ肯ストノ義ナリ、又人ノ「信約」ヲ失ヒタリト言ヘバ、彼レ約束「借券」ヲ以テ購買スルノ能力



ヲ失ヒ、唯其現金ヲ以テ買賣スルコトヲ得ルノミナリトノ謂ヒナリ、然レ而此ノ類キ眞然ナル意義ハ「經濟」ニ於テ取ルニ足ラサルナリ、「經濟」ハ唯其貿易ニ關スル所有ニ就テ論スルノミ、故ニ貨幣ノ如キモ其未タ貿易ノ範圍ニ入ラサル者ハ此ノ學ノ論スル限ニ非ス、之ト同シク「信約」ニ至リテモ其未タ貿易ノ範圍ニ入ラズ、現ニ其力ヲ以テ購買ヲ行ヒタル者ニ非ザレバ、「經濟」ハ之ニ就テ論スルコト無キナリ

人其信約ヲ以テ貿易ヲ行ハントスルニ於テハ、此ニ種々ノ錯雜ナル事情ヲ生スル事前ニ述ヘタルガ如シ、然ルニ人アリ、貨幣ヲ以テセズシテ將來ノ期日ニ至リ貨幣ヲ仕拂フ、ノ約束、即チ「信約」ヲ以テ貨物ヲ買フトキハ、貨物ト賣主ヨリ之ニ對スル所有ヲ買主ニ讓移スルト同時ニ賣主兩主ノ間ニ「契約」即チ「連結」ヲ生ス、密シク言ヘバ、貨物ニ對スル所有ノ買主ニ移ル、ト同時ニ賣主ノ身位ニ於テ期日ニ至リ貨幣ヲ「請求」スルノ權

利ヲ創造セ、同時ニ買主ノ身位ニ於テ期日ニ至リ貨幣ヲ以テ代價ヲ仕拂フノ義務ヲ創造スルナリ

サテ斯ク同時ニ創造スル所ノ權利義務ノ二分量物ハ「相反對」シ「相背馳」スル者ナリ、故ニ反對ノ符號ヲ以テ之ヲ表示スベシ、即チ「ピー」コックガ領收ト仕拂トハ「十」符ト「一」符トヲ以テ表示スベキ所ナリト云ヒシガ如ク、若シ請求ノ權利ニシテ正量ナランニハ仕拂ノ義務ハ負量ナリトスルナリ

「法律」商業及ヒ「經濟」ノ語ニ於テ「信約」ト稱スル者ハ即チ此ノ請求ノ權利ナリ、而シテ此ノ權利ノ存スル所ノ人ヲ稱シテ「債主」ト曰フ

此ノ所有即チ「權利」ヲ確保シ、記録シ、融通スルノ便ニ供センガ爲ニ之ヲ片紙ニ記載スルヲ常例トス、之ヲ「証券」ト曰フ、此ノ証券ニ數多ノ種類アリ、即チ「銀行債券」爲善手形等是レナリ、是レ即チ通常「信約証券」ト稱スル



所<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>節<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>詳<sub>レ</sub>明<sub>レ</sub>セ<sub>レ</sub>ン  
 其<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>バ<sub>レ</sub>吾<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ガ<sub>レ</sub>「經濟」ニ<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>「信約」ヲ<sub>レ</sub>論<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>キ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>唯<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>世<sub>レ</sub>俗<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>ヘ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ガ<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>キ<sub>レ</sub>空<sub>レ</sub>談<sub>レ</sub>タル<sub>レ</sub>聲<sub>レ</sub>價<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>ズ<sub>レ</sub>必<sub>レ</sub>ズ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>約<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>依<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>便<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>身<sub>レ</sub>位<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>對<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>創<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>タル<sub>レ</sub>現<sub>レ</sub>實<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>タル<sub>レ</sub>「權<sub>レ</sub>利」ヲ<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>コ<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>瞭<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>セ<sub>レ</sub>ザ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>カ<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>ズ<sub>レ</sub>例<sub>レ</sub>ヘ<sub>レ</sub>バ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>銀<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>對<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>「信<sub>レ</sub>約」ヲ<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>ニ<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>彼<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>銀<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>ヨ<sub>リ</sub>若<sub>レ</sub>干<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>貨<sub>レ</sub>幣<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>請<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>「權<sub>レ</sub>利」ヲ<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>彼<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>銀<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>ヨ<sub>リ</sub>若<sub>レ</sub>干<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>貨<sub>レ</sub>幣<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>請<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>「權<sub>レ</sub>利」ヲ<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>「信<sub>レ</sub>約」ノ<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>翰<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>ニ<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>即<sub>レ</sub>チ<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>宛<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ヨ<sub>リ</sub>若<sub>レ</sub>干<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>貨<sub>レ</sub>幣<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>請<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>正<sub>レ</sub>面<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>「權<sub>レ</sub>利」ヲ<sub>レ</sub>彼<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>翰<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>謂<sub>レ</sub>ヒ<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>「紙<sub>レ</sub>片<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>約」ト<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>ヘ<sub>レ</sub>バ<sub>レ</sub>「銀<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>楮<sub>レ</sub>券」爲<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>手<sub>レ</sub>形<sub>レ</sub>等<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>場<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>他<sub>レ</sub>物<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>賣<sub>レ</sub>買<sub>レ</sub>即<sub>レ</sub>チ<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>易<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>目<sub>レ</sub>的<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>現<sub>レ</sub>實<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>「權<sub>レ</sub>利」若<sub>レ</sub>ク<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>「負<sub>レ</sub>債」ヲ<sub>レ</sub>含<sub>レ</sub>蓄<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>「公<sub>レ</sub>共<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>約」ト<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>ヘ<sub>レ</sub>バ<sub>レ</sub>政<sub>レ</sub>府<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>創<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>タル<sub>レ</sub>「公<sub>レ</sub>債」ヲ<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>リ

二十五節 此ニ至リテ「貨幣」ハ「正可量物」ナリト言フノ眞正ノ意義ヲ發見スルコトヲ得タリ是レ即チ貨幣ハ「權利」ナリ然レモ「負債」ハ「義務」ナリト言フ意義ナリ此ク言フハ正シク代數ニ於テ零點ヲ通過シタル分量ハ其符ヲ變スト言フノ教理ニ一致スル者ナリ譬ヘハ人アリ悉ク其貨幣ヲ費スルハ其所有ハ零ニ歸スベシ而シテ終ニ負債ニ入ルトキハ彼レ悉ク其權利トシテ失ヒ其義務トシテ生シタルモノナリサテ商買ノ購買力ハ其貨幣ト其信約トヨリ成リ立ツ者ナリ然レモ彼レ「負債」ヲ起スニ非ザレバ「信約」ヲ以テ購買スルコト能ハズ之ヲ詳説セバ彼レ其「信約」ヲ以テ購買スル所ノ貨物ニ對シテ仕拂フ可キ義務ヲ起スニ非ザレバ「信約」ヲ以テ購買スルコト能ハザルナリ若シ彼レ貨幣ヲ以テ貨物ヲ買フトキハ此ノ貨物ニ依テ占メ得タル價銀ノ最初仕拂ヒ



此種貨幣ヨリモ多キカ、將テ小ナキカニ依テ得失アルベシ、若シ彼レ「信約」ヲ以テ買フトキハ、此ノ貨物ヲ賣テ占メ得タル代金ノ仕拂ノ義務ヨリ多キカ、將テ少ナキカニ依テ損益アルベシ、之ヲ要スルニ、姑ク何レノ方法ヲ以テセレハ、於テモ利益アリタリト假定スルハ、彼レノ「貨幣」及ビ「信約」ハ、彼レニ對シテハ全ク同一ノ方法ニ於テ同一ノ意義ヲ以テ均シク資本ヨリレモナリ

二十六節 現時ノ商業ニ於テ「信約」ト「貨幣」トハ互ニ何如ナル割合ニ立ツモノナリヤヲ發見スルハ極メテ有益ノ業トスルナリ、然レモ有司ニ非サル人ヲ以テ信憑ス可キ報告ヲ得ルハ極メテ難事ナリトス、而シテ會、商業上ノ凶難ニ際シ、議院ノ審問ニ對シ、報告ヲ徵スルノ機會アルモ、之ヲ以テ當時ノ目的ニ供スルノミ、敢テ平時ノ目的ニ適スル者ヲ修メ

ザルナリ、然ルニ千八百五十七年ノ商業逼迫ニ際シ、下院ノ調査委員ヨリ星セン報告書中モリツンデロン商會ノ支配人タルロベルト、スレートル氏ノ製ニ係ル有益ナル一表アリ、氏ハ千八百五十六年中ノ商會ノ事務ヲ分解シテ左ノ表ヲ製シタリ、即チ百萬圓ノ出納ニ於テ貨幣、銀行楮券及ビ其他ノ信約證書ヲ用ヒタルノ割合ヲ示ス者ナリ

領收

日附發仕拂ノ銀行振出手形及ビ商人爲替手形 五三三、五九六  
諸銀行商ニ當テタル請求仕拂ノ切手 三五七、七一五  
地方銀行商ノ楮券 九、六二七

小計

九〇〇、九三八

英會銀行楮券

六八、五五四

金貨

二八、〇八九



銀貨及銅貨  
郵便爲替

一、四八六

九三三

小計

九九、〇六二

合計

一、〇〇〇、〇〇〇

仕拂

日附後仕拂ノ爲替手形

三〇二、六七四<sup>磅</sup>

倫敦銀行商ニ當テメル切手

六六三、六七二

小計

九六六、三四六<sup>磅</sup>

英倫銀行積券

二二、七四三

金貨

九、四二七

銀貨及銅貨

一、四八四

小計

三三、六五四

合計

一、〇〇〇、〇〇〇

右ハ以テ商業一般ノ依頼ス可キ標準トスルモ敢テ不可アルヲ見ザル所ノ一大商會ノ景況ナルガ之ニ就テ觀レバ領收ノ全額ニ於テ三步ノ金銀ト七步ノ英倫銀行積券トヲ見ルノミ其餘ノ九割ハ悉ク信約ヲ以テ成レリ而シテ仕拂ノ全額ニ於テ金銀銅貨ハ僅ニ一步ニ居リ銀行積券ハ僅ニ二步ニ居リテ其餘九割七步ハ悉ク純粹ノ信約ナリ蘇格蘭ニ於テハ鑄貨ノ仕拂ニ使用セラル、事尙ホ遙ニ之ガ下ニ出ヅ此ノ事實ハ以テ我邦ニ於テ「信約」ノ力ノ極メテ偉大ナル事ヲ略ホ想像スルノ基本ト爲スニ足ルベキナリ

二十七節 サテ此ノ「權利」即チ「信約」ハ恰モ貨幣、穀物、木綿、獸皮、若クハ他ノ貨物ノ如ク之ヲ賣買シ、交易シ、輸入シ、輸出シ、運搬スルニ適シタル者



ナリ

此ノ如キ「權利」ハ「無體所有」ナリ、無體ノ物件トハ接觸ス可カラザル所ニシテ、遺産相續權、產物取用權、若クハ其他ノ一切ノ契約ニ因テ生シタル義務ヨリ成立スル者ナリ、或ハ遺産ノ中有體物件ヲ包含スルモ、取テ差等ヲ生スルコト無シ、即チ圍圍ニ生スル貨物ハ有體ナリ、其他義務ニ依テ吾人ニ歸スベキ所ノ者ハ圍圍、奴隸、貨幣ノ如ク一般ニ有體ナリ、然レモ「遺産相續權」「產物取用權」及ヒ契約ニ出ヅル「權利」ノ自體ハ全ク無體ナリ、リヤスタニヤンノ教  
授書第二卷第二章

「負債主」ノ身ニ存スル本分ノ「權利」ニ對スル者ハ之ヲ義務ト稱ス、義務トハ法律ノ拘束ニシテ、吾人ヲシテ必ス法律ノ款條ニ從ヒ或ル物件ヲ仕拂フヘキノ拘束ヲ被ラレムル者ナリ、同教授書第三卷第十三章

「負債」ト云フ語ハ、不幸ニモ世俗ノ間ニ於テ「請求」「權利」ト「仕拂」「義務」ト

ノ兩者ニ混用ヒル所ト爲レリ、此ノ二種ノ用法ハ大ニ此ノ事ニ關スル觀念ヲ混亂セシムルニ至レリ、若シ之ヲ以テ單ニ其眞ノ意義タル「仕拂ノ義務」ノミニ限ルコトヲ得バ裨益著大ナルベシ、然レモ是レ世俗ノ用語ヲ改良セルトスル者ニシテ甚ダ期ス可カラザル所ナリ

「信約証書」ハ或ハ「信約」ト稱シ、或ハ「負債」若クハ「義務」ト稱ス

「仕拂ノ義務」ハ必ズ常ニ「負債主」ノ身位ヲ離レザル者ナリ、然レモ「債主」ハ其「請求ノ權利」ヲ以テ他ノ物件ノ如ク賣買讓移スルコトヲ得ルナリ、故ニ「權利」ハ學者ノ一般ニ是認スル釋義ニ從テ「富資」ナリ、而シテ融通スル一切ノ「負債」即チ「信約」ハ「可交易所有」即チ「經濟上分量物」ニシテ、法律家「經濟學士」及ヒ「商賈」等ノ知ルガ如ク貨幣、穀物、製造物、若クハ他ノ貨物ニ同シキ者ナリ

是レ即チ「同値形狀ノ永續」ト稱スル「代數」ノ教理ノ一例ニ過ギズ、先ニ余



輩ハ或ヲ以テ經濟上可量物ノ普通ノ符號ナル事ヲ述ヘタリ而シテ銀  
 行上及ビ商業上一切ノ計算ニ於テハ各種ノ「信約」即チ「負債」銀行楮券爲  
 替手形等ヲ以テ信ニ貨幣若クハ他ノ貨物ノ如ク是ナル一般ノ符號ノ  
 内ニ含有セシムルコトヲ得ベキ所ナリ  
 故ニ信約ハ自餘一切ノ經濟上可量物ト全ク同様ニ使用スルコトヲ得  
 ベク從テ資本トシテ使用スルコトヲ得ベキ所ナリ蓋シ資本ノ真正ノ  
 釋義ハ利潤ヲ得ルノ目的ヲ以テ使用スル經濟上可量物ナリト云フ事  
 ハ既ニ述ヘタル所ナレバナリ且ツスミスセイシバリールミル(其實ス  
 ミス)以後ノ一切ノ經濟學士ハ購買若クハ運搬モ產生ノ一種ナリトス  
 ル事ヲ述ヘタリ果シテ然ランニハ「信約」モ亦現時ノ世界ニ於テハ一般  
 ニ購買力トシテ使用セラル者ナルヲ以テ「信約」ハ即チ貨幣ノ「生産資  
 本」タルト同一ノ意義同一ノ方法ヲ以テ「生産資本」タルベキナリ

二十八節 「羅馬法」ニ於テハ「富資」ナル名稱ノ中ニ「權利」即チ「信約」ヲ含蓋  
 セレメタリ  
 サレバ「ブルヒヤン」ハ曰「賣買」シ得可キ所ノ者ハ「富資」即チ「所有」ナリト  
 「所有」ノ一切ノ種類ハ「有體」「無體」ヲ論セズ「會典」ニ於テ之ヲ「レス」物「ボナ」美  
 若クハ「ベクニヤ」貨ナル名稱ノ中ニ含蓋セシメタリ又「バシリカ」ニ於テ  
 ハ「ブレグマタ」ナル名稱ヲシテ貨物ヲ含蓋セシメ「クレーマタ」ナル名稱  
 ヲレテ富資ヲ含蓋セシメタリ故ニ「會典」ノ第十六章第二十三節及ビ「バ  
 シリカ」第二卷第二章第二十一節ニ於テ「富資」ナル名稱ノ中ニ「權利」ヲモ含  
 有セシムルノ明文アリ  
 「會典」第十六卷第二百二十二節及ビ「バシリカ」第二卷第二章第二百十  
 四節ニ曰「富資」ナル名稱ノ中ニハ現金ノミナラズ動産不動産有體ノ貨



物種ニ無體ノ權利ヲ包含セシムト

サルバトトトキ、コルクホシモ亦曰、買賣ノ交互ノ契約ニ於テ、第一ニ必要トスル者ハ、メルキス即チ賣主ヨリ買主ニ送與スルノ目的ナリ、而シテ此ノ目的ノ第一ノ要點ハ其商業上ニ在ル事、即チ自由ニ賣買シ得可キ所ノ者タル事是レナリ、既ニ此ノ要點ヲ備フル上ハ、其不動産、動産、有體、無體、現存、不存、確定、不定、賣主ノ所有、若クハ他人ノ所有ノ孰レタルニ關係セザルナリ、例ヘバ「馬匹」訴訟ノ權利「奴隸」向後ニ得可キ者「得可キヤ否ヤ確實ナラザル者」等ノ如シ  
人ハ農夫ヨリ田園ノ將來ノ收納ヲ購買スルコトヲ得ベシ、翌年ニ至テ一葡萄園ニ産セントスル葡萄ハ一桶若干ニテ購買スルコトヲ得ベシ、或ハ其分量品質ノ何如ニ關セズシテ、夙ニ一定ノ價銀ヲ仕拂ハン事ヲ約シ、其生スルト生セザルトニ關セズ、善キト惡キトヲ問ハズ、同額ヲ仕

拂フコト有リ、第二ノ場合ヲ「エムプチヲ」トシ、「豫期」稱シ、第一及ビ最後ノ場合ヲ「エムプチヲ」ライ、スベラト稱ス、總テ此ノ如キ取引ノ疑ハシキ者ハ最後ノ種類ニ編入スルナリ

訴訟ノ權利ノ拋棄ハ「羅馬法」ニ於テ適法トスル所ナルヲ以テ、「甲」ハ「乙」ヨリ負債ノ返済ヲ受クベキ權利ヲ以テ、「丙」ニ賣却スルコトヲ得ルナリト』  
ナレバ「羅馬法」ニ於テハ「信約」ヲ「富資」及ビ「貨物」ナル名稱ノ中ニ含蓄セシムル者ナルコト明白ナリ、而シテ此ノ「羅馬法」ハ是レ歐洲大陸及ビ蘇格蘭ノ「普通商法」タルナリ  
且ツ「富資」ナル名稱ノ中ニハ「有形」「無形」及ビ「無體」ナル三種ノ「經濟上可量物」ヲ含有セシムル者ナル事モ亦明白ナリ

是事ヤ一切ノ法律統系ニ於テ同一ナリ、英國ノ法律ニ於テモ「美物財產」



ナル名稱ノ中ニ「債約」ヲ含書セシム

「負債即チ「債約」ハ所有ノ一種ナリト云フ事ハ法律第一ノ原則ナリ、サレバウイリヤム氏ハ曰、「起訴權即チ負債」ハ現時ニ在リテ讓移ス可キ者トスルニ因リ、私産ノ最モ緊要ナル種類ヲ爲セリト、又曰、「合法ノ起訴權ハ有價ナル私産ヲ爲ス者ナリト、又曰、「舊來私産ナリトスル現有ノ「美物財産」及ビ「通例私産」ナリト思考スル「負債」トハ云云ト

法官バイル氏モ亦曰（論序文）「所有ノ此ノ種類ハ、當今合計ニ於テ唯々國內ノ地價ト公債トノ次ニ位スルノミ」ト、此ノ文ハ四十年前ニ草シタル者ナリ、現時ニ在リテハ、債約ノ總計ハ大ニ公債ニ超ユト斷言スルモ事實ヲ失フノ患無キナリ

大法官ケントモ亦曰（米國法令第七頁）「債約ハ貨幣ノ用ヲ爲シ、商業ヲ敏

達ニシ、且ツ所有ノ分明ナル代表タルヲ以テ、實ニ國ノ商業ヲ振起シ、融通スル富資ノ本株ヲ増加スト謂フ可シト

又世ノ「經濟學士」ハ悉ク皆「手形」「株券」ヲ以テ自餘各物ト同シク可交易ノ所有ナリトセリ、スミスモ亦斯ク論シタル事ハ余輩ノ既ニ揭示セシ所ナリ（第四篇第三十三頁）

二十九節 余輩ハ既ニ「債約」ノ間與ヲ極メ、從來學士ヲシテ混惑セシメタル「債約」ノ謬妄ナル概念ヲ殄滅セリ、然レモ更ニ唯々一事ノ世人ヲ混亂セシムベキ者尙ホ存スル有リ、抑「債約」ハ「貨幣」ト同性ノ所有ニシテ唯々其度ノ劣レルノミナル事ハ上ニ數回論スル所ナリ、而シテ或ハ之ニ答ヘテ「善」者アラン「債約」ハ之ヲ終フルニ貨幣ヲ以テ仕拂フノ目的ヲ



既テ創通ス所ニシテ且ツ當ニ其用ヲ貨幣ヲ以テ仕拂フニ結ヘリ故  
ニ此ノ取引ハ果シテ貨幣ヲ以テ之ヲ仕拂フノ時マテ完了ニ至ラザル  
者ナリト今此ノ論ヲ辨明スルハ甚ク容易ナリ夫レ現時ニ於テ手形ハ  
百中ノ一ト雖モ貨幣ヲ以テ仕拂ハルニ至ルコト無シ必ズ再ヒ「債約」  
ヲ起シテ以テ仕拂フ所ト爲レリ即テ下文ニ於テ詳悉スルカ如シ且ツ  
夫レ「貨幣」ハ唯「交易」ノ中間ノ媒介タル事久シク世人ノ知ル所ナリ販  
賣ハ半交易ナリ「貨幣」ハ最モ有名ナル「經濟學士」ノ數十回論辨シタルガ  
如ク唯「之」ヲ所持スル者ガ得ント欲スル所ヲ得ルノ令狀即チ「權力」ニ  
過キス故ニ全ク永遠ニシテ且ツ普通ナル「債約」ニ外ナラズ即チ「債約」ノ  
最上ノ一種ナリサレバ「貨幣」ヲ以テ「債約」ヲ仕拂フハ唯「特別」ニシテ且  
ク「狹隘」ナル「債約」ヲ以テ永遠ニシテ且ツ普通ナル「債約」ト交易スルニ外  
ナラズ「貨幣」ハ「債約」トシテ「債約」トシテ「貨幣」ニ於ケルハ猶モ「貨幣」ノ貨

物ニ於ケル如ク「債約」ト言ヒシハ確論ナリ「貨幣」ノ使用ハ果シテ交易ヲ二  
分スル者ナリトモ「債約」ノ使用ハ之ヲ三分スル者ナリト言フベレ第  
一ニ「貨物」ヲ「債約」ト交易スル事アリ次ニ「債約」ヲ「貨幣」ト交易スル事アリ  
次ニ「貨幣」ヲ他ノ某物ト交易スル事アリ茲ニ取引ノ局ヲ結ブナリ

三十節 余輩ハ既ニ前章ニ於テ「富資」ノ意義ヲシテ「努力」ト「物質」トノ總  
念ト全ク關係ヲ絶タシメ「富資」ノ元精ハ單ニ「可交易性」ニ存スルヲ証示  
シ「富資」ノ真正ニシテ且ツ十分ニ廣潤ナル釋義ハ「可交易ノ權利」ト云フ  
ニ在ル所以ヲ説明セント勉ムルニ於テ目的トシタル所ハ今此ノ處ニ  
至リテ十分ニ明瞭ニスルコトヲ得タリト信ズ實ニ我國ニ於テ最モ巨  
大ナル所有ヲ爲ス者ハ「債約」ナリ一切ノ商業ハ殆ト「債約」ヲ以テ行ハル  
、ガ故ニ「債約」ノ總計ハ即チ各種ノ貨物ノ總計ニ當値スベキノミナラ



ズ此等ノ貨物ヲ融通セザルガ爲ニ創造スル所ノ「信約」ハ是レ亦自ラ一種ノ取引ノ主眼トスル所ナリ、即チ此ノ取引ニ於テハ「信約」ヲ賣買センガ爲ニ更ニ「信約」ヲ創造スルナリ、故ニ今此ノ二種ノ「信約」ヲ合算スルハ、我國ノ「信約」ノ總計ハ迄ニ一切ノ貨物ノ總計ニ超越スベキナリ、然ルニ現ニ「信約」及ビ「無體可量物」ヲ全ク「經濟」ヨリ排斥セントスル著述家アルハ誠ニ驚ク可キ所ナリ、少シク思慮ヲ費セバ「經濟」ノ中ヨリ「無體可量物」ヲ排斥スルノ不可ナルハ恰モ「重學」ノ中ヨリ「重力」若クハ其他ノ「無體勢力」ヲ排斥スルノ不可ナルガ如クナル事ヲ瞭知ス可キナリ、實ニ「信約」ノ「經濟」ニ於ケルハ猶ホ「重力」ノ「重學」ニ於ケルガ如キ者アリ、「重力」ハ單純ナル「勢力」ナリ、之ト同様ニ「信約」モ亦單純ナル「可交易性」ニシテ「勞力」及ビ「實質」ノ總念ト全ク連絡ヲ絶ツ者ナリ、「信約」ハ概近ニ於テ「貿易」即チ「交易」ノ主要ナル目的ヲ爲ス者ナリ、故ニ「交易」即チ「貿易」ノ「理學」ヨリ「貿易」ノ一大

目的ナル者ヲ除去スルガ如キハ豈ニ亦最モ迂遠ナル誤謬ナラズヤ、以上論辨スル所ナルクレチヤスノ「哲學」ヲシテ全ク雲州ノ如ク消散セシムトスル者ナリ、所謂「無」ハ無ヲ生スルノミ、又凡ソ有ハ無ニ歸スルコト無シトハ微分子説ノ基礎ナリ、然レモ今若シ一條ノ定約ヲ結締シテ此ニ賣買ス可キ貨物タル「權利」ヲ生ズルハ、抑此ノ「權利」ハ何如ナル有形分子ヨリ成立スル者トスルヤ、人ノ負債ニ關シテ常ニ用フル所ノ語スラモ既ニ負債ヲ創造スト曰ヒ、若クハ之ヲ滅却スト曰フニ非ズヤ、人類ノ勞力ハ唯ダ分子ノ抱合ヲ調整スルニ用フルノミナリトスルハ事實ニ適セザルナリ、人類ノ勞力ハ「觀念」「理學」「知識」ヲ生産シ取得スルニ用フル所多シ、蓋シ觀念ヲ創造スト言フハ或ハ大ニ形而上學ノ爭議ノ基礎ト爲ルノ恐アリ、即チ何人モ「觀念」「理學」「知識」ハ有形分子ノ組織スル所ナリト論スル者ハ無カラシム、サレド人ハ觀念ニ對スル所有ヲ有



レ、之ヲ賣買スルコトヲ得ベシ、故ニ觀念モ亦「富資」タルナリ  
且ツ羅馬法ハ夙ニルクレチヤスノ他ノ格言ヲ破却シタリ、所謂格言ト  
ハ「物質無クシテ物ヲ製出スルハ難シト云フ事是レナリ、何トナレバ現  
時ニ於テハ「物質無クシテ製作スルコトヲ得ベキ無體所有ハ非常ニ巨  
額ヲ占ムル者ナレバナリ、而シテ此ノ所有ノ富資タル事ハ明白ニ羅馬  
法及ヒ一切ノ法律ニ於テ斷然明言スル所ナリ」  
此ノ事ヤ惟々昏辭上ノ爭論ノミニ非ラズ、何トナレバ「理物學派」ノ所見  
ヲシテ迷謬混亂セシメタル者ハ即チ「無ハ無ヲ生スルノミ」トノ無稽ナ  
ル格言ニ存スレバナリ、其書ヲ讀ム者ハ彼等ノ此ノ語ヲ反覆スル事、實  
ニ數、ナルヲ知ルベシ、而シテ一切ノ富資ハ土地ヨリ發スト云フ此ノ學  
ノ基礎ハ全ク根據ヲ此ノ格言ニ取レル者ナリ、而シテ一朝所有ハ實物  
ヲ指スノ類ニ非ズシテ品物ニ對スル「權利」ヲ指ス者ナリトノ釋義ヲ取

ルニ至リタルヤ否ヤ、此ノ理學ノ面目ハ忽チ一變シタル事恰モ「クリス  
トマス」（祭日名）ノ猊儀ニ於ケルガ如キ者アリ、且ツ此ノ變化ハ理物學派ノ  
從來ノ持論ノ外ニ出デレ者ニ非ズ、何トナレバ理物學派モ亦自ラ所有  
トハ物ニ對スルノ權利タル事ヲ承認シ、而シテ私產所有ノ「權利」ヲ以テ  
其學理ノ全體ノ基本トシタレバナリ、故ニ吾人ニシテ「富資」ハ「可交易ノ  
權利」ナル事ヲ知ル上ハ、「富資」ハ「形體」ヲ有セズト雖モ創造スベク、滅却ス  
ベク、功用アルベキ者ナル事ヲ知ルニ苦シマザルナリ、何トナレバ世界  
ノ商業ノ據テ以テ駸駸トシテ行ハレ、日ニ百萬ヲ以テ賣買セラル、所  
ノ者ハ虛形ノ「所有」ニ外ナラザレバナリ



○第二項 「信約即ち負債」の讓移

○二種の所有、專領に係る所有、契約に依る所有、重複契約、單一契約○羅馬法に於ける「負債讓移」の原因、并に進歩○「負債讓移」に關する英國の法律、并に衡平法上の原理○「信約證書」

○「所有」の彙種 專領ニ係ル所有、重複契約、單一契約ニ依

三十一節 若レ人類ノ幸福ノ際ル所最モ重大ナル發明ヲ爲セシ者ハ何人ナルヤト問ハル、コト有ラバ、余輩ハ熟慮ノ後必ス左ノ答辭ヲ以テスルニ至ラント信ス、曰、始メテ「負債」ノ「賣買」シ得可キ貨物タル事ヲ發

明セレ人は是レナリト

余輩ハ前項ニ於テ信約ハ一種ノ「無體所有」ノ名稱ナル事ヲ論レタリ、今此ノ項ニ於テハ「負債」ヲ賣買シ讓移スル能力ノ本原及ヒ沿革ヲ推究シ、以テ商法ノ此ノ一科ヲレテ堅固ナル基礎ヲ得シメント欲スルナリ抑、所有ニ二種アリ、則左ノ如シ

(第一)專領ニ係ル所有、即チ他人ニ關係セズレテ或ル格段ナル貨物ニ對スル特殊ノ「權利」ヲ有スル事是レナリ、若シ人一貨物ニ對シテ此ノ如キ獨專ノ權利ヲ有スルトキハ、彼レ之ヲ其隨意ノ方法ニ依テ賣買シ讓移スルコトヲ得ヘキナリ、貨幣ノ如キハ即チ此ノ種類ノ所有ナリ、故ニ人ハ隨意ニ自己ノ有スル貨幣ヲ賣買讓移スルコトヲ得ルナリ

(第二)契約ニ依ル所有、即チ一人ニ於テ他人ニ連帶レテ(即チ他人ト關



係其權利ヲ有スル者は以テ是レナル者  
契約ニ依ル所有ニ又二種アリ

(甲) 雙方トモニ領收ノ權利ト報酬ノ義務トヲ有スル者は是レナリ、例ヘ

ハ封建時代ノ君主ト借地人トノ關係ノ如ク、又現時ノ主僕ノ關係  
ノ如シ、之ヲ「重複契約」ト云フ

(乙) 一方ニ於テ領收ノ權利ヲ有シ、他方ニ於テ報酬ノ義務ヲ有スル者

是レナリ、例ヘハ「債主ト負債者トノ關係及ヒ現時ノ地主ト小作人  
トノ關係」ノ如シ、之ヲ「單一契約」ト云フ

往時ニ在リテハ何レノ種類ノ契約タルヲ問ハズ、苟モ「契約」ニ依テ「所有」  
ヲ保存スルニ於テハ、雙方トモニ「己ノ獨斷」ヲ以テ他方ノ承諾ヲ得ズ  
レテ自己ノ地位ニ他人ヲ代置スルコト能ハザル者ナリト思惟シタリ  
此ノ規則ハ是レ必ズ一切ノ重複契約ニ適合ス可キ者ナリ、何トナレバ

雙方トモニ互ニ完了スベキノ義務ヲ負フ者ニシテ、苟モ他方ニ對シテ義  
務ヲ負フ者ハ、他方ノ承諾ヲ得ズレテ他人ヲレテ此ノ義務ヲ代行セシ  
ムルコト能ハザレバナリ

「封建」ノ法律ノ未ダ當初ノ勢力ヲ失ハザルヤ、君主モ「借地人」モ他方ノ承  
諾ヲ得ズレテ自己ニ代フルニ他人ヲ以テスルコト能ハザリキ、ウライ  
トノ借地法三十頁ニ曰、封建ノ借地人ハ君主ノ承諾ヲ得ズレテ借地ヲ  
他人ニ交付スルコト能ハザリシト同シク、其君主モ亦借地人ノ承諾ヲ  
得ズシテ他人ニ其差配權ヲ讓移スルコト能ハザリキ、何トナレバ君主  
ト借地人トノ義務ハ互ニ相須テ立ツ者ナレバナリ、實ニ借地人ハ君主  
ノ品行ト伎倆トニ於テ大ニ頼ム所アリシト同シク、君主モ亦借地人ノ  
性質ト伎倆トニ於テ最モ頼ム所アリタルナリ、サレバ君主ハ借地人ノ  
承諾ヲ經ズシテ其差配權ヲ讓移スルコト能ハザリシノミナラズ、又之



ヲ交易レ質入シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ處分スルコトヲ得ザリシナ  
 リ之レト同ク借地人モ亦其借地ヲ讓移スルコト能ハザリシノミナ  
 ラズ遺言ヲ以テ之ヲ贈遺處分スルコトヲ得ズ其借地ニシテ世襲ノ者  
 ト定マリシ場合ニ於テハ決シテ相傳ノ系統ヲ改ムルコトヲ得ザリシ  
 ナリト

従前ハ此ノ原理ヲレテ「債主」ト「負債者」トノ間ニ存スル者ノ如ク單一ナ  
 ル契約ニモ適合セシメタリ然レモ此ノ場合ニ於テハ領收ノ「權利」ヲ有  
 スル一方ニ於テ目録ノ「所有」ニ於ケルガ如ク隨意ニ此ノ「權利」ヲ讓移ス  
 ルノ權利アル事ヲ主張スルニ至リシハ自然ノ勢ナリ而シテ且ツ其論  
 ハ十分ノ理由ヲ有スル者ノ如シ蓋シ義務ノ場合ニ於テハ兩造即チ「債  
 主」ト「負債者」トノ間ニ著大ナル懸隔アリテ「負債者」ニ於テハ固ヨリ他人  
 ニ代理セシムルコトヲ得ズ何トナレバ「債主」タル者ハ此ノ代理負債者

ノ身代果シテ辨債力有ルヤ否ヲ知ルコト能ハザレバナリ故ニ「負債者」  
 ヲ變更セシガ爲ニハ先ツ「債主」ノ承諾ヲ經ザル可カラザル事ニ於テ  
 明白ナリ然ルニ「債主」ノ地位ハ全ク之ニ反セリ現ニ負債ヲ荷フ人モ  
 テ果シテ能ク之ヲ仕拂フノ資産ヲ有セバ彼レ之ヲ「甲」ニ仕拂フモ將  
 「乙」ニ仕拂フモ以テ此ノ負債ノ消却ス可キ上ハ更ニ異ナル所無キナリ  
 故ニ「負債者」ノ變更ハ大ニ「債主」ヲ妨害スル者アリト雖モ「債主」ノ變更ハ  
 負債者ニ一切ノ妨害ヲ加フルコト無キヲ斷言ス可キナリ

余輩ハ次ニ羅馬法及ヒ英吉利法ニ於テ「債主」ヲシテ其權利ヲ賣買レ讓  
 移スルノ能力アラシムル事ノ起原并ニ沿革ヲ尋究スベシ

○羅馬法に於ける「負債讓移」の「原因」并に「進歩」

三十二節 數百年間羅馬人ハ賣却讓移ノ成否ニ從テ貨物ヲ二種ニ分



ケタリ、其始メテ所持シタル所ニシテ平生富貴ト稱セシ所有ノ種類ハ、必ズ精密ナル儀式ヲ經サレバ賣買シ讓移シ難キ者トシタリ、之ヲ「レス、マンシビ」物件ト稱シタリ、第二ノ種類ハ當初ニ左マテ貴重セザリシ所ニシテ、單ニ交付ノ一事ヲ以テ讓移スルコトヲ得可キ者トシタリ、之ヲ「レス、チク、マンシビ」物件ト稱シ、無體所有ノ多分ハ皆此ノ第二ノ種類ニ屬セシメタリ  
「ラブリガチヲ務及ヒ」コントラクメス契約ナル語ハ羅馬上世ノ法律ニ用ヒザル所ナリ、貨幣ノ貸借ニ基ク「債主」ト「負債者」トノ關係ハ「十二區法」ニ於テ之ヲ「チキサス」結ト稱シタリ、ムチユエム即チ貨幣ノ貸與ハ必ズ「レス、マンシビ」ノ讓移ニ於テ使用スル秤量儀式ヲ以テ之ヲ行フ事ナリキ、即チ五人ノ証人ノ面前ニ於テ問答ヲ以テ「約束」ヲ固締スルノ儀式ヲ行ヒ、然ル後「負債者」ハ「債主」ニ對シ嚴格ナル契約拘束、即チ「チキサス」ヲ被ル

者ト爲レタリ、而シテ此ノ契約ノ消却ヲ「ソルシ」即チ解放ト稱シタリ、サレド、斯ク創造シタル「負債」即チ將來ニ至リテ同額ヲ請求スベキ「債主」ノ「權利」ハ「無體所有」ニシテ「レス、チク、マンシビ」ニ編入ス可キ所ナリ、從テ簡單ナル授受ニ依テ讓移スルコトヲ得ル者ナリ  
不幸ニシテ「十二區法」ノ義務ニ關スル部分ハ現存セズ、故ニ羅馬人ハ負債ノ賣買讓移ニ關シテ法則ヲ立テシヤ否ヤ、及ヒ元來負債ハ賣買シ讓移シ得可キ者ナリトノ觀念ヲ有セシヤ否ヤヲ知ルコト難シ  
「信約」ハ「レス、チク、マンシビ」即チ簡單ナル手續ヲ以テ交付ス可キ所有ノ一種ナリトセシト雖モ、又手ヲ以テ之ヲ授ケ難キ者トシタリ、現時ニ於テハ証書ヲ以テ信約ノ證據トナスノ方法行ハレ、此ノ証書ヲ授受スルハ即チ信約其物ヲ授受スルニ同シトナシ、此ノ方便ニ由リ信約ノ如キモ他ノ貨物ト同様ニ手授スルコトヲ得可シト雖モ、羅馬人ハ末代ニ至



ルマテ斯ノ如キ方法ヲ用ヒザリキ、銀行商ニ非ザル人々ノ間ニ債負ノ  
買賣アリレハガイユス第二卷第三十八節ニ始メテ見エタリ、曰、債負ハ  
「レス、干ク、マンシピ」ノ一種ト看做スト雖モ、手ヲ以テ授付スルニ由レ無  
キガ爲ニ、債主、負債者及ヒ讓受人ノ三者會合センコトヲ要ス、斯ク會合  
スル所ニ於テ「債主」ガ其「負債者」ニ對シ請求スルノ權利ヲ讓受人ニ讓移  
スル事ヲ諾スルトキハ、互ニ口頭ノ契約、即チ「スチピウレシヨ」ヲ証人ノ  
面前ニ爲スベシ、之ニ因テ「債主」ハ「負債者」ニ請求スルノ權利ヲ讓受人ニ  
讓移スル事ヲ了ル者ナリ、之ヲ行フハ讓渡人ハ「讓受人」ニ對スル「債負  
ヲ免レ、且ツ「負債者」ヲシテ彼レニ對スル義務ヲ免レシムルナリ、「讓受人」  
ト「債主」トノ間ニ結フ契約ヲ「ノバシテ」新結契約ノ意ト稱シ、新債主ニ對シテ「新  
負債者」ヲ選定スル事ヲ「デレゲシテ」代理選定ノ意ト稱ス、此ノ嚴格ナル契約ニ  
レテ結締ヲ了ルノ後ハ讓受人ハ自家ノ姓名ヲ以テ「負債者」ニ關シ起訴

スルコトヲ得ルナリ、何トナレバ今ヤ此ノ契約ニ依テ相互ニ關係アル  
者ハ此ノ二人ナレバナリ

三十三節 羅馬ノ舊法タル「十二區法」ハ固ヨリ簡易ナル者ナレバ、委任  
者即チ「代辨者」ニ關シテハ毫モ記スル所無キナリ、蓋シ各人ハ貨物ノ純  
全所有主タルカ若クハ然ラサルベシ、ガイユス第二卷四十節合法ナル所領權ヲ握  
有スル者ハ「ドレナス、エキス、ヂユール、キリチヤム」即チ羅馬人ノ普通法  
ニ因リテ許ス所ノ「所有主」ト稱シタリ、而シテ二重權利、即チ亞位權利ナ  
ル者ノ存スル事ヲ認メザルナリ、「十二區法」ハ二箇ノ場合ニ於テノ外ハ  
他人ノ名稱ヲ以テ訴訟スル事ヲ許サザリキ、ガイユス第四卷八十二節  
會典第四卷十七、百二十三節  
有主タル人ノミ自身法庭ニ出テ、訴訟スルコトヲ得タルナリ、而シテ



凡ソ相互ノ間ニ契約アル者ニ非ザレバ他ノ一方ノ人ヲ訴訟スルコト能ハザリシガ故ニ負債ノ「讓受人」ハ「負債者」ヲ訴訟スルコト能ハザリキ、其理何如トナレバ兩者ノ間ニ契約ノ共知アル無ケレバナリ  
「十二區法」ハ殆ト二百七十七年間確然トシテ實施セラレタリ、此ノ時ニ當リ訴訟文書ノ形式ハ極メテ嚴格ニシテ、少シク之ニ違フ有リトモ訴訟ノ權ヲ害シタリ、之ヲ「レジス、アクシヨネース」ト稱ス、即チ今日ノ語法ニテ「普通法書式」トモ稱ス可キ者ナリ、而シテ此ノ書式ノ繼續セシ間ハ他人ノ爲メ若クハ他人ノ名稱ヲ以テ訴訟スルノ道有ラザリキ

三十四節 然ルニ歲月ノ移ルニ從ヒ新權利、新職業、新所要、新思想ノ發出スル有リ、而シテ此ノ新出ノ急務ニ應ゼンガ爲ニ夫ノ廣大ナル衡平裁判ナル者世ニ出デタリ、而シテ都會及ヒ外國奉行ナル最上法官ハ公

衆ノ利益ノ爲ニ隨意ニ國法ヲ改正、増補スルノ權カヲ附與セラレタリ、蓋シ羅馬人舊法典ヲ重ズルノ極メテ大ナル、法官ヲシテ只々其缺乏ヲ補フノミニ止リテ、其一部ヲダモ廢止スルコト能ハザラシメタリ、シセロ書テ古來ノ法典ヲ稱シテ曰、各章ノ包含スル意義ノ有益ナル實ニ古今ノ哲士ノ文庫全體ニモ勝レル者アリト、夫レ然リ、然リト雖モ終ニハ法典ノ條款ヲ多少削除スルニ非ザルヨリハ、到底法律ニ於テ保護スルニ由シ無キ所ノ新權利、新關係發生スルニ至リタリ

此等ノ新出權利ノ中ニ「衡平法」ノ權利アリタリ、蓋シ人或ハ貨物ニ對シテ合法ノ所領權ヲ有スベシ、然レモ握放即チ權利消滅ノ嚴格ナル儀式ヲ行フヲ無クシテ之ガ使用ト利益トヲ他人ニ與フルヲ得タリ、故ニ本原ノ所持主ハ唯々「ヌーダム、シユス、グイリチャム」（單上權利即チ單ニ所有權ヲ有スル者ニシテ、被許人ニ於テ其利益上、衡平法上、即チ中



世ノ法官ノ語ヲ以テ管ヘバ利得上使用ノ權ヲ有スル事ナリキ、然レモ  
 「十二區法」ハ衡平法上ノ所持主ニ訴訟權ヲ許サザリキ  
 サレバ「債主」ガ「負債者」ノ承諾無シニ「負債」即チ「訴訟權」ヲ賣却シ讓移スル  
 トキニ於テモ獨リ彼レノ「ミ」ヌーダム、ジュニス、クイリチヤム」ヲ有スル者  
 ニレテ、讓受人ハ之ニ對スル衡平法上ノ權利ヲ有シタリ  
 「十二區法」ノ本原ノ法律ニ直接ニ背反スルコト無レニ此等ノ衡平法上  
 ノ權利ヲ保護センガ爲ニ、法官ハ漸次「律法假釋」ノ大制度ヲ編制セリ、而  
 レテ直ニ之ヲ以テ「負債」ノ「讓受人」ノ衡平法上ノ權利ヲ保護スルニ適用  
 レタリ

三十五節 紀元後五百七十七年ノ頃ニ至リ「レキス、エイブチヤ」法律ヲ  
 立テ、舊ノ「レヂス、アクレヨネス」ヲ廢シタリ、蓋シ「レヂス、アクレヨネス」

ハ元來「十二區法」ノ一部ニ非ズレテ、之ニ適合セシメンガ爲ニ「法官」ノ編  
 纂セシ所ノ書式ナリ、サテ之ニ代ヘタル新書式ハ「奉行」ノ制作セシ所ニ  
 レテ之ヲ「ホルミユラ」書ト稱シ、二條ノ「レヂス、ヂユリヤ」法律ニ於テ之ヲ  
 遵守シ且ツ擴充シタリ

此ノ新「ホルミユラ」ニ於テハ「コグニトレス」若クハ「プロキユラトレス」即  
 チ本人ニ代テ訴訟スル「代辨者」ヲ用フル事ヲ免シタリ、「負債」ノ「讓受人」ハ  
 「讓渡人」ノ「コグニトル」「プロキユラトレ」即チ「アロキユラトル」トシテ出庭  
 スル事ヲ許サレタリ、此ノ如キ場合ノ書式ハ「ガイユス」ニ見エタリ第四  
六頁十

奉行ハ最初ノ「債主」ニ「アクチヲ、ヂレクダ」又ハ「アクチヲ、ウルガリス」直接  
 訴訟權ヲ與フルコトヲ得タルノミナラズ、又「負債」ノ「讓受人」ニ「アクチヲ、  
 ヌチリス」即チ「アタチヲ、スイクチヤ」使用權即チ假ヲ與フルコトヲ得タ



ガイユス第三卷第三十二章

債主其訴訟權ヲ賣却スルトキ之ヲ「レダレ、アクチヨネム」訴訟權ノ別又  
ハ「マシダレ、アクチヨネム」訴訟權ノ別ト稱シタリ、讓受人「ヨレム、スワム」  
自巳ノ代辨人ト稱シ第三卷之ヲ眞ノ原告ト認メタリ、此ノ委任  
ハ後ニ挽回ス可カラス、而シテ代辨人ハ其原主ニ責ヲ負フ事無キナリ、  
此ノ如キハ即チガイユスノ時代ニ當リ「負債」ノ賣買讓移ニ關シテ存セ  
シ「法律」ノ狀況ナリ、蓋シガイユスハ「アントニーノス」統ノ治世ニ當リテ  
其教授書ヲ著述シタリト云フ、此ノ書ヤ羅馬人が「列類」ヲ去ルノ時ニ  
當リテ全羅馬帝國ニ行ハレタル法律ノ要書ノ科タリシナリ、而シテ今  
日ノ英國ノ普通法ノ眞ノ本源ハ此ニ在ル事世ノ能ク知ル所ナリ、英國  
ニ於テ「負債」ニ關スル現時ノ普通法ハ全クガイユスノ示ス所ト同一ナリ

三十六節、ガイユスノ後久シカラズシテ「アレキサンドル、セプテムス」  
帝ハタルヒヤンノ説ヲ容レテ紀元二、百二十四年ニ「憲法」ヲ公布シタリ、  
而シテ此ノ憲法ニ於テハ「負債者」ノ認知承諾ヲ經ズシテ「負債」ヲ賣買ス  
ル事ヲ全ク自由ニシタリ

「會典」第十八卷、第四章、第十七節ニ曰、吾人ハ一定ノ事件ノ起リ、若クハ期  
日ノ至ルヲ約シテ仕拂フベキ負債ヲ賣買スル事ヲ慣例トス、何トナレ  
バ此ノ如キモ亦賣買シ得可キノ所有ナレバナリト  
「コーデツキス」密ニハ「コーデツキス」ト云フ、上文ニ所謂「憲法」ト同物ナリ 第四卷、第三十九  
章、第三節ニ曰、「負債者」ノ認知無ク、又或ハ其意ニ反シテ負債ヲ賣買スル  
ハ通常ノ事ナリトス

且ツ不動産ト雖モ動産ト同シク之ヲ賣買スルヲ全ク合法ナリト明言  
シタルナリ



「ゴトデヤキス」第四章第三十九章第九節ニ曰「自己ノ訴訟權ヲ購買セシ者ハ自己ノ姓名ヲ以テ訴訟スルコトヲ得ベキト同様ニ、不動訴訟權ヲ購求セシ者モ亦同一ノ權利ヲ有スルノ合法ナルハ、明白ニシテ疑フ可カラザル所ナリト」

ガイユスノ時ニ在テハ、負債ノ讓受人ハ讓渡人ノ代理人トシテノミ訴訟スルコトヲ得タリ、是レ蓋シ其「ヂヤス、キリチヤム」即チ讓渡人タル法律上ノ資格ヲ示ス事ヲ必要トセシガ故ナリ、然レ而テ「ヂヤスチニヤン」ニ至リテ全ク「ヂヤス、キリチヤム」ヲ廢シ、之ヲ目シテ法律學生ヲシテ迷惑セシムル一箇ノ曖昧吾句ニ遇キザル羅馬古法ノ廢骨ナリト爲スニ至レリ、故ニ其讓受人ハ自己ノ姓名ヲ以テ訴訟スルコトヲ得タリ  
「ゴトデヤキス」第四章第三十九章第七節ニ曰「負債ヲ賣買スルノ後ハ、一購求者又ハ債主自身ノ要求アルトキ訴訟ヲ許可スルコト有ルベシト、

是「ゴトデヤキス」負債ヲ契約ニ依ル所有ニ關スル一般ノ規則ヨリ除去シ、他ノ貨物上同シク自由ニ賣買スルコトヲ得ル者ト爲スノ制度完了ヲ告ケタリ

三十七節 負債ニ關スル此ノ法律ハ「パシリカ」上卷ニハ於テモ亦之ヲ詳ナリ十分ニ採用シ確定シタリ

「パシリカ」第十四卷第四章第十六節ニ曰「或ル期日、或ル事件ニ於テ仕拂フベキ負債ハ賣買スルコトヲ得ベシト」

「パシリカ」第十九卷第四章第六十八節ニ曰「單純ナル負債ハ設若的ニ賣買スルコトヲ得ベク、設若的ノ負債ハ單純ニ賣買スルコトヲ得ベシト」

「パシリカ」第十九卷第四章第二十七節ニ曰「負債ハ負債者ノ承知無ク、又其處ニ反對賣却スルコトヲ得ベシト」



不動起訴權並ニ一己起訴權ノ賣買ハ第三十二章ニ於テ之ヲ制定シタ

三十八節 此ニ右ノ文章ヲ拔萃セシ所以ノ者ハ、其中ニ於テ信約ノ歴史ヲ見ルコトヲ得ベク、且ツ英國ヲ除クノ外、全歐州ノ「商法」ハ悉ク皆此ニ基ケバナリ

此ノ檢究ハ以テ最近一二ノ著述家ヲ混亂セシメタル難論ヲ解除スルニ足ルベシ、蓋シ傳ヘテ今日ニ至レル中ノ最モ舊キ爲替手形ヲ見ルニ、讓移シ得ベキ事ヲ記スルノ語無シ、然レモ吾人ハ實際其讓移セラレタル事ヲ知レリ、而シテ其理由此ニ至リテ明白ナリ、既ニ開示セシガ如ク「マシカ」ニ於テ遵守確認スル羅馬帝國ノ法律ニ於テハ元來負債ヲ以テ自由ニ賣買スルコトヲ得ヘキ者トシタレバ、之ヲ賣買スルニ於テ一

ノ讓移シ得可キトノ語ヲ記スルヲ要セザレバナリ

此ノ事ヤ亦以テ蘇格蘭ノ法律ト英吉利ノ法律トノ間ニ「信約証書」ニ關シテ本然ノ區別アル事ヲ説明スルニ足レリ、英國ノ法律ニ於テハ、負債者ハ其承諾無シニ債主ヨリ自己ニ宛テ、振出シタル手形ヲ引受ケ、仕拂フベキ義務ヲ負擔セズ、且ツ引受ケザルガ爲ニ債主ヨリ出訴セラル、ノ恐無シ、而シテ名指人若クハ持參人ニ仕拂フベキ手形ニ非ザルヨリハ(即チ負債者ノ承諾ニ因テ讓移シ得可キ手形ニ非ザルヨリハ)讓受人ヲシテ其自己ノ姓名ヲ以テ訴訟スルコトヲ得シムルノ方法ヲ以テ讓移セシ事難シ、然ルニ蘇格蘭ノ「普通法」ニ於テハ、負債者ハ其債主カ彼ニ宛テ、振出セル手形ヲ領承スルノ拘束ヲ被レリ、而シテ領承ヲ拒絕スルハ則チ訴訟ニ遭フノ恐レ有リ、加之蘇格蘭ノ「信約証書」ハ讓移不可キノ讓移記セシ事ヲ要セズ、普通法ノ効力ニ依テハ、債主ヲシテ隨意ニ之



ヲ讓移スルコトヲ得ルモノナリ故ニ讓受人ハ自己ノ姓名ヲ以テ「負債者」ニ對シ起訴スルコトヲ得ルナリサテ此ノ差異ヲ見ル所以ノ理ハ無シ、蘇格蘭ノ「普通法」ハ會典及ビパンリカノ「羅馬法」ヨリ來リ、英國ノ「普通法」ハガイユスノ「羅馬法」ヨリ來ルニ因ルナリ

羅馬人ノ如キ實地ニ敏捷ナル民ニシテ久シク負債ヲ或ル物質ニ記載シ之ト共ニ負債者ガ讓移ヲ承諾スルノ語ヲ録スルノ方法ヲ思ミタルハ稍奇トス可キニ似タリ然レモガイユスノ時其以後ニ至ル迄ハ負債讓移ノ事既ニ自由ナリシニモ拘ラズ尙ホ「負債者」債主及ビ「讓受人」ノ三名會合シテ言語ヲ以テ承諾ヲ示サン事ヲ必要トセリ、ガイユスノ言ニ曰、教授書第三卷第四項彼レノ時ニ於テ羅馬人ハ未タ筆書シタル手形(キログラフ)ヲ用ハズ之ヲ用ヒタルハ只ク外國人ノミナリト、紀元四百六十五

年ノ頃ニ當リテリヲ帝ハ「ヌチプラチヲ」即チ三人相會ノ嚴確ナル儀式ヲ簡ニシ言語上ノ承諾ヲ以テ十分ナリトスル旨ヲ布告セリ、教授書第六、第十七、第二十項降テ「ヌチヤスチニヤン帝」ノ時ニ至リテハ筆書シタル義務普通ニ行ハレ書面ニ記載シタル各様ノ義務ハ以テ負債者ヲ拘束スルニ足リヌ

三十九節 羅馬人ハ銀行ヲ發明シタル者ナル事十分ノ確証アリ而シテ其營業ノ方法何如ハ下文ニ讓リテ詳カニスベシ然レモ余輩ノ信ズル所ヲ以テスレバ羅馬人ハ未タ近世ノ一大發明ニシテ大ニ信約及ビ商業ノ制度ヲ擴張シタル所以ノ者ヲ知ラザリキ即チ貨幣ノ價格ヲ保持シテ貨幣ト同様ニ流通セシムルノ目的ニ出デタル請求仕拂即チ一ノ手形ヲ以テ將來ニ仕拂フベキ手形ヲ割引スルノ方法是レナリ



余輩ハ數多ノ著述家ノ明言スル所ニ反シテ羅馬人ハ未ダ商業上ニ於テ爲替手形ビレツフ、エキスチエシテヲ使用セザリシ事ヲ斷言スル十分ノ證據アリ、然レモ外國ニ在ル取引先ヘ向ケテ手形ヲ振出スノ方法ハ正シク行ハレタリト見エタリ、レセロハカニニヤス、サルスチヤスニ書ヲ送テ曰、彼レ手形ヲ人民ニ分配スヘキ利潤ト共ニ羅馬ニ送附スルノ周旋ヲ爲シタリト云ヘリト

又彼レノ男ノ亞典ニ遊ブヤ、彼レアツチカスニ書ヲ送テ曰、余ハ彼レガ亞典ニ於テ要スル所ノ貨幣ハ手形ヲ以テ送致シテ可ナリヤ、將タ彼レヲシテ之ヲ携帶セシムベキヤヲ了知セン事ヲ希望スルナリト

又曰、故ニ余ハ彼レノ年年ノ費用ノ爲ニ亞典ニ向ケタル手形ヲ彼レニ送ルノ盡力ヲ足下ニ請ハザル可カラズト

又曰、故ニ恐ラクハ余ハ卿カ余ノ爲ニ交易シタル手形ヲ仕拂ハンガ爲

卿ニ貨幣ヲ借ラザルヲ得ザルナルベシト

○負債讓移に關する「英吉利法律」并に「衡平法上」の原理

四十節 法律家ハ皆數、引証スルヲ見ル所ノロルドコークノ語ヲ熟知スベシ、曰、凡ソ能力、權利、權義若クハ訴訟物件ヲ異人ニ附與スベカラス、又讓移スベカラズトノ法律ヲ定メタル我國賢人ノ才知ト政界トハ眞ニ感服ス可キ者ナリ、何トナレバ此ノ事ヤ必ス繁多ナル争訴ノ起源ト爲リ、大ニ人民及ヒ殊ニ借地人ニ壓虐ヲ被ラシ、且ツ公平ナル裁判ヲ決行スルノ妨碍ヲ爲スベケレバナリト、

蓋シロルドコークガ異人ト稱シタル者ノ意義何如ハ姑ク之ヲ他日ニ讓ルモ、此ノ斷言ハ久シク裁判官ノ法律并ニ「衡平裁判」ニ於テ通例異人云云ノ注解ヲ除キテ遵奉シタル所ナリ、サレバ英國ノ「普通法」ニ於テハ



負債即チ訴訟物件ヲ以テ譲移ス可カラサル者トスト云フ事ヲ最モ十分ナル意義ニテ提唱シ、且ツ特ニ負債ハ他ノ所有ト種別シテ譲移ス可カラザル所ナリトスルモノ、如シ

余輩ハ今此ノ論ニ於テ何如ナル歴史上ノ基礎アルヤヲ究定シ、又タ元來負債即チ訴訟物件ノ賣買ニ關スル眞ノ普通法ノ主義ハ何如ナル者ナルヤヲ討尋シ、以テ商法ノ此ノ部分ヲシテ確乎タル基礎ノ上ニ立タレメン事ヲ勉メザル可カラズ

蓋シ法律上ニ於テ斷然譲移ス可カラザル所トスル訴訟物件アリ、故ニ若シ之ヲ譲移スルモ、必ス全ク無効ニ歸シテ讓受人ニ一ノ權利ヲ附與スルニ至ラザルナリ、例ヘバ海員ノ賃銀、官吏ノ給料、寺院ノ年俸ノ如キ是レナリ

普通ニ解スル所ニ據レバ左ノ如ク此ノ主義ヲ定説スベキナラン、曰訴

訟物件ハ普通法ニ於テ不可譲移ナリトス、爲替手形ハ此ノ普通法ノ例外ナリ、約束手形ノ譲移ス可キ者ハ商買ノ習慣ニ入ラス、其譲移ス可キハ全ク千七百〇四年第九章ノ公布ニ基クモノナリト

四十一節 蓋シロルドコークノ名聲ニハ十分ノ尊敬ヲ加ヘサルニ非ズ、然レモ氏ガ負債ヲ譲移ス可カラザル者トスル理由トシテ論スル所即チ爭論ハ盡出ト公平裁判ノ妨害ハ之ヲ現時ニ於テ十分ナル證據ト認ムルコトヲ得ザルナリ

眞正ノ理由ハ既ニ開説セシガ如ク一層深奥ナル點ニ在リ、即チ他無シ、所有ヲ契約ニ依テ(証書、盟約、キキサス)等ヲ以テ互ニ他ニ關係スル兩造ノ間ニ於テ保持スルトキハ、其一人ハ隨意ニ他ノ一人ノ承諾ヲ得ズシテ自己ノ地位ニ他人ヲ代置スル能ハザル事是レナリ



且テ訴訟物債ノ讓移ス可キザル事ハ、羅馬法ニ於ケルガ如ク所有ノ  
例外ノ規則ナリト言フハ大ナル誤謬ニシテ、其實ハ是レ「封建時代」ニ在  
テ所有ノ多分ニ涉リシ規則ナリ、而シテ自由讓移ノ規則ハ只テ動産ノ  
一小部分ニ適應シタルノミナリキ  
羅馬政略ノ要義ハ平等ト無限所領トニ在リタリ、蓋シ羅馬ノ「普通法」ニ  
於テハ各人ヲシテ其妻子奴隸以下ノ所有ニ對シ純然タル所有主タラ  
シメタリ、彼レ決レテ妻子奴隸ト契約ノ有様ニ於テ生活ヲ共ニセシモ  
ノニ非ズ、其家族ニ對シテハ「普通法」ノ領主ニシテ其府民ニ對シテハ同  
等ナリキ、故ニ羅馬府民ノ間ノ契約ノ有様ハ極テ稀少ニシテ、専ラ債主  
ト負債者トノ間、及ビ守護者ト被護者トノ間ニ止マリタリ、且ツ既ニ示  
セシガ如ク羅馬上世ノ法律ニ於テハ、負債ハ負債者ノ承諾ヲ得ズレテ  
讓移ス可キザルモノナリシナリ

然レ「封建」ノ社會ノ結構タル、全ク羅馬ノ平等及ビ無限所領ノ有様ト  
異ナレリ、「封建社會」ノ元精トスル所ハ、既ニ土地ノ所領權ハ全ク國民ノ  
代表タル國王ニ在リトスル事ナリキ、羅馬人ノ「ドミニウム」ノ如ク、日耳  
曼人ノ「アルロツド」ノ如ク、土地ニ對スル無限ノ所領權ハ全ク一個人ノ  
得ル能ハザル所ナリキ、サルマルチン、ライト曰、「英國一切ノ土地ハ間接、  
又ハ直接ニ國王ヨリ借有スル所トシタル事ニシテ、此ノ土地借有主義  
ノ嚴ナルヤ、國王ト雖モ借有法ヲ以テスルノ外ハ、全ク束縛無キノ方法  
ヲ以テ土地ヲ人ニ附與スルコト能ハザリシナリト」  
當初ノ國王ハ隨意ノ時間臣下ニ土地ヲ貸與セシガ、次ニ之ヲ終身貸與  
トシ、終ニ永久貸與シタリ、然レ「常ニ之ニ對シテ相當ノ義務ヲ受クベ  
キ」ノ約束ヲ爲シタリ、故ニ此ノ借地ヲ有スル者ハ常ニ國王ニ對シテ契  
約ノ有様ニ立チタリ、之ト同シク臣下ハ又其陪臣ニ此ノ土地ヲ分貸シ、



法律ノ制セザル限リハ陪臣モ亦之ヲ其下ニ分貸スルコトヲ得タリ

四十二節 此ノ如キ景況ナリレガ爲メ社會ノ全體ハ悉ク契約ノ有様ニ屬シタリ、羅馬社會ノ結構ノ要ハ平面狀ニ屬シタリトセバ、封建社會ノ結構ノ要ハ柱狀ニ屬シタリ、最モ高等ナル者ヨリ最モ下等ナル者ニ至ルマデ、人ハ皆確乎タル契約ノ有様ニ居リ、其中間位ニ立ツ者ハ、其上ニ立ツ者ト其下ニ立ツ者トニ對シテ二重ノ契約ヲ爲シタリ、故ニ其結果タル何人モ自己ト契約スル人人ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ其地位ヲ變ズルコト能ハズ、其所有ヲ移スコト能ハザリシハサルマルチン、ライトノ明言セルガ如シ

サレバ純然タル封建社會ニ於テハ、借地人ハ契約ノ他ノ一造ノ承諾ヲ得ズシテ隨意ニ他人ヲ自己ノ位地ニ代置スルコト能ハザルナリ、是レ

債主若クハ負債者モ、契約ノ他ノ一造ノ承諾ヲ得ズシテ他人ヲ自己ノ位地ニ代置スルコト能ハザルト其理ヲ同ウスル者ニシテ、其理トハ即チ契約ニ依テ保持スル所有ナルニ因ルナリ

故ニ訴訟物件ニ關スル法律ハ獨リ訴訟物件ニ止マル者ニ非ズ、國中一切ノ土地ニ關シテ悉ク然ル所ナリ、是レ實ニ一般ニ行ハル、主義ノ一例ニレテ、之ヲ他國ニ求ムルモ亦其例証ヲ得ルヲ難シトセザルナリ

封建時代ノ軍務借地ハ其性質ニ於テ全ク讓移ス可カラザル者ナリ、而シテ封建時代ノ著述家ハ特ニ此ノ如キ者ノミヲ真正ノ借地ト稱セリ、然レハ此ノ嚴法ハ漸次緩弛レテ、借地ハ讓移即チ賣買ス可キ者トシタリ、ライト氏ノ借地法三十三項ニ曰、故ニ直接ノ同價、若クハ契約上ノ同價ヲ以テ、交易即チ販賣スル所ノ借地、若クハ一切ノ義務ヲ免カレタル借地、若クハ軍事、若クハ其他ノ事ニ於テ若干ノ義務ヲ負ヘル借地、若ク



ハ租税、小作等ヲ任拂フニ代ヘテ貸與スル所ノ借地、要スルニ其由來制  
規ニ於テ讓移ス可キ者ナリト明言スル所ノ借地ハ真正ノ借地ニ非ズ、  
是レ即チ封建時代ノ著述家ガ往往賣買借地、自由借地、租税借地、讓移借  
地等種種ノ稱ヲ附スル所ナリト  
故ニ封建借地ハ元來讓移ス可カラザル者タリシヤ疑ヲ容レズト雖モ、  
始メヨリ之ヲ授與スル者ニ於テ正レテ讓移ス可キ所トレテ被與者、若  
クハ其讓受人ニ與フルトキハ、讓受人ハ自己ノ姓名ヲ以テ授與者ニ對  
シ起訴スルコトヲ得タルナリ、且ツ地主ニ於テ其借地人及ビ其讓受人  
ニ借地証書ヲ附與スル事モ習慣ト成リテ、此ノ借地証書ハ讓移ス可キ  
者トシテマシ

四十三節 領主ト借地人ノ關係ハ債主ト負債者トノ關係ニ於ケルガ

如シトハ、既ニ記載セシガ如ク、舊時ニ在リテハ共ニ他方ノ承諾ヲ得ル  
ニ非ザレバ他人ヲシテ自己ノ位地ニ代立セシム可カラザルモノナリ  
シナリ

然レモ借地人即チ庸役、若クハ地稅ヲ負擔スル人ニ於テ、支配權ノ讓移  
ヲ承諾スルハ之ヲ新主ニ轉事シタリト曰フ、此ノ公諾ニ依テ、彼レ其  
庸役、若クハ地稅ヲ受クルノ權利ヲ讓移シタル旨ヲ認承スルモノナリ」  
「封建制度」ニ屬スル權利ノ尙ホ十分ニ嚴格ナルニ當リテハ、借地人ノ轉  
事ヲ以テ支配權ノ交付即チ讓移ニ於テ缺ク可カラザル者トシタリ、領  
主ハ借地人ノ意ニ背テ其臣從ト庸役ヲ他ノ領主ニ轉ズルコト能ハ  
ザリシナリ、而シテ若シ借地人ニ於テ讓與者領主ニ轉事スル事ヲ拒  
ムルハ、則其事關ハザルモノトシタルナリ、恰モ負債者ニ於テ故障ヲ述  
ル所ハ、債主ハ負債者ヲシテ他ノ債主ニ辨償セシムルコト能ハザルガ



如シ  
然レモ國內平和安寧ニ歸シテ「借地人」ノ義務ハ單ニ貨幣ヲ仕拂フニ止  
マリ最早故人ニ轉事セシメラル、ノ義務ニ至リテハ領主ト借地人  
トノ關係ニ適用スルニ羅馬法ニ於テ「債主ト負債者トニ適用シタ  
ルト同一ノ原理ヲ以テスルニ至リタリ、負債者ニ取リテハ其負債ヲ二  
回仕拂ハシメラル、事無キ以上ハ、誰レニ之ヲ仕拂フトモ敢テ利害ノ  
差無キナリ、之ト同シク借地人ニシテ地稅ヲ二回仕拂ハシメラル、事  
無キ以上ハ、誰レニ之ヲ仕拂フトモ亦敢テ損得ノ差無キナリ、故ニ一  
轉事ノ公賭ヲ殺スルハ土地賣買ニ關スル擾雜ナル制限ナリト思惟ス  
ルニ至リ、數多ノ方法ヲ以テ之ヲ避ケントシタリ、慣例法及ビ遺言法ヲ  
適用ス可キ場合ニ於テハ轉事式ヲ不用トシタリ、而シテ他ノ場合ニ於  
テモ之ヲ避ケタル者多シ、コミン氏著「ダイヂエスト」ノ轉事式篇ニ詳ナ

リ、就テ見ルベシ

リントルトントコークトノ時代ノ間ニ土地讓移ニ關シテ更ニ一回ノ  
變遷アリタリ、即チ數多ノ場合ニ於テ借地人ノ不同意ナルモ強テ轉事  
セシムル事情ノ起リタル事是ナリ

終ニ交付讓移ニ關スル「轉事」ノ事ハ全ク廢絶ニ歸シ、千七百〇五年ノ布  
告第十六號第九章及ヒ第十章ヲ以テ廢止セラレ、土地ハ借地人ノ承諾  
ヲ要セスレテ自由ニ讓移ス可キ者トナリタリ、アーレンノ此ノ布告ハ全  
ク前ニ掲ゲタルアレキサンドル、セフェルス帝ガ債主ハ負債者ノ認可  
領承ヲ得ズレテ其起訴權ヲ自由ニ讓移スルコトヲ得トシタル「法令」即  
チ「憲法」ニ匹敵スル者タリ

此ノ如キ次第ニ由リ、數世紀ヲ經ルノ間ニ訴訟物件ノ性質ヲ有スル土  
地ノ所領ニ關スル法律ハ大ナル變革ヲ經由シタリ、舊時ニ在リテハ始



メヨリ正シク譲移ス可キ者トシテ創造シタル所ニ非サレバ全ク譲移スルニ由シ無カラシメタルニ、今ハ却テ始メヨリ正シク譲移ス可カラザル者トシテ創造シタル者ニ非ザルニ、必ず自由ニ譲移スルコトヲ得ベカラシム、且ツ始メヨリ譲移ス可カラズト定ムル者ト雖モ、多クノ場合ニ於テハ此ノ條款無効ニ屬セリ  
蓋シ此ノ一段ニ於テハ英國ニ於テ土地ヲ譲移スル權利ノ發達ハ「羅馬法」ニ於テ負債ヲ譲移スル主義ノ發達ト同一ノ沿革ヲ經過シタル事ヲ續述シタリ

四十四節 次ニ余輩ハ英國ノ「法律並ニ衡平裁判」ニ於テ見ル可キ負債即チ訴訟物件ノ譲移ニ關スル理論ノ發達ヲ尋究セントス  
「普通法」ノ最モ舊キ著述家タル「グラングヒル」ハ「王室裁廳」ニ於ケル負債

回復ノ訴訟ノ手續ニ關シテ數多ノ有益ナル報告ヲ吾人ニ遺セリ、然レモ譲移ノ事ニ關シテハ更ニ記載スル所無キナリ  
「グラングトン」ハ所有ヲ有體無體ニ區別スルノ主義ヲ採レリ、而シテ各種ノ義務ヲ記載スルノ後ニ於テ之ガ脱責ノ諸法ヲ定説セリ、義務ハ償却、義捐、及び書改ノ法ニ因リテ脱責スルコトヲ得可キ者ナル旨ヲ記スルノ後ニ曰、「又改新」<sup>ソウザエ</sup>ニ因リテ脱責スルコトヲ得、即チ義務ガ一人ヨリ他人ニ轉移シ、他人ヲシテ其責ヲ負ハシメ以テ自己ノ責ヲ脱スル場合ノ如キ是レナリ、何トナレバ他ノ一人ノ此ノ契約ニ入ル有ルトキハ、此ニ新シキ義務ヲ生シテ初ノ義務ハ去レバナリ、例ヘバ貨幣ノ場合ニ於テ一人カ他人ノ義務ヲ自己ニ引キ<sup>ケ</sup>タル所ノ如キ是レナリト  
サレバ「ブラクトン」ハ明ニ羅馬ノ「ソウザエ」ニ主義ヲ遵守セリ、之ヲ詳言セバ、負債者ノ承諾ヲ以テ負債ヲ譲移シタルトキハ、讓渡人ハ全



タ其責ヲ免レ、訴訟權ヲ讓受人ニ與ヘテ、契約ハ讓受人ト最初ノ負債者トノ間ニ移ルベシトノ主義ヲ遵守シタルナリ  
並シテ「債主及債受人」ノ承諾スルニ於テハ負債ハ讓移スベキ者ナリトスルノ原理ヲ明白ニ設定シタル者ナリ

四十五節 「借地及ビ其特許狀」ヲ交付スルニ於テ、之ヲ被交付者及ビ其讓受人ニ交付シテ可讓移ナラシメ、且ツ其讓受人ヲシテ自己ノ姓名ヲ以テ交付者ニ對シ起訴スルノ權利ヲ得シメタルト同シク、稱明ニ訴訟物件ト認ムル所ノ年俸モ亦之ト同一ノ方法ヲ以テ交附ス可キ者ナラシメタリ、而レテ交付者ノ稱ヲ以テ始メヨリ讓移ス可キ者トシテ創造シタル年俸ノ讓受人ハ、自己ノ姓名ヲ以テ訴訟スルノ權利ヲ有スト云フ事ヲ明ニ判決シタル先例モ數多アリ

第一ノ訴訟ハ千三百六十八年ニ起リタリ、ヒーヤフオールドノ僧侶ジヨ  
ンノ讓受人ナル三人ノ僧侶ハテ、長老ニ對シテ年俸ノ仕拂ノ訴訟  
ヲ起シタリ、長老ハ之ニ答フルニ彼ノ三僧ハ訴訟物件ノ讓受人トシテ  
出訴スルノ權無キ旨ヲ以テシタリ、然レモ裁判所ハ出訴ノ權有リト判  
決シタリ

第二ノ訴訟ハ更ニ此ノ主義ヲ確定セシ者ナリ、ボスウオルスノ僧ブル  
クハ終身年俸ヲ其被與者及ビ其讓受人ニ附與シタルニ被與者、之  
ヲ讓移シタリ、而シテ讓受人ヨリ附與者ニ對シテ訴訟ヲ起シタリ、被告  
ハ此ノ如キ年俸ハ讓移シ難キ者ナル旨ヲ以テ論争シタリ、然レモ四人  
ノ法官ハ皆同意シテ此ノ訴訟ノ受理ス可キヲ明言シタリ  
次ノ訴訟ハ全ク爭論ノ端ヲ閉ヂタル者ト謂フ可シ、グレゴリーナル人  
アリテ、某及ビ其讓受人ニ証狀ヲ以テ租銀受領ノ權ヲ終身附與シタル



ニ被與者ハ之ヲ讓移セタリ而シテ此ノ讓受人ヨリ仕拂請求ノ訴ヲ起シタリ時ニ法庭ハ之ヲ判決シテ曰某及ビ讓受人ニ附與シタル租銀受領ノ權即チ訴訟物件ハ附與者ノ明言アルニ因リテ既ニ讓移ス可キ者ナリトス何トナレバ制限ト協議トハ能ク法律ニ勝ツノ格言アレバナリト

此ノ主義ハ後又年俸ノ讓受人ヨリ起セン訴訟ノ判決ニ因テ更ニ確定ニ至リタリ此ノ訴訟ニ於テ被告ハ年俸ハ讓移シ得可キ者ニ非ズ且ツ訴訟物件ハ國王ノ特許アルニ非ザレバ讓移スルニ由シ無キ者タル事世俗ノ皆知ル所ナリト論シタリ然レモ判事ハ皆異論無シニ年俸ハ讓移ス可キ者ナリト判決シタリ此ノ訴訟ノ後ハ再ビ此ノ主義ヲ疑難セシ者無シ

以上數件ノ訴訟ハ實ニ英國「普通法」ノ訴訟物件ノ讓移ニ關スル主義ノ

凡ソ契約ニ依ル自餘ノ所有ヲ支配スル法律ト同一ナル事ヲ十分ニ確定スル者ナリ此ノ物件ヤ固ヨリ負債者ノ承諾ヲ經ズレテ讓移シ得可キ者ニ非ズ然レモ始ヨリ負債者ノ公然タル承諾ニ依テ讓移ス可キ所トシテ創造シタル者ニ在リテハ此ノ承諾ノ口頭ニ係ルト文章ニ係ルトヲ論セス此ノ如キ義務ヲシテ讓移ス可カラシムルノ効力アル者ニシテ讓受人ハ義務負擔者ニ對シ訴訟ヲ起スノ權利アルナリ何トナレバ制限ト協議トハ能ク法律ニ勝テバナリ「普通法」ハ契約ノ自由ヲ完全ニスル者ナリ若シ甲ニ於テ只ダ乙ニノミ仕拂フ事ヲ約ストキハ只ダ乙ノミ仕拂フ請求スルノ權アルベシ然レモ甲若シ乙若クハ讓受人若クハ持參人ニ仕拂フ事ヲ約セシトキハ讓受人若クハ持參人ニ於テ仕拂ヲ請求スルコトヲ得ルナリ何トナレバ義務者ハ初メ此ノ契約ヲ創造スルモ既ニ其讓移ヲ承諾シタルモノナレバ契約ノ共知ハ彼レト持



參人ノ間ニ存スレバナリ

四十六節 次ニ講究ス可キノ點ハ英國ノ「普通法」ハ負債者ガ負債讓移ニ關シテ承諾ヲ示サヤルトキノ場合ニ關スル困難ヲ何如ニシテ調理セシヤニ在リ、既ニ羅馬ノ衡平法ニ於テハ讓受人ヲシテ讓渡人ノ轉事人トシテ訴訟スルコトヲ得シメ以テ「法典」ノ制限ヲ避ケタル事ヲ記シタリ、然レモ英國ノ法律ニ於テハ始メヨリ「羅馬法」ノ如キ制限アリシヲ見ザル所ニシテ、ヘンリー八世ノ時既ニ讓受人ヨリ讓渡人ノ姓名ヲ以テ訴訟スルコト有リ、或ハ又讓渡人ヨリ讓受人ノ委任者トシテ訴訟セシコト有リ、則英國ノ法律ハ訴訟物件ノ訴訟ニ關スル此ノ最後ノ式ヲ廢スルコトアーンノ布告ヲ以テ轉事ノ主義ヲ廢シタルカ如クナラズ、從テ尙ホ未ダ「羅馬法」ノ簡易ナルガ如クナルニ至ラザルナリ、蓋シ讓受人

ヲシテ自己ノ姓名ヲ以テ訴訟セシメンガ爲ニハ負債者ノ轉事ヲ必要トス、而シテ「衡平法」并ニ「法律」ハ讓渡人ヲ催迫シテ其姓名ヲ讓受人ニ假サシムルナリ

サレバ今尙ホ存スル「法律」ノ規則ニ於テ、手形ノ讓受人ヲシテ自己ノ姓名ヲ以テ訴訟スルコトヲ得シメンガ爲ニ負債者ノ承諾ヲ必要トスルモノハ是レ全ク舊時ノ轉事主義ノ遺物ナリ、英國ノ「法律」ヲシテ羅馬ノ法律、衡平法及ビ「蘇格蘭」ノ「普通法」ト同一ノ地位ニ登ラシメ、訴訟物件ノ「法律」ヲシテ轉事ヲ廢止シタルアーンノ布告以後ノ土地所領ノ法律ト同一ナラシメント欲セバ、須ク此ノ制限ヲ掃除スベキナリ

「衡平法」ハ「羅馬法」ノ既ニ十分ニ完備シタル所ニ基ク者ナルヲ以テ、常ニ債主ニ於テ負債者ノ承諾ヲ得ズシテ訴訟ノ「權利」ヲ讓移スル十分ノ權利アル事ヲ主張セリ、而シテ之ヲ讓渡スニ於テハ、則讓受人ヲ催迫シテ



其姓名ヲ以テ負債者ヲ訴訟スル事ヲ讓受人ニ許スニ於テ始メテ約定ヲ全了シタルモノタラシムルナリ

故ニ訴訟物件ヲ讓移ス可カラズトスルノ論ハ今全ク舊體ノ寫影ニ屬ス、此ノ如キ謬妄ナル制限ヲ存スルハ決シテ今代ノ精神ニ合フ者ニ非ザルガ如シ、讓渡人ヲレテ其姓名ヲ讓受人ニ藉シテ訴訟セシムルハ其實義務者ヲシテ讓受人ニ轉事セシムルニ外ナラズ、故ニ負債ノ自由讓移ハ現時ニ在テ事實ヲ爲シ、舊普通法ノ主義ハ却テ假制ニ屬セリ

アーレンノ法令ヲ以テ轉事ヲ廢シタルト同様ニ法令ヲ制定シテ、此ノ假制ノ遺物ヲ掃除シ去ラン事何如ニ必要ナルカ、又、普通法ノ裁廳ハ何如ナル點マデ自ラ此ノ假制ヲ棄却スルノ權利アリト思惟スルヤハ茲ニ論ズ可キ事ニ非ザルナリ、蓋シ「普通法」ノ裁廳ハ大ニ衡平法ノ主義ヲ採用スルニ至リタル事既ニ著明ナル事實ナリ、且ツ二人ノ有名ナル裁判

官ノ意見ハ正シク、普通法裁廳ノ掌握スル權威ニ於テ此ノ舊來ノ假制ヲ廢棄シ得ベキ事ヲ贊成スルモノ、如シ「判事アサルト」曰「舊時ニ於テ法律裁廳ハ決シテ衡平法若クハ委托ノ事ニ關係スル事無カリキ、何トナレバ委托ハ衡平法廳ノ所轄ナレバナリ、然ルニ近年ニ至リ、委托ニ關スル裁判ヲ他庭ニ移スハ大ニ冗費ヲ要スル者ナル事ヲ發見シタルニ付キ、正理明白ニ原告ニ歸スル事ヲ見ルニ於テハ、法庭ハ之ヲ他ニ移サズシテ直ニ受理スルニ至レリ、委托ニ關係スルコト既ニ斯ノ如クナル以上ハ、何ア更ニ深ク衡平法ニ注目セザルノ理アラシヤト

他ノ有名ナル商業上ノ訴訟ニ關シテ判事ブルレルハ曰「我カ古書ニ於テハ假効訴訟ヲ爲サシメンガ爲ニ之ニ係ル証書ヲ他人ニ讓移スル事ヲ避ケンガ爲ニ、訴訟物件ハ他ニ讓移ス可カラズト定メタリ、此ノ規則ノ果シテ有益ナルハ甚ダ疑フ可キ所ニシテ、現今ハ勿論舊時ニ於テモ



既ニ解釋レ去ラレタル所ナリ、最モ強ク之ヲ云フモ是レ單ニ訴訟ノ形  
式ニ對スルノ故障タルニ過キズ、中余ハ其實既ニ去リタルノ後ニ至リ  
テ其影ヲ守ルノ要ヲ見ザルナリト

同シ判事ハ他ノ訴訟ニ於テモ亦曰、余ガ此ノ法庭ニ坐スルコト十五年  
ナルニ、其間此ノ類ノ事件ニ關シテ衡平法庭ト法律裁廳トノ間ニ區別  
ヲ立テザルヲ得ザルニ至リタル事ヲ見ザルナリ、余ハ常ニ同一ノ商業  
事件ニ關シテ種種ノ裁廳ニ種種ノ規則ノ行ハル、コトヲ公衆ニ害ア  
リト思惟セリ、則余ノ意見ハ此ノ點ニ關シテ常ニ均一ナリ、蓋シ不動産  
ニ關シテハ一定不變ノ規則アルガ爲ニ、法律裁廳ハ常ニ其牽制ヲ被リ  
テ決シテ此ノ規則ヲ避クルコト能ハズ、但シ衡平法庭ハ此ノ法律ニ背  
反スルコト能ハズト雖モ、而モ之ヲ補正スルコトヲ得ルナリ、是レ二廳  
ノ權限ニ差別アル所以ナリ、然レモ商業上ノ問題ニ關シテハ、嘗テ區別

ヲ立ツ可キニ非ザルナリ、我國ノ商法ハ衡平法ノ主義ニ基テ立タル  
者ナリ、故ニ一々モ所有ノ規則トシテ衡平法庭ニ於テ一規則ヲ立ツル  
トキハ、法律裁廳ニ於テモ之ヲ遵守セザル可カラザルモノナリト

四十七節 負債ノ讓移ニ關スル真正ノ普通法ノ主義ハ左ノ如ク定説  
スルコトヲ得ベレ

(第一)負債者ニ於テ只ダ債主ニノミ義務ヲ交付ストキハ、負債ノ讓受  
人ハ自己ノ姓名ヲ以テ負債者ヲ訴フルコト能ハザルナリ

(第二)然レモ彼レ債主ノ姓名ヲ以テ訴ヲ起スコトヲ得ベレ

(第三)若シ負債者ニ於テ義務ヲ債主及ビ其讓受人、若クハ其名差人、若  
クハ持參人ニ交付スルトキハ、是レ即チ明白ニ讓移ヲ承諾シタルモ  
ノナレバ、債主ハ自由ニ之ヲ讓移スルコトヲ得ベク、且ツ其所持人ハ



負債者ニ對シテ起訴ノ「權利」ヲ有スベキナリ、何トナレバ負債者ハ自ラ承認シタル契約ニ依テ束縛セララル、者ナレバナリ、制限ト協議トハ能ク法律ニ勝テバナリ」  
右ノ主義ヲ確定スルノ緊要ナル事ハ此ノ事件ニ關スル普通ノ論說ヲ研究シタル者ノ了知スル所ナリ

○信約証書

四十八節 夫レ「信約」ハ「可交易權利」即チ「經濟上可量物」ナリ、從テ賣買スルコトヲ得可キ「富資」ナリ、貨物」ナリ、然リト雖モ其固有ノ體裁ニ於テハ手ヲ以テ受授レ得ベキ者ニ非ズ、是ニ於テ希臘人ハ此ノ「權利」ヲ物品ノ上ニ記載スルノ方法ヲ發明シタリ、此ノ方法ノ發明以來、權利モ亦他ノ物件ト同ク手ヲ以テ受授スルニ適シタル者トナレリ、此ノ記載シタ

ル契約ヲ「チーログラフ」即チ「手跡」ト稱シタリ

羅馬人ハ義務記載ノ方法ヲ用ヒザルコト久シ、之ヲ用ヒタルハ實ニガイエストシヤスチニヤントノ時代ノ間ニ在リ、而シテ此ノ方法ヲ用フルニ及ビテ希臘人ト同一ノ名稱ヲ執リタリ、且ツ負債者ノ証書ヲ所持スル債主ヲ稱シテ「チーログラフハリウス」ノ債主ト稱シタリ

近世ニ至リ此ノ如キ証書ノ體裁ノ尋常使用セララル、者極メテ多シ、故ニ之ガ總稱ヲ立ツルノ要ヲ生ジタリ、而シテ往時ノ報告書類ニハ往往「負債証書」ノ名見エタリト雖モ、近時ニ至テハ一般ニ稱シテ「信約証書」ト云フナリ

「羅馬法」ニ於テ「インストルメント」ト稱シテ「証書」トハ記載セル証書、若クハ人ノ保証ノ如ク、總ヘテ權利ヲ確証スル所以ノ者ヲ指シタリ、會典第一四章第英國ノ法律ニ於テ「インストルメント」ト云フ者ハ或ル事實ノ



証據即チ記載ヲ含メル公書ノミニ限レリ、故ニ信約証書トハ負債ヲ記載シタル証據ノ意義ナリ

「信約証書」ニ四種アリ、第一「貨幣仕拂ノ令狀」第二「仕拂ノ契約」第三「預託稱スル銀行ノ信約」第四「通常アイ、ユー、エー」ト稱スル負債ノ承認、「アイ、ユー、エー」ハ我レ故ニ負フト云フ語ノ略字ナリトス

四十九節 **羅馬**ノ法律學士ハ「信約」ノ理論ヲシテ十分ナル精密ノ有様ニ進マレタリ、然レモ實際ノ發達ハ稍後レタリ、是レ蓋シ負債ハ譲移スルコトヲ得テ、法律モ亦爲替手形ノ譲移ヲ支配スベキ一切ノ原則ヲ含蓋シタリト雖モ、實ニ末年ニ至ルマデ義務ヲ記載スル法ノ使用セラレザリシニ因ルナリ

**ビザンタイン帝國**ニ於テハ商業証紙ノ使用何如ナル點マデ進ミシヤ

ヲ研究スルハ無用ナリ、只ダ現時ノ爲替手形ノ制ハ第十二世紀ノ末ノ頃ニ至リ始メテ世ニ出テタルト云フノ一事ヲ以テ足ルベシトス  
是レヨリ先キ法王ノ權威ト驕慢トハ漸ク増長シ、十字軍ノ時ニ至リテ遂ニ一切ノ耶蘇宗國ニ租稅ヲ課シ、以テ其之ヲ扶持スルノ權利アリト主張シタリ、時ニ法王ハ別ニ貨幣取扱人ヲ置キ之ヲ「カムピヤートルス」ト稱ス、是レ即チ寺院ニ於テ書札ヲ備ヘ禮拜ノ爲ニ來集スル外國人ノ貨幣ヲ兩換スル事ヲ司ル者ナリ、又代理人ヲ諸國ニ派遣シテ法王ノ貢租ヲ徵收セシメ、十分ノ金額ヲ領收スルトキハ、則其處ノ長僧ニ宛テタル手形ヲ以テ法王ニ拂ハシメタリ、此ノ手形ヲ「リットレー、カムピトリエ」即チ兩換人ノ手形ト稱シタリ、此ノ手形ハ固ヨリ其派出國ノ通用貨幣若干ヲ一定ノ爲替ノ割合ニ從ヒ以太利貨幣ニテ仕拂フ可シトノ本店ニ宛テタル令狀ノ體裁ニ出テタリ、其使用法ハ速ニ商業上ニ傳播



レタリ、而シテ第十三世紀ニ當リ、ヴェニスノ元老院ガ立テタル法律中  
 既ニ「リツテレイ、カムビ」ニ關スル者有リト云フ、第十二世紀ノ中頃ニ  
 於テフロレンス人ハ大ニ貨幣取引ノ事務ヲ運營シタリ、而シテ其例ハ  
ルカ、アスチ、セイナ、ミラン、ブラセンチヤノ如キ他ノ以太利亞ノ都會  
 ニ於テ模倣スル所ト爲リヌ、佛國ノカホルモ亦貨幣ノ中央市場トシテ  
 以テ有名ナルニ至リキ、故ニカホルシニカホルト云ヘバ高利貸ト意義  
 ヲ同クスル事ト成リヌ、而シテ詩人ダンチハ彼等カ高利ヲ貸スノ罪  
 ヲ以テ奇怪ナル同類ト共ニ地獄ニ在ルノ狀ヲ記セリ、爲替手形ノ最モ  
 早キ者トシテ今日ニ存スルハ千三百八十年ニ於テ振出シタル所ニ係  
 レリ、西班牙ノ著述家カブマニハブラダスノルカ商人ヨリバルセロ  
 ナノ取引先ニ宛テ、振出シブラダスニ於テ賣買セラレ、バルセロナニ  
 至リテ不渡シト成リタル千四百四年ノ手形ノ尙ホ存スル事ヲ記セリ、

ヴェニスノ博物館ニ於テ、ヴェニスノ商人ヨリ倫敦ノ取引先ニ宛テ、  
 振出シ不渡シニ逢テ拒却セラレタル第十五世紀ノ手形數多アリ、此等ノ  
 手形ニ於テ更ニ流通ス可キノ意ヲ含メル語無ク、恰モ現時ノ蘇格蘭ノ  
 手形ニ於テ此ノ語ヲ見ザルガ如シ、數多ノ學士ハ爲替手形ガ何如ニシ  
 テ流通スルニ至リタルカヲ知ルニ苦ミ、或ハカルシナル、リセリウノ發  
 明スル所ナリト云ヘリ、然レモ前文ニ記スル處ヲ以テスレバ全ク此ノ  
 難問ヲ開發スルニ足レリ、是レ實ニ紀元後二百二十四年ノアレキサン  
ドル、セウエルス帝ノ「憲法」ニ於テ流通ス可キ者ト定メラレ、ジャスチニ  
ヤンノ法典ニ於テモ繼承シテ終ニ歐洲一般ノ法律ト爲リタル者ナリ、  
 然レモ英國ノ「普通法」ニ於テハ、手形ハ「負債者」ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ  
 「請取人」ノ他ニ仕拂フベキ所ニ非ズトシタリ、故ニ往日ニ在リテ既ニ現  
 時ノ若クハ名指人ト云ヘルト同一ノ意ニ出テ、手形ヲ「債主」及ビ其轉



事人ニ仕拂フ可キ者トスルノ通慣アリタリ、マスレウ、パリスハ千二百三十五年エンノ寺院ノ負債ニレテ倫敦ニ居住スルミランノ商人(其人ニマデ、若クハ其數人ニマデ)ニ仕拂フベキ手形ノ書式ヲ引用セリ

五十節 「爲替手形」ハ只ダ外國商人ノ間ニノミ行ハレタル者ナリ、仕拂ノ約束ノ體裁ニ出ヅル「手形」ハ全ク商業ノ慣例並ニ「普通法」ニ於テ認承セザル所ナリ、且ツ此ノ如キ「手形」ハ仮令讓移ノ語ヲ有スルモ「普通法」ニ於テ通用ス可キ者ト認定セザル所ナリト臆想スル者世ニ多シ

然レモ此ノ如キハ全ク誤謬ナリ、現ニエドワルド四世及ヒヘンリー七世ノ時代ノ倫敦ノ風俗ヲ記シタル書籍ノ尙ホ存スル有リ、通例アルノルドノ年代記ト稱スル者は是レナリ、此ノ書中エドワルド四世ノ時ニ當リテ通常使用セン所ノ手形ナリトスル書體數多ヲ載セタリ、就中持參

人ニ仕拂ハル可キ約束楮券トシテ振出セン爲替手形、及ビ「請取人」及ビ「其轉事人」即チ「讓受人」ヘ仕拂ハルベキ通常ノ約束楮券アリ

此等ノ証書ハ世人ノ多ク知ラザル所タルガ故ニ余輩ハ其ニヲ記載スベシ、左ニ掲グル者ハ則「爲替手形」ノ書體ナリ

爲替ノ書簡

倫敦ノ府民ニシテ且ツ小間物商タル余アル、エナルハ同府ノ商人エン、エヨリ爲替ニ依テ二十磅「ステルリング」ヲ負ヘリ、其二十磅「ステルリング」ハ次ノ十六日ノ市ニ於テ同市ノ通貨ニテ六志「八片」ニ換フル。九志「四」グロート、フエーシング「ノ割合ヲ以テ右エン」若クハ此ノ手形ノ持參人ニ仕拂フベシ、萬一仕拂ノ一部又ハ全體ヲ誤ルコト有ラバ此ノ遲延ニ因テ發シタル一切ノ費用并ニ元金トモ必ズ皆濟スベシ、就テハ余、余ノ遺産取扱人及ビ一切ノ所有ヲ其孰レノ處ニ在ルヲ問



ハズレテ抵當トセン事ヲ契約ス、其証トシテ余ハ紀元千四百八十二年三月十日ヲ以テ此ノ手形ニ姓名ヲ記シ、且ツ調印スルモノナリ。此ノ爲替手形ノ餘ニ現時約束、捺、稱スル証書ノ書式ヲ載スル亦甚ダ多シ、其ハ重ニ請取人及ビ其轉事人ニ仕拂ハル可キ者ナリ、然レモ又左ノ如キ書式ノ者モ有リ

仕拂ノ手形

王エドワルド四世即位ノ十九年七月四日ノ此ノ手形ヲ以テ倫敦ノ雜貨商リチャード、シリ―及ビ小間物商トーマス、シリ―ナル私等ハ倫敦ノ小間物商ダブリウ、ワルボイ及ビジョン、ベンソンニ三十八志ニ片ニステルリングノ債ヲ負ヒ、右兩人、若クハ其一人、若クハ其嗣子、若クハ其遺産取扱人、若クハ讓受人ニ對シ遲滯無ク來七月一日ヲ以テ辨償スベキ事ヲ契約シ、此ノ辨償ヲ十分ニ且ツ誠實ニセンガ爲ニ、私

等ハ私等ノ自身、嗣子、遺産取扱人、及ビ讓受人ノ各自並ニ悉皆ヲシテ義務ヲ被ラシメ、其証トシテ私等ハ同日同時ニ調印スルモノナリ。

右ノ書式ニ依テ見レバ、エドワルド四世ノ時ニ於テ約束捺券ノ體裁ヲ以テ爲替手形ヲ振出シ、以テ其持參人ニ仕拂ハシムル慣例アリシ確証トス可キナリ、且ツ名指人若クハ讓受人ニ仕拂フ可キ約束捺券ヲモ通例使用シタリシ事ヲ確証スルニ足ルナリ、蓋シ此ノ書式ハ此ノ時ニ至リ初メテ起リシ者ニ非ズ、却テ彼レ通例慣用ノ書式ナリシ事實明瞭ナルガ故ニ、余輩ハ其既ニ久シク行ハレタル者ナル事ヲ信ズルナリ、然レモ何如ニ久シク行ハレタル者ナリヤハ余輩ノ言フコト能ハザル所ナリ。

ローソン氏ハエリサベスノ時ニ於テ約束捺券ノ體裁ヲ以テ振出レタル爲替手形一通ヲ示セリ